建築ト社會

第六輯　第三号



若芽

大正十二年三月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入會、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員—地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員—金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員—建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員—建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優過及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルヽコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲ除ク理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長ヲ置キ委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨時委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ノ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ懇睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

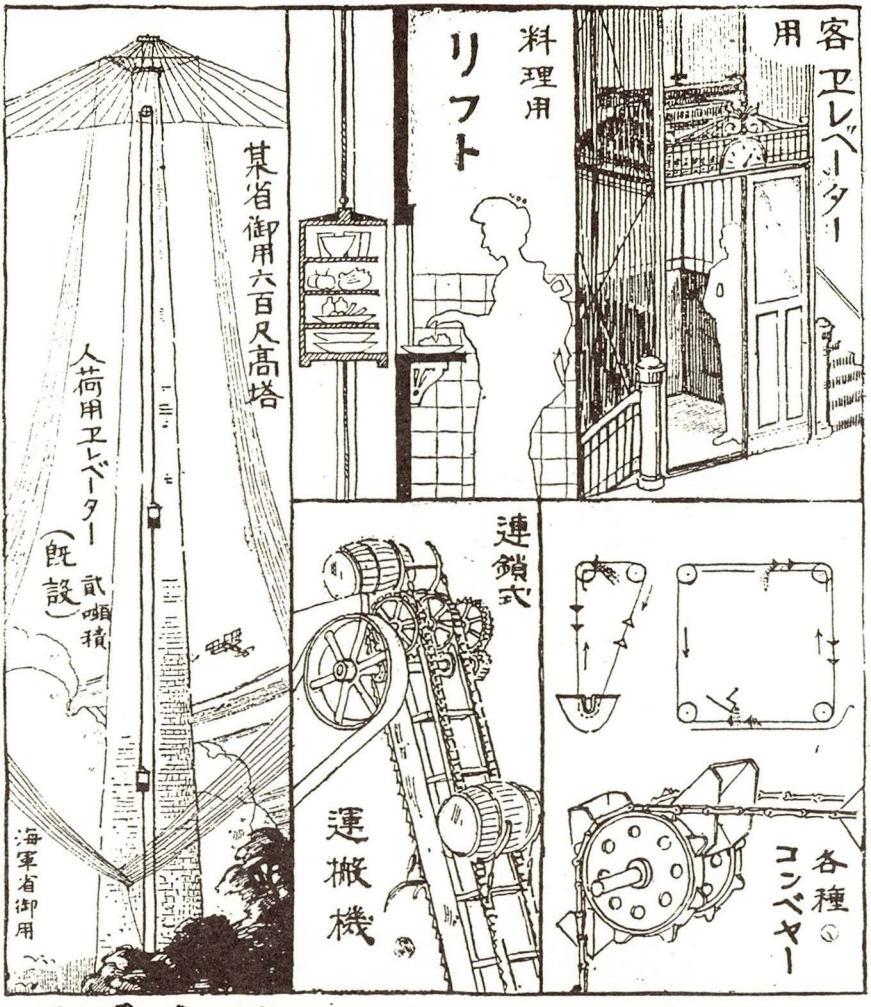
本會ノ財產債權債務及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの権威

（専賣特許六件）



◎日本エレベータ製造株式會社

◎製品營業　エレベーター、コンベヤー。エスカレーター其他捲揚機械設計製作
リフト、ケーブルカー、ホイスト

本社　大阪市東區中道川西町　電話東番三二三三・六〇八五・七

出張所　東京市京橋區内ノ丸ビルヂング六階　電話丸内二〇二二番



建築と

第六輯

口繪

英國バーミンガム市に於けるボーンビル田園村の全景と商店區及び住宅區

〔卷頭〕

▽『生命』の歩み……

〔論說〕

▽建築思想の普及は刻下の急務なり……日本建築協會理事長 工學士 池田實 二

▽都市計畫と屎尿處分政策……上林慶喜 八

▽貧乏人と住宅問題(再び)……楠原祖一郎 一五

▽大阪の橋梁に就いて……加藤善吉 二四

▽什麽ものでしよふ?——女性として考へて居る住宅改善問題——……本誌記者 伊藤二世子 二六

〔研究〕

▽第四次元より裝飾へ(其一)……伊藤正文 三〇

▽當麻寺……池田谷久吉 三七

▽價値材 Zuttungsitz としての建築(一)……山崎萬壽夫 四八



社會　第參號目次

〔都市〕

▽紐育市の人口……在プリンストン大學　Z Y 生　五二

▽進め過群より花園へ(三)……都市計畫技師　大屋靈城　五八

〔住宅〕

▽西洋館の床の組材に就いて——素人のために——……ひろし生　六七

▽船尾の簡易住宅村……翠煙庵主　八一

〔資料〕

▽米國に於ける炭坑夫の小住宅……それがし　八八

〔漫錄〕

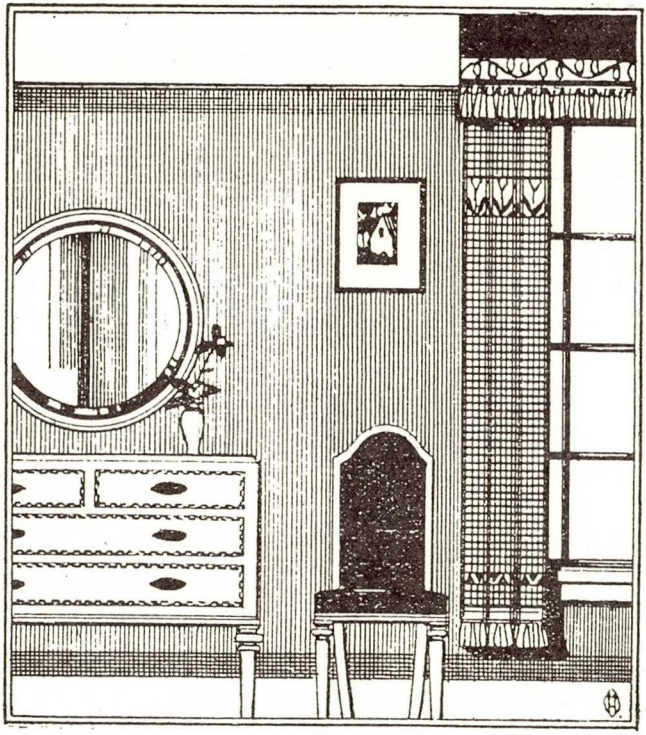
▽斯の一線……江村曠邨　九七

▽東京建築界だより——「巢」から「居住」へ——……文學士　黑田鵬心　一〇四

▽巢の中より……芦田秋双　一〇九

〔會報〕

▽日本建築協會二月中記事



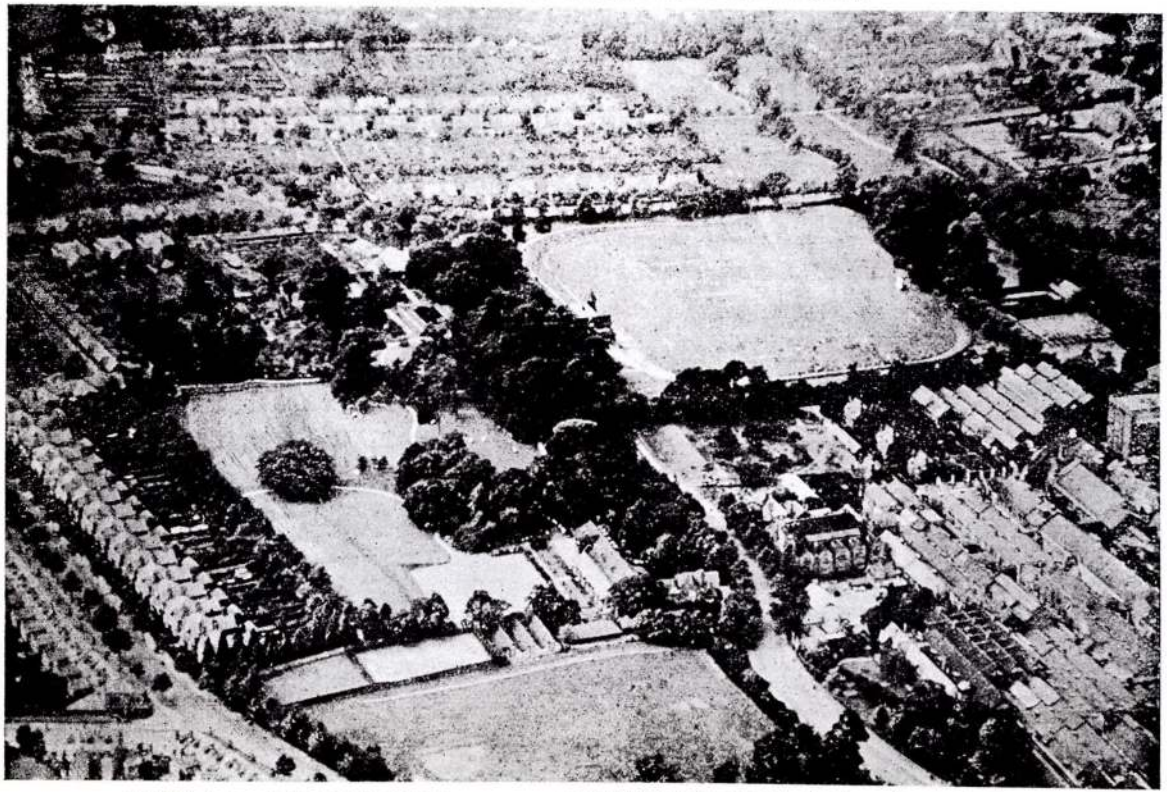
装飾　家具　織物　敷物

堀野洋家具商會

大阪市　中之島　常安橋

電話土佐堀二－四五番

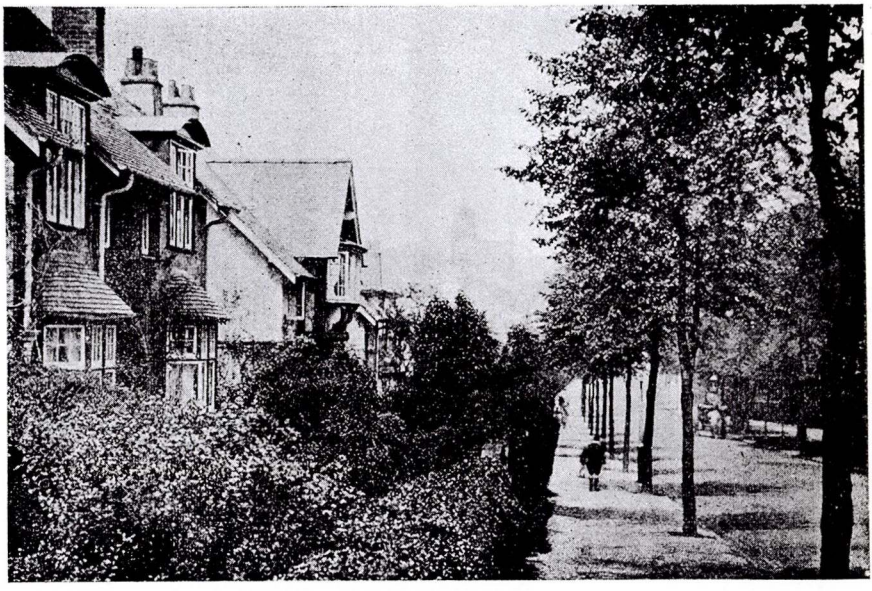
英國バーミンガム市に於けるボーンビル田園村の全景
（場動運は央中、宅住は上及左、場工は右てつ向中圖）



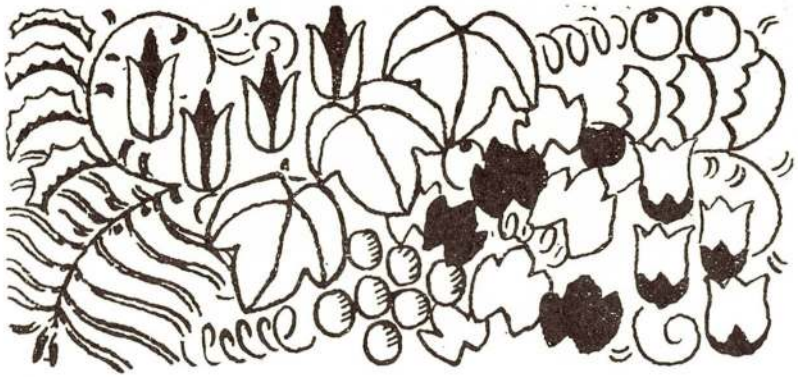
立創年九七八一に爲の工職の社會トーレコヨチるせ營經の分自が氏(G. Cadbury)ーレバドカ、シ
貸を宅住もに工職の般一てしミトスラト、ジーレビ、ルビンーボはで日今がるあでのもたし手着に
（屋大）る居てし達に人〇〇〇、五口人、二五〇、一數戸のそーカーエ二四八積面。る居てけ付し



ボーンビルド田園村の商店區

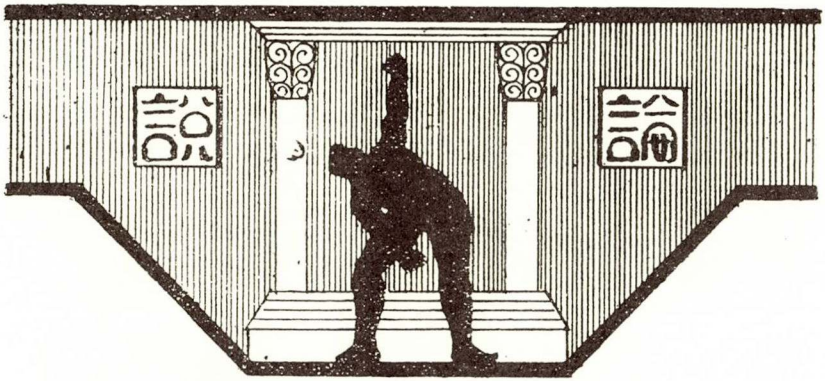


ボーンビルド田園村の住宅區



『生命』の歩み

生命あるものにして、仮に創造なきものは、たゞ昏睡あるのみだ。生活には昏睡がない。昏睡は存在そのものを有つのみである。生活の眞意義は、創造それ自躰だ、と謂つて可い。創造は艸て、「生命の歩み」そのものである。然り、生命は、恐らく永劫久遠の歩みを續けるであらう。而して、その往く手に、永遠な「實在」そのものを凝視して歩まねばならぬ。建築家が建築設計圖に一線一劃を抹するのは、それが自己——生命——の劫遠なる歩みの一と節である。創造に生きよ！、生活を有てよ！、斯くて我等は不斷の輝やかしい歩みを續け得るであらう。（郊）



建築思想の普及は刻下の急務なり

日本建築協會理事長工學士 池田實

一

建築は住といふ人類の本能的觀念に基いて發達し來つたものであることは、食の觀念に依つて料理なるものが發達し、衣の觀念に依りて服裝なるものが進歩し來つたのと同一理由の下に支配せらるべきもので、尙ほ料理、服裝共に美の要素を含んで居ると同樣に、建築も美といふこれも人類の本能的觀念に基いて進歩し來つたことは、建築とは如何なるものであるかを眞に理解する上に於て、先づ第一に留意すべき事項である。此のことは、近世に於けるが如き科學なるものゝ發達せざりし埃及、希臘の如き古代に於て、早くも建築が發達の極致に達したことに徴するも明なる事實で、今茲に絮說する迄もなく、識者の夙に熟知せる所であらう。

人智の發達は時代を經過するに從つて、其の着眼點及研究の範圍が漸次繁瑣の度を高めつゝ進み、細を穿ち微を盡すことにのみ沒頭努力し、又其に拘束せられて、人智の窮極は次第に自然に遠ざかり行き宇宙及人生に對する當初の大觀は自ら之を忘れ、遂には岐路邪道に彷徨するに至るの弊に陷るの傾向を免がれ難い。從つて達眼の士は時に大自然に接して之を直觀し、大自然の眞理即ち宇宙律を闡明し、以て人生の針路を指導するの必要があることを切實に感じて止まない。

人生の根本要素たる所謂衣食住に關することに付いても、世人の之に對する思想の傾向は前述の如き徑路を辿ることは數の免がれざる所である。物の本末輕重を分別するの明は常に暗雲に蔽はれつゝある小宇宙たる建築より、更に小なる小宇宙たる服裝、其れよりも尙更らに小なる小宇宙たる料理に向つて一層腐心するに至る。

今世上の實相に關して一瞥を與へやう、今日喰ふや喰はずの少數の極貧者は今暫らく別として、兎に角日々營々として勤勞せる大多數の者に就いて見よ。或る甲種の階級者は勞力の全部を擧げ、食物に代へて他の階級者の到底追從し得ざる贅澤を盡して居る。しかも服裝のことには少しも重きを置かない。住居に至つては寸毫も顧慮する所でない。其の生活費の分配は決して正鵠を得て居るものとは言へない又他の或る乙種の階級者を見ると、其の收入の全部を傾注して服裝の美をのみ誇つて、他の階級者流のとても企圖し得ざる贅澤の極を盡して居る。しかも其の口にする食物の粗惡にして、其の起臥する住居の陋屋なること、所謂裏店にして、服裝と建築とを對照すると、掃溜に鶴が降りた樣だとの譬を以て評することの出來る程不權衡な生活を爲しつゝあるものも尠くない。

又眼を轉じて少數階級ながら、所謂富豪の生活に就いて見ても、其の大勢から言へば、其の贅澤否寧ろ道樂の第一は、食衣、第二は遊樂、第三に至つて初めて住宅又は別莊の建築である。其の順序又は內容の詳細に至つては種々な例外もあらうが、とにかく建築は其の最後最終に屬する。所謂迷信者に言は

せると、自分の住宅を新築すると、其の主人は其の竣功前又は移轉後間もなく死ぬるといふことを唱へるものもある。これを綜合して見るに、建築なるものが、特に大層に思はれて居るのと、人慾の極が遂に建築に歸着することに基くので、漸く老境又は頽齡に近いて、初めて大自然に歸復する所以を暗示するものである。が一面に於て其れと同時に衣食住三者の本末輕重を世人が誤解せることを雄辯に物語るものである。換言すれば世人一般が建築に關する思想の缺乏して居ることの反映である。

二

今や都市計畫の時代に於て、其の關係する所のものは極めて多方面ではあるが、之を實現する執行者の種類に付いて大別すれば、即ち二となる。其の一は公共團體で、其の二は市民である。公共團體の直接施行するものは、道路、運河其の他の交通機關、公園等所謂土木事業又は公園事業に屬するものであるが、都市人の直接執行すべきものは建築事業である。昨今經濟界の不振につれて一部に都市計畫の延期又は中止などの僻論を耳にするが、國家の重要なる要素が都市である現代に於て、しかも何等の物的秩序のない亂雜極まれる今日の都市の狀態に察し、尙日一日と徒に膨大しつゝある趨勢に鑑みて、殊に既に非常に遲れたる時期に遭遇せる我國の都市に於ては、斯の如き姑息論には傾聽する價値はないが、今假りに百歩を讓りて少しく其の歩武を緩るとするも、其れは主として土木公園事業に屬するもので、建築事業に至りては、其の影響を蒙ることはない筈であるのみならず。寧ろ經濟界の不振時は、堅實なる方面に於て一層建築事業を起すべき最も好適時である。而して都市構成の物的要素の主體は勿論建築物其の物である。換言すれば都市は建築物の集團に外ならぬのである。これは建築物のなき所其所に都市は存在せぬからであるといふ一言にして、明らかに都市に於ける建築物の地位を表示して居る次第で

ある。

部市は建築物の集團であつて、建築は市民の思想と金力の表現である。從つて都市計畫の完否は一面市民の經濟狀態に依るもので、之は今遽に如何ともすることを得ざる事情のもとにあるものとしても、他面に於て其の思想の發達せると否とは、同一程度の金力のもとに於ても建築物の良否を左右するの結果を招來することを充分に理解し深く宇記せねばならぬ。

一體建築に關する學術智識なるものは元より專門家の關與すべき所のものであるけれども其の事項は他の工學に屬する機械又は電氣或は化學に關する程特殊的のものではない。從つて建築思想なるものは寧ろ常識的のもので、文化市民たる資格として必ずや保持すべき部類に屬する常識事項の主要なるものゝ一であることに留意すべきである。

人類の共存性は都市に於て、都人市民として一層其の度を高める、其處に共同生活を全うすべき自治心の發達を必要とし、其の根底は犧牲といふ美しい精神の發露に俟たねばならぬ。都市建築は、其の用途に於て、材料に於て、構造に於て、將又美的趣味に於て、農村建築の其等と非常な相違があるべき筈である。過去に於けるが如き徒に農村の密集して町を形成し、其の擴大して都市となれるが如き狀態の儘にて、都市に對する眞の理解、都人として市民としての眞の自覺なき思想のもとに將來に向つて推移せむとするは明に時代錯誤の譏を免れない。

之を又手近な例について一考して見ると、料理の趨勢に徵するも、現時と過去とは其の間多大の差違を認めるであらう。即ち少數者の宴會に於ては其の和會と洋食とは並行せられつゝあるが、多數者の宴會に於ては洋食式の方確に適當なることを否定することは出來ない。又服裝の點に於ても、住宅内に於ける休息靜養狀態の際は寬な和服を適當とするが、事務的、工業的、運動的等凡て活動狀態のときは洋服を以て最も適當とすることは既に異論なく實行せられつゝある所である。建築に於ても亦然りである

べき筈である。

一面趣味の點より見るも、從來の和風建築は、農村、田園等に於けるもの又は住宅としてこそ適當なれ、都市建築としては其の用途上は勿論材料及構造の關係上洋風を適當とする。而して趣味性なるものは人類の進歩につれて其の種類及範圍を擴大すべきもので、少き種類及狹き範圍内にのみ跼蹐するは自然の眞理に反し宇宙律に背くものである。

都人市民たるものは、地主として、建築主として、家主として、將又借家人としても、都市建築の眞諦を理解する爲め建築思想の涵養に心掛けて、公德の一として高唱する吾人の所謂建築道德の遵守に務むべきである。

三

都市計畫は都市の衛生、保安、交通、經濟等に關し都市人の福利を增進すべき使命を以て居るが、建築の必須條件の主要なものは、尙之と全然其の軌を一にし、究極する所、生命の依托、健康の保持、財産の保護、活動能率の增進、經濟の利用、美的趣味の滿足に歸着する、其の詳細に至りては又稿を改めて說く積りである。

世人の建築思想の欠乏せること少くも幼稚なることは、其の甚しきに至つては、建築を以て土木の一分科に過ぎないと思つて居る人もある。建築と土木との差別を判明しないものも多い。其れ程でないとしても、世人の大部分は建築とは、地中に基礎を設けて、周圍に柱を立て壁體を造り、之に入口と窓を開け、屋根を以て覆蓋とし、内部に床を張り以て了れるものなりと考へて居る。從つて建築家の任務とは、普通の大工の其れと大差ないと心得て居るものも尠くない。誤解も亦甚しいといふべきである。何

等建築上の素養智識なき素人が、勝手に土地を選定して建築敷地とし、精練せられざる條件を與へて、建築の設計を強い、建築家を使役し得たりとして、得々たる無智の人の多き比々皆然りである。其の點に關しては、從來建築家の側に於ても亦罪ありといふことを避くることは出來ない。或は單に美的方面のみに沒頭し、或は唯構造方面のみに關與して他を顧みず。全體としての統一せられたる建築の根本的研究を疎外した傾があつたと同時に、建築思想の普及に努力しなかつた失策もあつた。學校に於ける建築教育にも缺陷が少くない。建築學は其の總論に於て建築哲學の根本的研究に出發し、建築心理を闡明し、人生、社會、國家との關係を深く考慮して其の根底となすべきである。今之を詳述するの餘裕を有しないが、只一言、建築は小宇宙なり、といふに止めて置く。

曾て美的生活を論じた人もあつたが、又人生の藝術化を說く人もある。とにかく人世は藝術であると見ることが出來る。而して建築は綜合藝術である。神の創造せる人類が、宇宙に於ける萬物の靈長であるといふことが正しいものとすれば、同じく意味に於て、あらゆる人工は建築に綜合せられる。從つて建築は人工の極致であると稱することが出來る。

歐米先進國に於ける建築家の地位は、辨護士及醫師の上に置かれて非常に尊重せらつゝある事實に想到して見ても、我國に於ける建築思想の普及が刻下の急務であることを說く一證左とすべしである(了)

都市計畫と屎尿處分政策

上林慶喜

一

都市生活は文化生活の基調であり、文化生活が人間自然の欲求である以上、我が住む都市、我が住む家を出來るだけ、利便に、健全に、そして快適ならしむべく其未解決なる問題を總ゆる現代科學の力で解いて、其處に一味暉然として組織あり統制ある永久的設備を施すのは今や寔に餘儀なき時代の必要である。都市計畫の全目的は茲にあり、都市衛生の施設を完成する事は其最も大なる目的の一である。此意味に於て都市改造の事業は都市の排泄物處分を出發點とせねばならぬ、特に糞尿問題の現狀を見る時一層此感を深ふする。

二

都市病の系統は大体二つに分れ、其一は消化器系傳染病たるコレラ、チブス、赤痢の類、其二は呼吸器傳染病たる結核であるが、此中前者の病菌は主として屎尿の中に存するのであるから屎尿問題を解決する事は即ち消化器系傳染病の大半を防止する所以であり、後者の呼吸器傳染病は住宅地域の制定、煤煙防止、家屋の改良等に俟つの外はない。

故に屎尿問題の解決は今や大小都市を問はざる緊急問題と化し、各都市當局者は夫れ〳〵中間的處分政策を樹てゝ急場を凌いでゐるが、今や根本的に此問題を解決すると否と單は、なる行政上の問題たる

に止まらず、都市生活そのものゝ脅威たり、市民各個の生命の安固を確保するか否かの問題たらんとしてゐるのは上記の事實より推考して當然の事乍ら今更の如く吾等は其切迫したる現情を痛感せざるを得ない。

現在各都市に行はれつゝある屎尿處分方法に三ある。一は便所を從來の儘にした汲取式、二は各戸又は數戸毎に淨化裝置を設けて汚物を淨化放流する式、三は東京市の如く大下水道に沿道の屎尿全部を集め一般下水と共に一氣に處理して放流する方法である。

三

外國の都市に於ても初めは皆貯溜運搬法に依つたものであるが、近世人口の急激なる增殖と都市の區域膨脹とは次第に屎尿運搬に高價な支拂ひを餘儀なくせられ、一方在來の便所の構造は如何に工夫するも眞に清潔を保持する事困難で、且つ之が運搬排除は決して衛生上完全に行はれるものでない事が判つたので多くの都市は斷乎としてウオータークロセットの强制法を採用し、都市の衞生狀態を根本的に改良したのである。

汲取方法に依る處分法の到底其始末を完全にする事の不可能な事は、我國都市に於ても最早充分明瞭になつた。更に都市生活者としては周圍の總てが文化的に改められ行くに反し便所のみ舊式の不潔、臭汚なるものを其住居に有することの矛盾に氣付かざるを得ない。各都市に於て論議せられ、當局者の困惑する屎尿問題とは、言ひ換ゆれば汲取の困難、便所の不潔、都市病の五〇%を占むる消化器系傳染病を排除せんとする市民必死の要に他ならぬ。

四

西園寺公が他人の家を初めて訪問する時、必ず其家の厠を觀るといふのは有名な逸話であるが、一家の中で一番汚穢な所とせられてゐる便所の有樣が其家の主人の人格を反影するとは成程一つの見方に相違ない。が更に寒心すべき現象は都市に於ける繁華な地域は勢ひ過群生活となる結果、借家の敷地面積は自然に切り詰められ、現に船場、九條、日本橋方面に於ては台所の中に便所の汲取口があり、汲取の際は食堂の疊の上に莚を敷いて肥桶を搬出する家が少くない。其住居者が不斷の臭氣と汚穢なる狀態に惱まれ抜いてゐる狀態は殆んど默視するに忍びない。此狀況に於て如何にして眞の都市文化が生れる道理があらうか。

英國エドワード七世陛下が曾て倫敦の非衞生地區を整理して建設した模範住宅の竣工式に臨まれた時の祝辭の一節に

「非衞生地區は總ゆる罪惡の根原地である。住民の身體も住民の精神も之れが爲めに破壞せられ、不法の罪惡反道德の行爲は總てかゝる土地より生ずる。都市として此罪惡の根原を絶つより急なるはない。」

と極言されてゐる。衞生設備の不完備が都市住民の良心を罪惡の方面に導くといふ事は今や爭ふべからざる事實である。

五

又便所が如何に傳染病の流行と關係あり、其良否が衞生上の影響大なるものであるかはノッチンガム市に於ける腸チブス發病者と便所との關係調査報告にも明瞭である。

便所の狀況　　患者發生割合

一、地中壺を埋めた式　　三十七戸に付患者一人

（千戸に付二十七人）

二、運搬し得る小槽式　百二十戸に付患者一人

（千戸に付八人三三）

三、水洗便所式　五百五十八戸に付患者

（千戸に付一人七九）

倫敦市が巨大なる工費を投じて下水道工事を完成するに至つた主たる動機は千八百卅一年同市に於けるコレラの大流行であつたが同四十七年乃至五十五年歐洲各國共に再度の流行あり、死者相踵で生じた際其根源は便所に糞尿を貯溜する事に在るを突止め、直ちに道路の側溝を經てテームス河に放流するを許し、斷乎として屎尿を貯溜する非衛生狀態より脫出したのは有名な話である。

本年二月廿五日、死後二百年記念日を擧行されてゐるクリストファー、レーン氏の倫敦改造案は御前會議に於て否決され、倫敦として取返しのつかぬ大失敗をやつたが、當時氏の献策の一部であるウォータークロセットは直ちに全市に普及して市の衛生狀態を根本的に改良した。

六

飜つて我國の狀態を見るに、最近三十年間大阪市に於ける死亡者總數の四分六厘は傳染病であり、其傳染病の七割は實に消化器系傳染病たるチブス、コレラ赤痢である。更に明治四十年から大正五年迄の十年間に於けるチブス、赤痢のみに就て見るも

病別	患者	死亡	全傳染病ニ對スル百分率
チブス	八、四八五	二、五二五	三四、六%
赤痢	三、三四	一、〇二〇	一五、二%

にして全市傳染病患者總數の五〇%を占めてゐる。

今大阪市に於ける大正六年より十年迄の傳染病患者及死亡者別調を見るに左の如し。

大阪市傳染病患死者年別調

	大正六年		大正七年		大正八年		大正九年		大正十年	
	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者
虎列刺	一四	九	—	—	六二	四〇	三九二	一六六	—	—
赤痢	九五五	二五四	一、〇五八	三一〇	四八五	一六四	四七八	一四五	四四〇	一一六
腸窒扶斯	一、四一七	三五六	一、五六一	五〇九	一、六七八	四四六	一、一八九	三一三	一、一九九	二九三
巴拉窒扶斯	二一二	四七	二九七	六九	三八二	七二	二三四	四八	二五九	四八
痘瘡	一、〇〇七	二七七	一六	六	二二八	六七	四二七	一二八	四六	三
猩紅熱	五一	九	四五	一	六〇	五	七八	一一	八三	六
ヂフテリア	六五八	一八六	五一七	一四一	五三五	一二七	五八六	一三九	四三〇	一三二
流行性腦脊髓膜炎	—	—	五一七	三四三	五七七	三四二	二二六	一二四	一二七	八九
合計	四、三一四	一、一三八	四、〇一二	一、三七九	四、〇〇七	一、二六三	三、六一〇	一、〇六四	二、五八四	六九六

此の恐るべき人命の損害は其十中八九迄、糞尿を其儘貯溜して殊更に病菌の繁殖を助長する舊式の汲

取便所が傳播の最大原因をなし、ペストの如きも其媒介者たる鼠、蠅類に日本便所が好適した巢を與へてゐる事が蔓延の速かなる一大理由をなしてゐる。

之を要するに都市衛生改善の第一歩は實に日本家屋の便所改造に在り、傳染病防止、都市文化の進展に對する根本策は屎尿處分政策の確立に在る。

七

雨水、屎尿混流の大下水道が完成せぬ間、或は當分大規模な大下水道計畫を實現し得ぬ都市に於ては市民各戸に夫れ〳〵淨化裝置を取付けて其排泄物を處理する方法を採用せねばならぬ。

現在、我國に行はれてゐる淨化方法は第一水洗便所式、第二FS式（藥品法）第三電氣淨化法等があるが、電氣によるオゾーン淨化法は尙實際問題としては其實行が困難であり、FS式は水を用ひざる藥品淨化法として簡單な家庭に用ひられてゐる。

吾等の茲に注意を要するのは、從來日本に行はれ來つた汚水の淨化裝置が餘りに單純に歐書の飜譯を其儘受入れ過ぎてゐる事で、進歩した應用化學的見地から見れば、其裝置の構造、材料の撰擇等に當つて餘りに無頓着な取扱ひは寧ろ驚く程幼稚なものである。其爲めに途方もない大規模な設備を必要とし都市生活者をして其裝置の採用に躊躇せしめつゝある事は一面都市改造の機運に一大障害を與へつゝある事を否定し得ぬ。

然し最新科學の力は化學的に汚水淨化法に一新紀元を劃すべき動機を與へた。從來不可能とせられた腐敗槽中に於ける硬質纖維の溶解法、酸化裝置に於ける化學的幇助法、純化學的酸化法の完成は即ち之れである。

八

水洗便所の汚水淨化裝置に於て從來最も困難した問題は糞塊中に排泄せらるゝ硬質纖維及び共に流入する紙、綿等のツエルローゼが溶解せられずして、短きは一ヶ月、長きも三ヶ月或は一年目毎位に機械的に之を掻上げ、別に之を燒却し又は他の方法で處理する必要のある事であつた其手數の煩雜で非衛生的なるは謂ふ迄もなく其度毎に槽内汚水を一應全部汲取り排出するを要し、爲めに槽内の嫌氣菌は一旦絶滅せられ無酸素狀態も其度毎に破壞せられるから腐敗槽の能率を夥しく減殺される。之れが人工的「ツエルローゼ分解酸素」の完成に依つて解決せられ、更に化學的酸化法の完成した事は從來の不安定な裝置を如何に安定化したかは言ふまでもなく其工費面積に於て節約をなし得る事莫大なるものがある。

九

都市改造の機運は熟してゐる。吾等は最早都市計畫事業の第二次行動に移らねばならぬ。夫れは我が都市計畫の目標を都市衛生施設の完備に向ける事である。假令、道路に黃金を敷き、建物に輪奐の美を誇るとも、其屎尿處分設備にして完成せず排泄物處分問題の解決を怠るならば、其計畫は虎を描いて眼睛を點せざるもので、それは眞の都市計畫にあらずして跋の都市計畫である。

往年倫敦市民が大火の災厄に會し、斷然として都市衛生の根本的改造のためウオータークロセットを造つた勇氣と決斷とは今や我國都市生活者の三思すべき事柄であらねばならぬ。然し之れを具体化するには問題が都市自体の施設に俟つ事と市民各個の手に成し得る事との二樣に分れるから市理事者、識者先覺者が先頭に立つて輿論の喚起に努め、市民全体の愛市心に訴へ、延いて其改めねば屎尿問題の完全なる解決は期せられない。

吾等は今後、更に各先輩の指導により、愛する都市文化進展のため、先づ我が住む都市の屎尿處分政策を確立したいと思ふ。種々なる研究資料は近く一纏めにして公刊の豫定である。

貧乏人と住宅問題（再び）

楠原祖一郎

本論に入るに先ちて

余は、客年十二月號の本誌に於て、住宅問題と貧乏人との關係に就き、極めて粗雜なる統計を以て其の概觀を試み、本論を構成するに要する提示を爲す處があつた。それに依ると、今日大体に於て貧乏線上にあるもの乃至それ以下にあるもの、生活と住宅との關係が、一面に於て住宅改良問題が極めて有力なる一個の社會問題となつて居る今日に於て、甚しく憂ふべき傾向を豫見し得る事である。

如何に貧乏人と雖も一人當りの疊數の割充は、最低に見積つて五疊を有せなければならないのであるが、如何にせん今日の狀態では、斯くある事を望むに止まり實際に就て見るを得ざるものである。極めて狹少なる家屋に多人數の人々が混住するは種々なる點に於て惡結果を齎すは、敢て余の指摘を待つ迄もなく明瞭なる事に屬し、住宅改良問題に於ても、一家屋に居住する人間を最低限度に制限する事も、その有力なる一要素たり得るもので一度眼を住宅の改良に下すものあらば、唯しも首肯し得るものなのである。

而して大阪市に在住する多數市民中、市の行政費を保證し得ざるものが、却つて市の社會政策の對照となり、市費負擔の能力なき事に依つて彼等の住む住宅の改良が叫ばれ乳兒の死亡率低下文化生活の促進と並んで市民生活の向上が問題となるのである。

余が本論に於て取扱はんとする處、一にかゝつて市民生活の向上にありと雖も是を詳言すれば、先づ以てその住宅の改良を圖り、市民生活の衞生上社會上並に經濟上の地位をして向上せしめんとするにあるのである。

余は本論中主要なる論旨として指摘し得るは即ち貧乏人が、粗雜なる家屋に住する事に依つて、如何に社會上、經濟上、精神上、有形無形の損害を享受しつゝあるやに存じ、是の論旨を鮮明ならしむる事に依つて、次冊に於て取扱はんとする、住宅行政に關する豫備的提示たらしむるを得るのである。

余は凡て余の取扱ひ得る問題に關しては、一に其の內容を概論し、二に於てはその概論に依つて批判的檢討を加へ、三に於てその運用論即ち政策的方面を序述する事とし居れるも、時には前後混合するは免れず、本論も又此の順序に於て論述するものなりと雖も、論旨前後なきを保せず、或は一貫を期し得ない事も又あり得るだらうと思はれる。それは讀者諸君の明識に依つて叱正さるゝを得ば、余の幸とする所である。

社會衞生と貧乏人の住宅

今日新設さるゝ一夜作りの家屋は、數ケ年後に於ける貧民の居住する中心地となり得る關係に置かれるものであつて、實に住宅問題を論ずるものゝ、思ひを茲に至さなければならぬのである。一定の樣式に從ひ、家屋の建築に當つて、採光通風排水濕度音熱等を考慮し、家屋の間隔に就き適當なる距離を有せしむるならば、是等の家屋は衞生上極めて有力なる役割を演ずるもので、一朝衞生上憂慮すべき事態が發生されたる場合に於て、住宅の密接と、一家屋の居住人員の多寡が、此の事態をして、險惡ならしむるか否かを解決するもので、住宅建設の當事者が、是を想起しつゝ他日の場合に備ふる所があれば、必ず、有力にその役割を果す事を得るものである。

今例をペストの流行に求むるに、ペストは一萬圓病とも稱し、一人のペスト患者を出す事に依つて、一萬圓の公費を以て此の防疫に當らなければならぬのであるが、昨年九月に市内の南區田島町其他に於て發生せる各ペスト患者の居住せる家屋は、實に是れ、採光通風排水等建築學上の主要々素を無視せるもので、木材土石を用ゐて空間を塡充するに過ぎざる、非藝術的なる建物である實に市内各區に亘つて建築されたる家屋の大部分は、只だ人體を疊敷の上に横へしむるに適すれども衛生上不可欠の要素を具備するものとては、實に雨夜に星を仰ぐが如きものである。さればペスト病毒をして仲介する鼠族の如きは到る處床上床下に繁殖し、實に數十萬圓を投じて、數萬人の人が此の絶滅の爲に奔走せざるを得ざる迄に、社會を脅威するのである。若し斯の如き場合に於て、よし家屋の構造が主に木造なりと雖も家屋の周圍に繞らすに空地を以てし、排水に、採光に、通風に適切なる施設あるに於ては、病毒の波及は斯く迄廣汎に亘らずして濟むきべである。累年惡疫流行の聲巷間に滿つるもの、蓋し如斯不衛生なる家屋をして、賃貸して恥ぢざる非社會的なる家屋の持主の責任亦輕からずと云ふべきである。余をして云はしむれば、如斯粗雜なる家屋に住する貧乏人が、かく恐るべき病毒を波及せしめたるものに非ずして此の事あるを豫期して家屋の改良に銳意せざる家主又は、都市行政の當面者に於て、其の責任を負荷すべきであると思ふ。若し夫れ春秋の筆法を以て當局其の人を攻撃するに於ては、ペスト民人を脅威するに非ずして、資本家並に行政當局民人を脅威すと云ひ得るのである。

而して更に日常の都市衛生に就て考ふるに、現在の粗雜なる家屋は、啻に都市美を汚損するのみならず、都市の有機的進展を著しく阻むものと云はなければならぬのである。今此の貧乏人が住む家屋の密接せる度合に就て、最近大阪市に於て調査せるものを見ると、市内の總宅地坪數は六百四十六萬九千一百八十六坪で、此の地上に建設された家屋數は二十二萬三千二百〇九戸である。而して是が、現住戸數を見ると、三十一萬六千一百二十七戸で、是に居住せるもの、員數は、百五十八萬三千六百五十人とな

つて居る。尙ほ是が比率を見るに、宅地千坪に對し、家屋が三十四戸五一の割合にて建てられてあり、現住人口を割充てゝ見ると、二百四十四人八〇と云ふ割合になつて居る。右の數字の結果から見て、一戸宛の平均坪數を見ると、1000.294.51であるから其の最後の數字は二八坪強となるが、是は統計の上での數字であると假定しても、果して一戸當りの宅地二十八坪餘で、社會衛生不可能の條件を細大漏さずして具備せしめ得るや否や、余甚しく是を疑はざるを得ない。二十八坪と云へば、疊數にすれば、五十六疊を敷き得るが、然し周圍に空地を存する事を條件の一つとして持つ以上は、五十六疊の間蓋し廣しとは云ひ得ぬのである。以上所論の如く、現在の貧乏人向住宅は、住む其の人貧乏人ならずと雖も是が改善向上を策する事は目下の有力なる住宅問題の一要素として、余等研究の對照となり得る關係に置かれてゐる次第である。

市民生活の淨化と貧乏人の住宅

別節所論の衛生上の見地に立脚して住宅問題を見たる次に位すべき要素はCommunity Life即ち密集生活の淨化、換言すれば市民生活の淨化である。(此の生活の淨化が必要であると斷言するに當つて、私の立場を明かにせなければならぬ。私は純理經濟學上では唯物史觀を奉ずるもので、精神的要素——即ち生活の淨化の如きがそれ——は社會の經濟的構造の進化發達に依つて左右され得るものなる事を信じてゐるものであるから、此際私の立場から云ふならば、市民生活の淨化の上に、市民の經濟生活に關するクリチックを加ふべきであるが、經濟的構造より市民の生活を解釋する事を最後に延ばして、私の所論を進むるつもりであつて、決して精神的要素の爲に唯物史觀の立場を讓歩した譯のものではない)

由來密集生活は極めて、市民の感情的生活の重要なる部分を滅殺さるゝものであつて、近者社會問題の解決策として民衆心理の淨化運動を計畫するものもある位であるから、社會生活に潤ひを帶びさせる

事は相當考慮され得る性質の問題である事は事實である。現に歐米の各都市では、リツツルシャアターム―ヴメントだとか、コンミユニチイブレーハウスの建設とか、シヴキックミユヂックアツソシエーションの組織とか、ミユニシパルアートコンミツテイの編成だとか云ふ、市民の感情生活の淨化が計畫され又現に行はれて居る。然し乍ら、是等の運動が決して貧民本位の運動だと云へない。所謂余が本論の冒頭に一句附加したるが如く『食ふ心配のない今日の或る階級の人々の口』から提唱されてゐる、文化生活の問題としてゞあつて、余の見る所に依れば貧乏線の上下を浮動してゐる階級には、餘りに緣の遠い話で一種ブルヂヨアチックスキームであると云ひ得ると思はれる。余の提言するに至りし淨化運動はかゝる公衆運動ではない。先づ自己の還境をして淨化すると云ふ意味の問題なのである。余が斯く提言する事に依つて、或は、非社會的なるエゴイズムな暴論だと云ふ批判も起り得ると思はれるが、然し乍ら余は決して非社會的なる推論を試むるものではない。其の日〳〵の問題に急を告げてゐる貧乏人に、果して斯の如き大衆的なる生活淨化運動に入り込み得るや否や、即ち自己の意志とは何等の關係を有せざる方面に自己の心意を注入し得るや否やは、大に考ふべき所で、先づ自己還境の淨化是が、最も貧乏人の住宅狀態を向上せしむる有力なる、要素となり得るのである。

自己生活內容の淨化が、近隣に及ぼす所となり近隣の區域が延張されて、市民生活の淨化となる。即ち貧乏人は最初より愛他的運動には入り込むを拒む心理を有せるが故に――絕對的には斯く云ひ得ざるも――先づ愛己的運動を起さしむる。即ち是は最も策の得たるものにして、又實蹟の擧り得る策である。

かくて是が運動として、一般の貧乏人に行ひ得る策は社會的團結に依る家屋の改造運動である。自己を社會の一員として、自己の意志にて他との聯絡を圖り、先づ最も手近き所より家屋の改造運動を起し而して家庭生活の淨化を圖る事にある。現在の住宅を根本的に改造するの意味ではなく、衛生上の條件の具備と相俟つて、有意義の生活身分相應の生活を營むべく便せしむるにある。余が提言する市民生活

の淨化運動は是等の貧乏人の手に依つて、ゼネラリーに客觀的なる市民の文化施設を造らしむるを以て其の目的とするものではない。それは他の公の手に於て營むべき性質のもので、貧乏人の一私人等の集合が手を染むるべき性質のものではないのである。

貧乏人の集團意識が、自己を愛する事より出發して、社會的なる住宅改造運動を起し、家庭生活の淨化より、惹いてはその家庭をして、より社會化せしむるに便ならしむる事を望む事に依つて、『市民生活の淨化』と云ふ命題が成立するのである。

經濟關係と貧乏人の住宅

余は前二項に於て、現在の貧乏人の住宅なるものは、極めて、衞生上精神上、不利なる立場にあるを論述したが、本項に於ては、貧乏人の經濟上の立場から見て、現在の粗惡なる家庭は、貧乏人に如何なる影響を與へてゐるかを論述したいと思ふ。

凡そ人間には如何なる人間と雖も、其の生活に慾望の伴はざるものはない。されば、唯しも粗惡なる家屋に居住して、自己の滿足をそれに依つて見出し得てゐるものゝなからう如く、等しく金殿玉樓と迄は行かずとも居宅の構へ方に於て、起居座臥の餘裕ある文化的價値を有する家屋に居住する事を欲する筈である。即ち貧乏人が當時隘慘なる家屋に多人數居住してゐるのは、決して自己の慾望より出でたるには非ずして、慾望ありと雖も、その經濟的關係が、此の普通的慾望をして實現せしむるに由なきよりかくは、何人も自ら好まざる所に居住してゐるのであつて、思へば實に一考を要する事である。

先づ貧乏人として最先に指を屈する人々、即ち貧乏線以下の、貧乏人と見るを得る月收五十圓以下の人々の住居せる地方別の家賃等に就て、協調會の調査せるものに依れば、東京地方は十三圓五十錢平均で、是を最上とし次に九州地方の七圓十三錢平均が是が次に位し、名古屋地方の四圓三十二錢東北地方

の四圓二十錢等が最下等の平均である。又世帶人員數で一番多數を示してゐるのは、九州地方の四、七で次に名古屋地方の三、六、東北地方の三、五其他は大抵同じ所であるが、是を統計にて示せば、大体次の如き數字を辿り得るのである。

△月收五〇圓迄の俸給生活者の居宅狀況

地方別類別	調査一戸平均收入	世帶人員	室數	疊數	家賃	金造作	家賃一疊分	一人當疊數
	戸數							
東北地方	一〇	三、五人	二、五室	一五、九疊	四、一〇円	〇、一七円	〇、二六	四、五
東京地方	三	四、八三	三、〇	二、七	一一、〇	三、五〇	一、二三	三、七
名古屋地方	五	四五、九五	三、六	二、四	一三、九	四、三二	三、〇〇	〇、三一	三、九
大阪地方	二	四三、八八	三、〇	二、〇	八、三	五、七五	—	—	〇、六九	二、八
中國地方	九	四四、〇六	二、八	二、二	一一、四	五、三三	三、三三	—	〇、四九	四、一
九州地方	三	五〇、〇〇	四、七	三、〇	一三、八	七、一七	—	—	〇、五二	三、〇
平均	三三	四五、四二	三、三	二、四	一三、二	五、八四	六、〇〇	一、九三	〇、四四	三、九

右の統計の示す所では、全國各地方の平均に依つて見ると、三十二戸の調査成績は、平均四十五圓四十二錢の收入ある人で、三人三分の家内と共に、五圓八十四錢の家賃を拂つて、二室と四分の家に居住してゐる事を示して居る。尚此の統計に擧げてはないが、收入に對する家賃の割合と云ふものは、一二%八四であつて、即ち收入に對して一割二分強の家賃を拂つてゐる事となる。

尚右の俸給者と同程度の職工の家屋の居住狀態を見るに、是亦殆んど同一なる數字を示し、兩者の間特異的なる差等を發見する事は出來ない。

△月收五〇圓未滿の職工の居住狀態

地方別調査戸數	一戸平均 収入	世帶人員	室數	疊數	家賃	敷金	造作	家賃の一疊分	一人當疊數
		人			圓	圓	圓	圓	
東北地方 二	四五、〇〇	二、五	三、〇	二六、〇	四、〇〇	一、五〇	一〇、五〇	〇、二五	六、四
東京地方 六	四六、三〇	三、七	二、〇	八、〇	六、八五	九、八〇	五、〇〇	〇、八六	二、二
名古屋地方 八	四五、三五	三、四	一、八	九、一	四、三三	五、〇〇	〇、三三	〇、四七	二、五
大阪地方 四	四八、四五	二、五	二、五	九、八	七、六一	五、〇〇	——	〇、七八	三、九
中國地方 五	四七、〇〇	三、二	一、八	八、〇	三、四二	——	——	〇、四三	二、五
九州地方 一二	四三、五六	三、一	一、五	八、五	五、二三	八、〇〇	〇、一四	〇、六一	二、八
平均 三六	四五、四〇	三、二	一、九	九、〇	五、二三	五、八三	〇、九六	〇、五八	二、八

それで此の統計を、前の俸給生活者のそれに比較すれば、三十六戸の職工家族で、平均一戸當りの結果は四十五圓四十錢の收入ある人で、三、二人の家族を扶養すべく、一室と九歩の家屋に對し、五圓二十二錢の家賃を支拂ふて居る。そして其の全收入額に對して家賃の割合は一一%四九即ち一割一歩強となる譯で、尙疊一枚當りの家賃は五十八錢で、又一人當りの疊數は二、八疊となるのである。

一人の疊割充數二、八疊尙は忍ぶべしとするも、忍ぶ能はざるは、是等の家屋の、家屋としての條件を備へざるに起因して、經濟上の行爲に及ぼす惡影響である。

家屋が若し家屋としての諸種の條件を具備してゐるとすれば、自然疾病に罹る機會もなく、活動の範圍に就ても、隱慘なる家屋に居住するものと、清明なる家屋に居住するものとを比較するならば、前者よりも後者に於てより多く活動の範圍も擴大し得るものである。のみならず、其の心理的狀態に於て常に或る一定の目的に向つて、行爲するを得ざるが故に、經濟上諸種の損害を受けざるを得ぬ。是を實例

に就て見るに、甲乙兩者が一定の經濟關係に立ち、而して甲の家屋は淸明にして且つ文化的價値を有し乙の家屋は隱慘にして文化的價値を有せざるものと假定するに、甲は一定の精神的愉樂を、自己の家屋が文化的價値を有する事に依り、自己の家庭內に於て享受し得べく、乙のそれは、自己の家屋が文化的價値を有せざる事に依りて、自己の家庭外に於て、享受せざるを得ざるに及び、其間に於ける經濟上の失費等に依つて見るに、甲に比し乙は過大なる負擔を爲して、甲と同程度の精神的愉樂を慾求せざるを得ざるに至るのであるから、家屋の欠點は忽ちにして、さなきだに貧乏に苦しむ者の經濟上の根據を脅威する事となる。

即ち此の意味を更に擴大して論ずれば、貧乏人が、現在の如き關係に於て、居住する限りは結局何時迄、時日を經過しても其の狀態を脫し得ざるものであるが、そは一に貧乏なるが故に非ずして、粗惡なる家屋に居住する事に依つて、貧乏の上塗りをするにも有力なる一原因たり得るのである。

而して余の立場から、是が救濟策を講究するに、そは何れも、貧乏人の經路的關係を今日の狀態に置くか更に今日以上に向上せしむる方法を講ずるかに存し、又、斯くする事に依つてのみ、向上せしめ得るものなる事を信ずるものであるが、そは本題に於て取扱ふべき問題に非ざるが故に、後章に讓つて論述するであらう。

以上論ぜる所は、極めて事實の大体を論じたるに留まりたるも、次冊に於て更に政策論を試み得る豫備的提示たる事を得せしめたるものと信ずる。

大阪の橋梁に就いて

加藤善吉

橋梁を施設する當局又は其設計者に向て惡口を云ふ積りで書いたのでないが、日々電車で通る毎に、市内に介在する大阪の橋梁は、どれもこれも美的關係がなく、其の細部の不調和が甚だしく、吾人の目に付き不快の感を起さしむるので、將來都市計畫其他の關係で改造又は新設さるゝ場合は斯くしたい、と思ふ感想を一寸書いた迄である。

元來商工業都市として發達して來た大阪は、益々物質文明に狂奔して、其れが爲めに、市民は、精神文化其のものを忘却して終つた。即ち、人間の常情である美的趣味、風致、風韻、又は都市美の感念がないことは、橋梁に於ても其の表れが見える。他の建築物と異つて、橋梁の美は力學的表現が適切なるの必要は勿論であるが、それ許りでなく、各部の統一、と云ふ事は、最も必要なことである。大阪市内の橋梁の如く、只單に構造學的計算の具體化したと云ふに止まり、何等統一的な美を有つて居らぬ橋梁は、橋梁としての價値を見ることが出來得ない。橋梁は、都市の美觀上、橋畔の關係、又は其の環境の如何、及び建築物の對照等に重大な關係があるもので、殊に、大阪の如き、市内到る處河川運河の縱橫に貫通する都市に於ては、之に架せらるゝ橋梁は、其れ自身の美的關係及び橋畔の取扱方には、十分の考慮を拂はねばならぬ筈である。然るに、之等の關係に就いて、餘りに冷淡な樣に見受けられる。市内主要なる場所にして、最早改造されてもよいと思ふ橋梁も、依然として不統一、不調和な古代の模樣を有する醜き姿を現して居る。「四ツ橋」は大阪での名物かも知れぬが、之亦不統一、不調和なこと夥しく少しも統一的美を見出すことが出來得ない。其他、到る處皆之れである。元來、橋梁は、土木家の手に

藉りてなつて來た關係上、之等の點に於て遺憾な點が甚だ多いのである。古い橋梁は致方ないとしても「端建藏橋」の如きは近代のものゝ樣であるが、裝飾の不調和此上もない。橋端の裝飾柱は、「セセッシヨン」の新し味を持て居るのに、句欄の模樣は、古代の模樣其儘で、少しも新し味がない。又最近架設された「雜喉場橋」は、周圍に頓着なく不調和な細部を以て架けられた。而し、之れは論ずる程のものでもないが、大阪到る處、都市に適はしき橋梁がなく、其の意匠に到つては、實に醜惡なものばかりである。又、橋畔の取扱方に於ても幵うである。「信濃橋」は、橋幅の狹いのと、電車の幅輳するので、比較的廣い橋畔を必要とするに拘らず、肝要な位置に、不潔な惡臭を發する共同便所が建てられて居る。之等も、もう少し何とか相當の施設がありそうなものである。其他、幾何もあるが、一々擧げるの繁に堪えない。故に、今後の橋梁は、少くとも、周圍の關係を考慮し、隣接せる橋梁ある場合は、之等との對照等に十分の注意を拂ひ、即ち、從來の橋と密接な關係のあるものは、其の意匠を從前のものに倣へ同一のものとして調和を圖るか、又は從來のものゝ改造を豫期して、新設のものは漸々時代化した意匠を以てすることにしたいのである。今日までの狀態の如く、どちら付かずの「カタログ」模樣拔萃は止めて貰ひたいものである。之等も皆土木家のみの手になる爲めであるから、此後、都市の橋梁は、その構造が土木家の範圍であつても、意匠は建築家の職務として、之に關與し、橋梁の統一的美と、橋畔の適當なる取扱方をなし、都市美の向上を圖らねばならぬ。東京では、今の「日本橋」架設以前から、既にその意匠は建築家の手に移つて居るから、大阪でも、幵う成つて居るかも知れぬが、現在の狀態を見ては怎うふても、幵う思ふことが出來ない敢へて建築家の奮鬪を望む次第である。

× × ×

什麼ものでしよう？

―女性としてのわたくしが考へてゐる住宅問題―

本誌記者　伊藤一世子

歐洲の大戰後、日本にも雜多なる思想が輸入され、それが我々日常の生活にも多大の影響を與へて居る事は、今更云ふ迄もありません。それには。種々な體系がありますけれども、之を大觀致しますれば新生命の開拓、新生活の要望、といふ事に歸します。

その中に就いて、生活の改善、就中住宅や衣服の改善といふような事は、近來一般に考へられてゐる處であつて、それ等に就いては、專門家の立派な意見が發表され、又は既に目覺めたる或階級の人達に依て追々實行若くは計畫されつゝある事は、寔に當然な歸向だと存じます。

繁雜な勞働問題や、國家經濟上の雜多な問題が高唱せらるゝ現代に、件の問題も亦最も切實なそれであらうと存じます。けれども、今全く徹底的にそれが改善の方法は、却々の困難な事であつて、盡く實現されると云ふ事は前途遼遠な事であらうと思はれます。

衣服の改良は、さまで面倒な事ではなからうと思ひますが、それよりも先決問題として考慮を要する事は、住宅の改良若くは改善の問題でムいます。私共が、祖先以來住み馴れて來た日本の舊來の住宅は其構造樣式と設備が寔に單純である樣に見えますが、實は非常に複雜で且つ非衞生的であつて、沈思默考靜座してゐるにはよいでしようが、現代の激しい複雜な社會生活には、自由に快活に活動し得て、其居起動作を輕快ならしむる事には、餘程不便を感ずるのでムいます。

一體、私共日本人は、「時」と云ふ觀念が非常に乏しく、其の一瞬時できへ尊い生命の刻みであり意義

深き歩みであるのに、其程貴重なものとも思はず、「時」に對しては極めて鈍感であり平氣でゐられるのは、古來より傳統的の習慣に基くでありませうが、一つには日本の住宅が、時間の流費を平氣で行へる樣に出來てゐるからではなからうかと思ひます。私共が、日々生活するにしましても、又他家へ訪問するにしましても、其處に多くの苦痛と矛盾があります。例へば、それが男子であつては、先づ深い編上げ靴の紐を解いて、窮屈な思ひをし乍ら、折角折目正しくして行つた洋服の形も崩さねばならず、又一度座れば、身體が疊に糊着して仕舞つた樣になり、立上らうとしても足が痺れて容易に立たれず、さうして、着物の裾を皺だらけにする抔は、決していゝ氣持のものではありません。第一、運動だとか、體育だとか何程喧しく申しましても、斯の樣な衛生に適しない家屋に住ふ事は、良い結果を與へないのみならず、殊に女子をして益々優柔不斷に導いて行くであらうと思ひます。此の頃流行の文化生活とやらも現今の社會制度を根本から改革しなければ、進歩的な時代生活は容易に出來得ないのでムいます。それで、私共日々齷齪として生活してゐる者には、今急に與へられないと致しましても、物質的に餘裕ある有產階級の人々から率先して、一歩々々生活改善の實行をして欲しいのでムいます。

衛生上の關係から申しましても、居住の工合から云ひましても、完全とは思へない日本の建築は、常に家の内部にのみある女子をして、引込み思案にならしめ勝ちなのは、當然の事でムいまして、女子の解放とか、女子も男子と同樣凡てに同等の權力を有すと云ふ今日、生活の改善が叫ばれ、住宅改造の必要に迫られるのは當然な事でムいます。新時代の教育を受けた青年子女及び今後の人々は、今迄の如く純日本式のメランコリーな家庭生活に滿足して行く事が出來ませうか。社會の此の大きな矛盾に、不自然な壓迫を感じるに違ひありません。日本の如く其の家屋敷を子々孫々迄も讓り送つてゆく我國で、家を造らむとする人々は、是非とも此の新時代の住宅を建設して、子孫の便利を圖られたいものでムいます、新らしい時代の要求に叶つた建築と云つても、決して、堂々たる立派な洋館に高價な用具を設備し

科學的器具を裝置するのが理想的な建築では厶いません。併し、それを出來得る人は、此樣に完備した結構な住宅を建造し、文明の代表的生活法を實現せられたなら、大いに參考にもなり得る事だらうと思ひます。が、如何に宏莊な邸宅でも、それは、上品で、藝術的でなくては、何の價値もありません。金のあるに任せて、高尙な氣分にも、豐けき趣味にも缺けて、單に俗化してゐるものは、宛も敎養の無い婦人のあのケバ〳〵しい嫌な粉飾のように感じられます。私の申します新時代の理想的な住宅建築とは其の樣なものを云ふのではありません。それは、決して、宏大でなくとも、縱へば科學的器具を備へ付けてなくとも、不用な虛飾や手數の掛るものは省いて、如何に粗末なものでも優雅な美と樣式を完備し簡便で、物質的にも精神的にも住み心地の佳い、藝術味に富んだ、時代生活に最も適はしい住宅を云ふのであらうと存じます。此樣にして、其規模は縱へ小さくあつても、凡てに完全な家屋であれば、起居動作も自然輕快に成り、手數が省ける爲に、時間の空費が無く、仕事の能率もズン〳〵上ると存じますそれは、大きく云へば、やがて國家經濟の上に多大の影響を及ぼすのみならず、人類生活の最大要素であらうと思ひます。それで、兎に角、その建築の大小に拘はらず、自己の案出した家屋を自由に建造して居住し得らるゝ人々は此上もなき幸福でありますが、不幸にして私共無產階級の者は、望むべくも行はれぬ事でありますから、何とかして、彼樣な打算的な現在から脫れる工夫を考へねばなりません。それには矢張、從來も專門家の意見を述べられた事でもあり、又有識者の間にも實際に應用されつゝあると聞いてゐますが、例へば、ビルヂングイ式のものを建設して、其處に共同の庭園を造り、樹木草花を植えて、運動場杯を拵へ、子供の爲には遊戲場を設けて、大家族集團生活を營み、日曜杯には、家族皆が愉快に運動し遊戲する、とか云ふ樣に、したいもので厶います。勿論、これにも、種々な弊害は伴ひませうが、粗惡な建物や、庭園樹木の少しもなく、且つ、日光の當らぬ病人を養成する樣な純日本式の建物に比べては、遙かに勝れたものであらうと存じます。併し、純日本式といつても、頭から惡く云ふ

事は出來ません。例へば、茶聖利久の趣味、南天の床柱、高麗縁の疊にも棄て難き雅趣と風致がムいます。けれども、それは悠長な時代に於ける茶人の觀賞で、棲み馴れたものに對する執着であつて、繁多な今後の時代にあつては、左まで價値はありません。行燈から蠟燭へ、洋燈へ、電燈へ、と變遷し來て行燈よりも、蠟燭よりも、洋燈よりも電燈の重寶な今日、從來の日本家屋が明るい洋風の建築に變つてゆくと云ふ事には、何等不自然な事がありませうか。

今日の日本では、公共的の場所、即ち官公衙、學校、會社等には殆んど歐風を用ひ、私的の建築には大部分日本家屋であるのは、過渡期である今日の狀態としては止むを得ぬ事ではありますが、それは何んとしても不合理な二重生活である事は、屢々誨へられてゐる處でムいます。

衣服の問題にしても、今日の樣な家屋に住んでゐる限り、矢張今の儘の服裝を維持して行かねばなりません。疊の家に洋裝をして住ふ事は、歐風の家に日本服で居るよりも更に不便と窮屈さを感ぜられます。

若し、建築を洋式のそれにするなれば、服裝の改革の實現は容易で、日本婦人の洋裝に就いて兎や角との批難もありますが、之れは各個の身體の工合や、色合等を充分考へて、益々研究してゆけば、きつとよく似つくようになるだらうと思ひます。日本の着物及帶等にも、美といふ點から見れば、いゝ處は多々ありますが、それは、たゞ趣味の上に留めて、女子の運動や職業の爛んに求められゝ今後は、輕快な服裝に改良されねばならぬ自然な傾向でムいます。併し、如何に生活の改善を圖り度いと思ひましても、無產階級や勞働者階級の者では、どうする事も出來得ないのでムいますから、宜敷資本家側と建築專門家の一致を俟つて、差詰め無產者のそれを考へて頂き度いと存じます。

× × ×

研究

第四次元より裝飾へ（其二）

伊藤正文



第四次元そのものゝ研究は最近ヒントン、マンニング等、其他所謂第四次元學者又は第四次元家として知られてゐる人々によつて進められて、各々著作が多く出てゐる。第四次元の研究は興味ある思索的資料であるし、進んで色々の事象の研究にまで考へ方を延長することが出來る。著名なアインシュタイン氏其他の學者達、及び研究者達が此等四次元の問題について語つてゐるものを集めて、邦文に抄譯したものも出版されてゐる。

米國のクラウド、プラグトン氏は數學的オルナメントについて多くの論文著書を出して、その中には建築の雜誌や藝術學として邦譯されてゐるのもある位であるが、その中の第四次元を基礎とした裝飾法について書いたものを譯して見ます。

第四次元そのものに就てはもつと研究でも出來たらば書かせて戴き度いと思ひます。以下譯。

"FORTH DIMENSION" と云ふ題目は解り易いものではないけれども、是まで幸にしてか、設計意匠にたづさはる美術家にとつて、彼の求むる利益を得るには何もそんな蠱惑的な思索の殿堂に入り込む必要はない筈であつた。

所が、若し一面に於て彼が『數學の魔性譚』に興味をそゝられるとしたらば如何であらう。彼の知識や情緒は擴げられ構想は豊かになり、彼の道具箱は最も美しい材料で滿されることになるのだ James Byrnie Shaw 敎授は Scientific Monthly の誌上の一節で此問題を紹介する意味で次の樣に述べてゐる。

——三次以上の代數方程式が改造されるまで第四次の力又は Dimension は存在しないわけであるから第四次の方程式は實在を意味しないものとして擯けられてあつたものだ。處が百年程以前に此怪物は活動の存在となつたのである。而して今日それは物理學に新しき世界を提供し機械學は幾何學となり、時間は空間と共に新しき座標軸を形成した。又世界に於けるこれまでの幾何學的方則は研究室に於て研究された實驗的世界の物理的方則となつた。數學者が人工的に夢みた世界は科學者がガルヴアノメーターやウルトラミクロスコープやスペクトロスコープ等で見たものよりももつと實際であると云ふことが語られるとは、科學者にとつて實に驚く可きことであるに違ひない。

『お前の云ふ四次元の世界は我々の云ふ現象を分析的に說明したに過ぎない。』と云ふかも知れないが、それも問題ではない。何故ならば事實は事實として殘つてゐる。數學者の所謂四次のダイメンションの空間は經驗上からの言葉の意味からは考へられない空間である。

けれども理解力の働で力强く知ることが出來るだけで經驗からは何物をも與へられないのである。之は整理の創造力が作つたものである。而してその對象は立方體、正方形、及圓、又は球形、直線と全く等しい道程に於て實在する。吾人は數學的透察によつて次の事柄が解る。自然力の働の中に自然的(非創造的)で不滅であると

思はれてゐるもと、關係的の世界の空想的の形態と比較して、何れが、より以上非實在的であるとか何れがより以上實在的であるとか云ふことは出來ない。と云ふことを。

此等の想像的形態には美術家のみがかゝはる必要を認められる。若し美術家が或る強い魔力によつて此等の形態を、目に對する音樂としてしまふ程感覺的な幻影の世界に沒入することが出來るならば、最早やそれ以上にその形態から四次元の空間の實在の問題にまで進む必要はない、そして彼は此變態を受入れる爲に何物かを知るに違ひない。少くとも彼等の『ある』と云ふこと(being)の不思議な方則について、その fairytail に耳を傾けさせられる。その中の方則は paradox である、且つ各々のparadoxは數學的事實である。

彼は互に獨立の四つの方向を含む空間を認知させられる。即ちその空間は吾人の已知の方向の各々に直角なる一つの方向を有する。吾人は之を指摘出來ないし、それを描くことも出來ない。併し之は充分絶體的な正確さを以て理由づけられるのである。斯くの如き空間に於ては勿論四つの軸を假定することが出來る。此等の軸は皆一點に會し、互に垂直であることは勿論である。即ちすべて四次元空間の Hyper-solid (超立體)は四軸を有する。

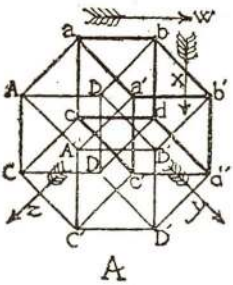
正しき超立體は(三次元空間のプラトニックソリッドに似てゐる)美術家に有用であることを確認せしめる位に空想的な形である。

彼は四つの座標軸に沿ふて進んで考へて見たいと云ふ誘惑を感ずる事であらう。即ち低次のものから高次のものへ、空間から更に超空間へと彼の思考する形を進めたいに違ひない。從て丁度紙の上に表現すると同樣に高次のものを低い次元のものに表はさなければならないのだから四次元の空間か想像出來ないものは三次元の空間をも想像出來ないわけである。こうした方法は誰も皆熟知してゐる方法で透視圖即ち平面の上に立體を描く方法に於て常に用ひられて來た事である。

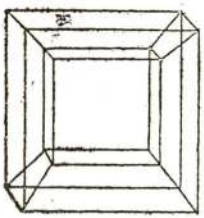
そこで求むるすべての方法は此方法の擴張である超立體は三次の圖形の中に表現されなければな

らない。即ち更に平面に投影出來ることになる。結果から考へるとパアスペクチブのパアスペクチブを作る表理の表現である之は說明されるものにとつては充分明白なことでなければならない。正しい超立體の平面投影はとり所のない位復雜なものになるのがあるが、しかし述者は平均して數學的知識のない寧ろ實際の經驗に訴へて信賴しより

TWO PROJECTIONS OF THE HYPER-CUBE OR TESSERACT, AND THEIR TRANSLATION INTO ORNAMENT.



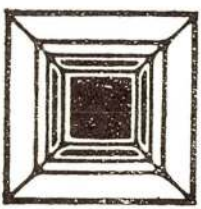
A



B



C



D

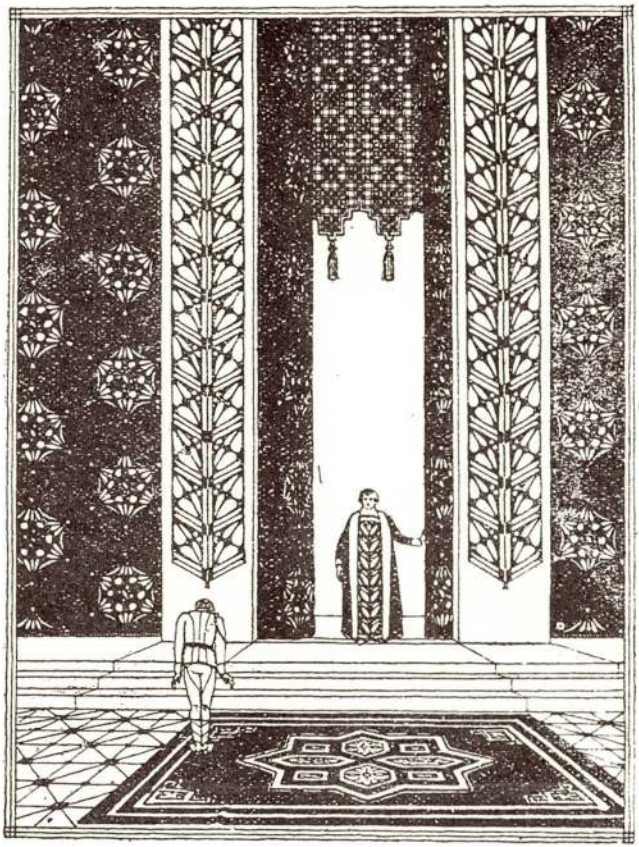
とする人達にもよく理解せしめるだけの確信がある。

扱テサラクト tesseract—即ち超立方體を紙の上に即ち二次元の空間に表現して見よう。

先づ出來るだけ初步の所から出掛て『點』について考へる。圖に於て點『a』は『W』の方向へ運動するものとすると線『b』に發展する。

此線は次に『W』に垂直なる方向に進む、此方向を『x』と名づける。『x』は『w』と等長である。斯くして正方形『a b c d』を形成する。扱正方形は『w』及び『x』に垂直なる方向に運動を有する三次元の空間に進で立方體を作るであらう。即ち平面(紙の面の)外の上か下かの方向へ進出することゝなる。勿論それは不可能事であるが併し三方向は紙の平面上に表はすことが出來る圖に於て右下の方向へ斜に之を表し『Y』と名づけよう。そこで『Y』の方向に於て、『a' b' c' d'』の正方形を得る而してその三次元の運動の結果が基本の正方形を表してゐる。だからその運動に於て正方形の限界點は線を畫き出してゐる。

第二圖



そして二つの正方形の對應する角を線によつて結びつけて一の圖形を作る。即馴れた方法で平面上に立方體の表現をなし得たのである。

茲に於て尙一層深く入らなければならない。立方體は第四次元の運動に進み超立方體にまで發展しなければならない。そこで立方體が吾々お互の空間から外へ運き出さうとすることは考へられない——三次元の世界には超立方體は含まれてゐないから——。しかし立方體それ自身も紙の平面の中に含まれてはゐない。只表はされてゐるに過ぎない。『y』の方向は想像されたもので、適宜に定めらむたものである。だから吾人は同樣の方法で第四の方向を適當に設けることが出來る。之は『Y』に直角である故に左下の方向に斜に進み『Z』の方向とする。『Y』は『W』及『X』に共に垂角であることが知られてゐるから『Z』は三つのすべてに垂直である。

斯くの如くして圖形を完成するに必要なる四つの互に垂直なる座標軸を設定することが出來た。立方體は今度は第四の方向、即ち『Z』の方向へ正方形の一邊の長さだけ進まねばならない。丁度吾々が正方形の場合にしたと同樣にして、新い位置の立方體『ABB′D′C′C』を描き、又前と同樣に第一の立方體の頂點と之に對應する第二の立方體の頂點とを結びつける故に此等の點は一つの線(緣)をつくり、各々の線は平面を作り、又各々の平面は立體を形成する。斯くして出來たものが即ち平面に投影されたる『テサラクト』又は、超立方體である。

之は十六の點と三十二の線と八の立方體を有し『テサラクト』の形を作つてゐる。且つ之等の立方體は對になつて成立してゐて容易に一致する形である圖に於て八個の立方體とは

「abb′d′c′c」　「ABB′D′C′C」
「abdDCA」　「ab′d′D′C′A」
「abb′B′AA」　「cdd′D′C′C」
「bb′d′DDB」　「aa′c′C′CA」

圖に描かれた『テサラクト』は斜のコンヴテンションによつて(或は二點のバアスペクテイヴによつて)示されたものであるが同樣に並行のバアスペクテイヴに當る方法で示すことも出來よう。

立方體の並行バアスペクテイヴは一つの正方形が他の正方形の中にあつて一つの正方形が他の正方形の中にあつて一つの正方形の四頂點を他の正方形の對應する頂點に結びつけた圖によつて示される。此場合には紙の平面からぬけ出る方向、即ち題三次の『ダイメンション』か、第一の正方形の限界内にある樣に見える。けれどもその圖形は第三次元を表現してゐる。そこで吾人は同樣の性質を利用して第四次の『ダイメンション』は、「それを超えたものが、その中に在る。』即ち低次の中に高次のものが表現されるとして認めることが出來る。その場合に於て吾人は圖『B』に示す樣な「テサラクト』の描出を得るであらう。一箇の立方體が他の立方體の中にあり、此二個の間の空間を六個の截形ピラミットに占められ、而して吾々が立方體を示してゐる。大きい外側の立方體は第四次

元へと運動す可き初めの立方體を示す而して内側の小さい立方體は運動の終局に於ける立方體を示すものである。

以上二つの平面のスペースに投影されたる超立方體の形は、極めてテイピカルなものであるに過ぎない。一個の形狀を作る相關的立方體の一かたまり（例へば針金で互に透けて組合つた樣に作つたものに就て考へてもよい）を如何に第三次元空間の一個のシンメトリカルな形として考へるかで色々の變つた狀態の觀念が、種々の異つた方向から得られるものである。

而して各見方は新しい空間の小區劃を生み、且つ總てが韻律的である。——しかもオーナメントとして飜譯し易い形狀である。圖に於て『C』及『D』は『A』と『B』の斯の如き飜譯を示したものである。（未完）

何方か

握り固めて、打下すばかりに振上げた拳か
開いて物欲しげに前に出した兩方の手か
二つに一つだ
だつてお互ひ
その何方かにぶつかつてゐるではないか

當麻寺

池田谷久吉

口位置　奈良縣北葛城郡當麻村大字下田の二上山麓麼古山下にあつて、下田驛から南へ一里、高田驛から五十町西にある。どちからも平坦な道で車馬の便利がある。

口宗旨　眞言淨土兩宗で中世興福寺末となつて（興福寺末寺記による）ゐたが現今は眞言派は金剛峯寺末、淨土は智恩院末となつてゐる。

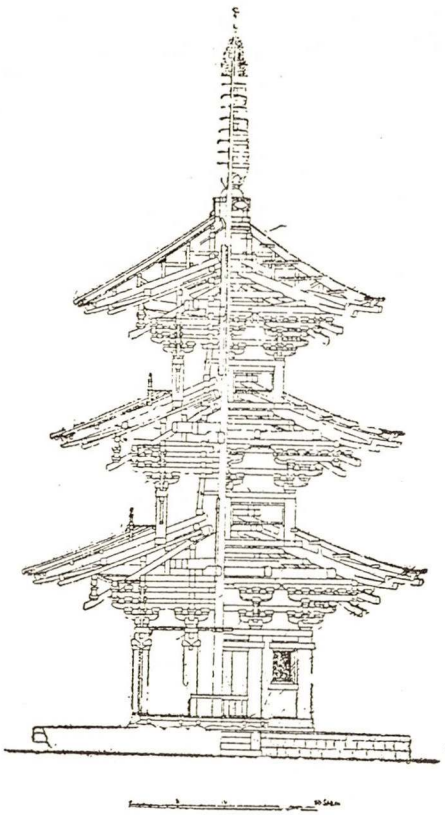
口沿革　推古天皇（三十三代）廿年壬申（紀元一二七二年）用明天皇（三十一代）の皇子、麻呂子王（聖徳太子の御弟）の手によつて河内國交野郡山田郷に建立して『萬法藏院禪林寺』と稱してゐたが、天武天皇（四十代）白鳳十年壬午（紀元一三四二年）皇子の孫、當麻國見によつて大和國現在のところに（以前は役の小角の宅蹟であつたとも傳へられてゐる）移し金堂、講堂、東西兩塔、鐘樓、經藏、三面僧坊等を建立して白鳳十四年に移轉落慶供養したものだと傳へられてゐる。

今日現存の堂塔建造物の内最古のものは東西兩塔である。然し推古時代創建のものでもなく又白鳳年間移建の當時新築したその儘のものでもない其構造手法は藥沙寺東塔よりは非常な進歩を認められ、尙東西兩塔を見るに相互の間にも多少の差違があり西塔よりも東塔の方が遙かに古い調子を持つてゐる。この點から考ふれば藥師寺東塔を白鳳年間の作と假定すれば、此の東塔はそれ以後、和銅年間のものではあるまいかとも思はれる。

西塔はそれより少し遲れて白鳳末期？天平初期？、兎も角聖武天皇（四十五代）の天平年間の建築になるものだと考へられる。

此の兩塔は、奈良東大寺法華堂（二月堂）に比較

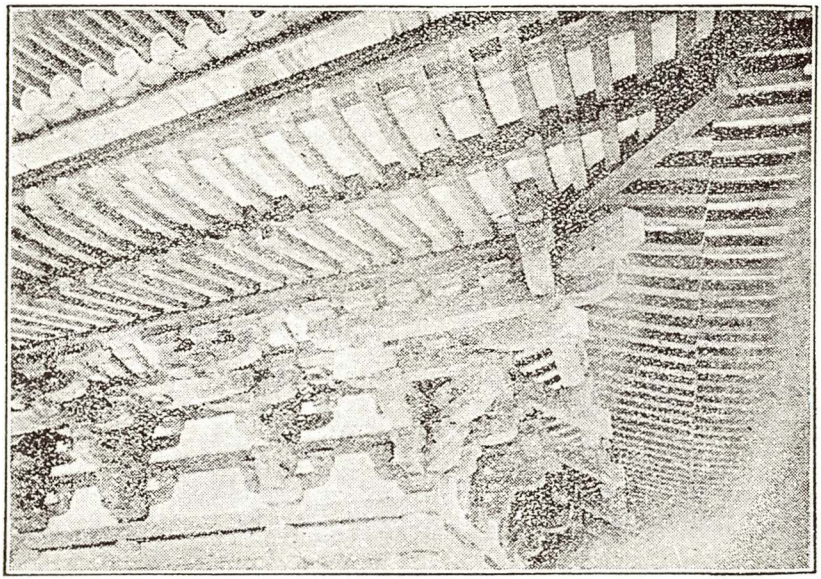
東塔斷面圖



して餘程幼稚な點がある。境内には金堂、講堂、藥師堂、東塔、西塔、法華堂、曼荼羅堂の外に種々の建物があるが何れも治承（藤原時代）の兵火に燒けて現存のものは其れ以後の建立のものゝみである。

口配置　現在は寺域の東方に大門（仁王門）があつて、鐘樓その他二三の建物亂雜に配置され、金堂と講堂、とが南北に相對峙してその中央西方（即ち突き當り）に本堂（曼荼羅堂）東面してゐる。東西兩塔は金堂を中心にして南方の小山の上に東西に相對立してゐる。以上の配置から考へると往古の山門は金堂の正面即ち現在の東西兩塔の中間にあつたものに相違あるまい、と推定することが出來ると共に現在の仁王門は當時の裏門であつたとも考へられる。

口東塔　金堂の南方一段高いところにあつて、兩塔と一直線上に相對立してゐる。總高、七十六尺七寸あつて平面初層が三間三面、二層が二間二面、三層二間二面の三重の塔婆にて頗る構造の變化の面白いものである（この形式は飛鳥時代からの繼承された形式の次期に推移せんとする先驅とも云ふべきもの）。下層各間共中央には板扉を兩開に設けて兩脇各間及三層各間は何れも櫺子窓になつてゐる。此塔婆に於て最も珍奇とすべきは『相輪』にて他の此種塔婆に於ては普通九輪である



東塔初重組物及軒廻

べきものが八輪となつてゐて、然かもその高さは全高に比して調和を保ち、剛健な手法と水煙の意匠卓抜な圖案とが他に類例の見ないところの優秀のものである。

『斗拱』は前時代の藥師寺東塔に比較して急速の進歩をなたし、今迄用ひられなかつた支輪、と鬼斗とが出來て此處に全く完全なる『三手先』が構成され斗拱に一新機軸を創成されたわけである勿論、法隆寺、法起寺、法輪寺等の飛鳥時代のものには使用されなかつたことで恐らく和銅年間以後より創始されたものと見て差支がない。

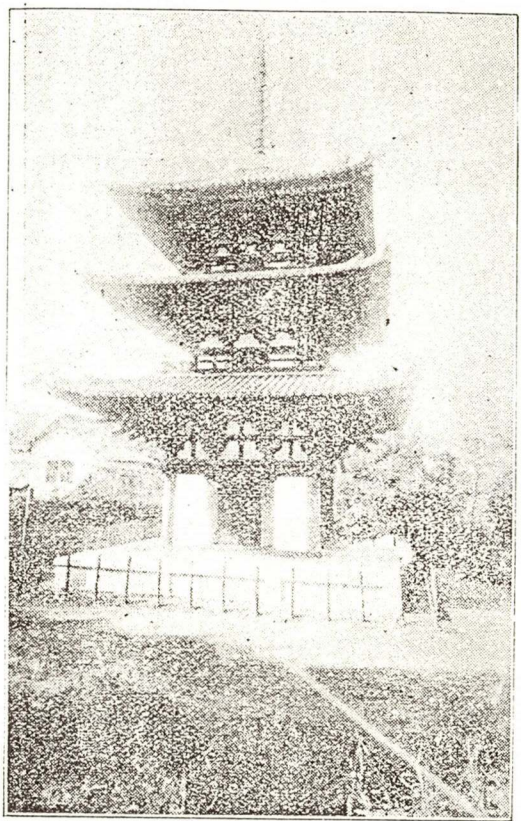
屋根は勾配緩き本瓦葺にて軒、は二軒、其の反り美しき曲線をなし、然かも深き軒の出との『コントラスト』は當時の優雅なる時代思潮を充分に表徴(しんぼらいず)してゐる。

柱には多少の『エンタシス』があるが法隆寺の五重塔や金堂のもの程には強い感じのするものではない。

内部の構造は至つて簡素に作らさてゐて天井等にも支輪なく只僅かに折上組入天井にて裝飾とし

ては内外共に單に丹塗にされてゐただけである。

一般の構造手法樣式は西塔と殆んど同一であるが各部『デテイル』の『プロポーション』の調和最も整備して當時の雄健、典雅なる氣風を遺憾なく發揮せる點に於てはその價値、西塔に勝ること數等上位のものであるのみならず遺物少なき白鳳末期の建築として亦殊に『塔婆』としての遺物少なき當代に於ては寔に珍重すべき作品として絶大なる價値の有せるものである。



西塔

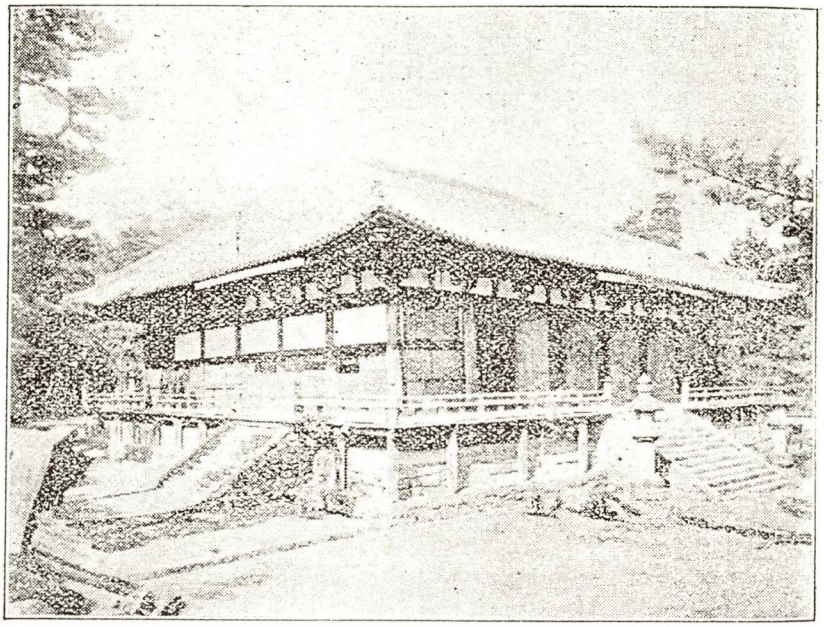
口西塔　東塔と共に金堂、講堂の南方小丘上に一直線上に對立してゐる。

平面三層共三間の本瓦葺の三層塔婆にて石壇上に立ち、高さ初層十七尺二寸五分、二層十三尺九寸五分、三層は十一尺六寸四分、相輪を合して總高八十一尺八分あり、東塔よりは少しく高い。

柱間は初層各間共五尺三寸五分、二層各間共四尺六寸五分、三層各間共三尺八寸八分、上層に至るに從つて次第に狹くなつてゐて非常に安定をよく感ぜしめてゐる。

軒は各層共二軒で、組物は三手先組物を用ひて軒天井は二手先のところまで小天井を架けて二手先と三手先との中間に支輪を設けて各層共中央間は開扉となつて二層三層には高欄を設けてゐる。

相輪の數は東塔と等しく八輪のものを用ひ初層内部中心柱の周圍は方



本堂（曼荼羅堂）

形に板圍ひなし、現在は落剝甚しい當時の彩畵のあとが微かに偲ばれてこの點から或ひは平安初期の作品かと思はれる。

明治四十五年六月に修繕の際『擦柱』の頂部から高さ三寸徑三寸の金銅製、舍利盃子を初め、古錢法華經斷片、修理結緣衆奉納目錄等多數の遺物を發見した。その奉納目錄によると建保七年卯月七日（八十代氏順德天皇、約七百年前）即ち鎌倉時代に僧院曉の納めたもので其他、瓦銘、墨書等の發見品から考察すると、爾來修繕は左記の様なものである。

文永五年九〇代龜山天皇（鎌倉）六五〇年前
天正年間一〇五代正親町天皇（桃山）三五〇年前
貞享五年一一一代靈元天皇（江戸）二四〇年前
明和三年一一六代後櫻町天皇（同）一六〇年前
享和三年一一八代光格天皇（同）一二〇年前
文政二年一一九代仁孝天皇（同）一〇五年前

口本堂　有名な中將姫の蓮糸曼荼羅を安置してゐるので曼荼羅堂とも稱されてゐる。

仁王門から突き當りにあつて金堂と講堂との中

央西方に東面してゐる。創建は鎌倉時代のもので内部須彌壇の勾欄に螺鈿で（奉具麻了寛元元年五月尼眞蓮）といふ銘があるので、それ等から考へて本堂のものと見るべきであると思ふ。

平面、桁行七間（六十九尺六寸五分）梁間五面（五十九尺七寸二分）前方二間を外陣、後方二間を内陣として珍らしく高い段組の石段上更に龜腹を設けて建ち、周圍には背の高き廻縁を繞らし雄建なる高欄を附けて正面と兩側面から十數級の石段を設けてゐる。

屋根は單層四注造本瓦葺にて勾配緩く雄大なる二重檜は深き軒の出を支持してその『プロポーション』よろしく莊重な姿態は安定を保つてゐる。組物は三ツ斗の簡單なものを用ひ中備へに斗束を配して壯大なる圓柱を建て、前面中央五間には、幣軸を立てつけた板唐戸を設けて兩脇間には腰貫上欄子窓を下、蔀戸を入れ左右兩側面は同じく腰貫上白壁としてその下部は所々欄子舞良戸、蔀戸を作つてゐる。尚後面は一間（中央）に唐戸を嵌め其他の六間は悉く壁を塗り、内部の構造亦複雑を極めしかも自由な變化に富み、周圍一間を化粧屋根裏（天竺樣から來た虹梁及繰形ある木鼻を用ひてゐる）とし前方五間二面即ち外陣（禮堂）には柱頭斗拱を組み格縁を受け、天井は小組天井内陣五間二面外陣との仕切には各間共に上段木連格子とし下段蔀格子を嵌め柱頭斗拱を組みてその上に三重の繋虹梁を架け渡し最上の虹梁上には頗る形式の雄建なる墓股を用ひてゐる。

内陣の中央には高三尺三寸五分、正面長さ三丈側面一丈五尺四寸の大須彌壇を設け鎌倉式の高欄を附して壇上高さ一丈六尺四寸長さ一丈六尺の幅狹き厨子を載せその内に約一丈三尺平方の曼荼羅を安置して本尊としてゐる。

口水屋　（閼闕棚）本堂の乾隅廻椽の一部に平面三間一面の切妻造りの小屋を附加したもので其の樣式、手法共本堂と同一にて一重の疎檜を三ツ斗組物にて承け、中備に墓股を用ひて柱は方柱の大面を取つたものを建てゝゐる。兩妻には頭貫上に本墓股を置き其の上に虹梁を架け、板墓股を戴き棟木を承けてゐる。墓股の形狀頗る奇拔、勁健に



廿二日禪林寺大講堂棟上云々』とありまた
様式手法から見るも大略之に一致してゐる
即ち鎌倉末期の建築にかゝるものである。
平面は曼荼羅堂ほども高くはないが稍高き
段組の石壇上に建ちて金堂と等しく奈良朝
式を帶びてゐて、大和國秋篠寺によく似て
ゐる。これは土間四面の建物で屋根單層四
注本瓦葺にて勾配緩く軒端に相當の反りが
あつて尙も大棟は兩端に反つてゐるので一
層屋根の權衡、莊重の感を起させる。

軒は二軒本繁種、斗拱は三ツ斗を組み中
備斗束にて簡單、柱は總て圓柱を建て前面
中央間のみ板唐戸を用ひ、其の兩端脇間は
板唐戸を嵌め次の間端は疎欞子、其のまた其端間
は壁となつてゐる。左右兩側面、前方に一間の各
欞子窓として後面中央の間のみ唐戸を配し其他各
間悉く壁を塗つてゐる。總じて構造樣式は極めて
簡單ではあるがよく莊重の形態を現はしてゐるこ
とは本建築の價値最も大なるところである。

內部一間通りを外陣として化粧屋根裏を現はし
て彼の藤原時代の京都宇治上神社本殿の其れ等即
ち日本三甍に比して殆んど遜色を見ないところの
ものである。

此れ等の建築は鎌倉時代に於ける代表的佳作の
ものゝ一つである。

□講堂」金堂の背面一線上に建ち南面してゐる。
創立は不詳だが棟木の銘に『乾元二年庚卯歲四月

繋ぎ虹梁を架けその末端三ツ斗を貰きて外部に突出してゐる。内陣は五間二面、柱上出組斗組を現はす小天井を設けて更に支輪によつて折上げ小組天井を作つてゐる。其制鎌倉時代特有のもので床總拭板敷にて内陣の後壁に接して三間一面の須彌壇を設け、壇上中央には本尊阿彌陀佛を安置し左右及後方には數軀の諸佛像を安置してゐる。

口本堂佛壇及厨子　何れも藤原末期の手法に從つたもので全體の格好から裝飾迄(唐様)所謂鎌倉塗りで佛壇は螺鈿、錺具等にて寶桐花模様を裝飾し厨子の扉にも亦螺鈿、錺具等にて金銀蓮華等を蒔繪にて現はし立派な工藝美術品である尚扉の背の銘には『蒔繪何左馬元藤原貞經大工信濃守藤井友次仁治三年歳次壬寅五月廿三日大勧進阿闍梨禪良』とある。是は源頼朝及頼經等の造營したもので有縁者や關係者の氏名までが扉裡に銘記されてゐる、尤も寶桐花の螺鈿裝飾は宇治の鳳凰堂や平泉の金色堂の佛壇とは同一系統に屬してゐるがその意匠、圖案が少々幼稚なところがある。

目下二枚の内一枚は奈良帝室博物館に陳列されてゐる。現在厨子内に納むる曼荼羅は即ち『文曼荼羅』と稱するもので文龜三年原本に依つて複寫したものである。

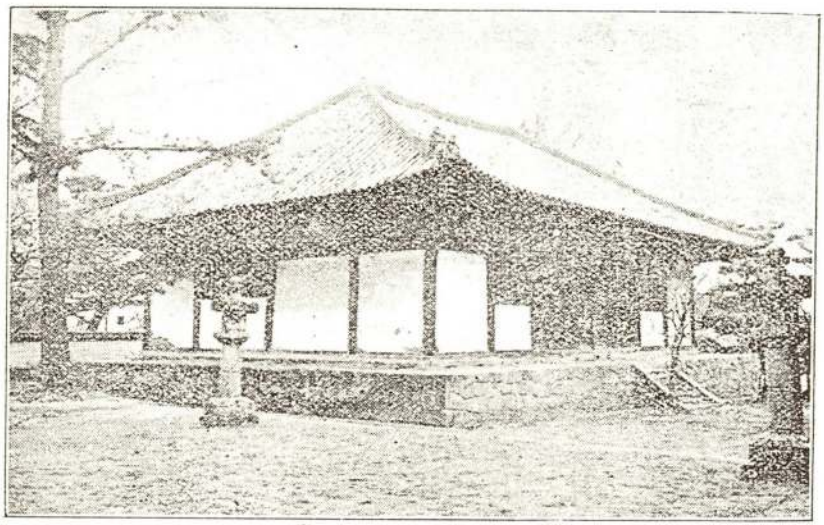
口金堂　本堂の東南東西兩塔の中間にて講堂と南北に相對立してゐる。

寛永法皇の建立だとかの傳説はあるが何等の確証はないから信ずるには足らないものである。内陣柱に（奉施入當麻寺金堂長日講供養法料田事文永五年十二月三日）と墨書されてゐる、また建築用式の特徴等から本堂宇の建築年代を鎌倉時代と推定することが出來る。

平面五間四面、單層屋根入母屋造の本瓦葺にして屋根勾配緩やかに軒の出深くかなりの反りありて稍『デリケート』な二軒を和様の二手先斗拱と支輪とが承け尾垂さへ付けられてゐる。中備には斗束を用ひて軒廻り頗る整備してゐる、床は凡て土間にて、柱は總圓柱を用ひ高き段組石壇を作つて宛然奈良朝式を眺める感じがする。

前面及後面何れも中央の三間には板唐戸を附け其他の全部各間悉く壁仕舞になつてゐる、内部は

周圍一通りを外陣とし虹梁を架け渡して天井は小組格天井、内陣は中央三間二面にて支輪を設け折上小組天井となし繋虹梁は支輪桁を

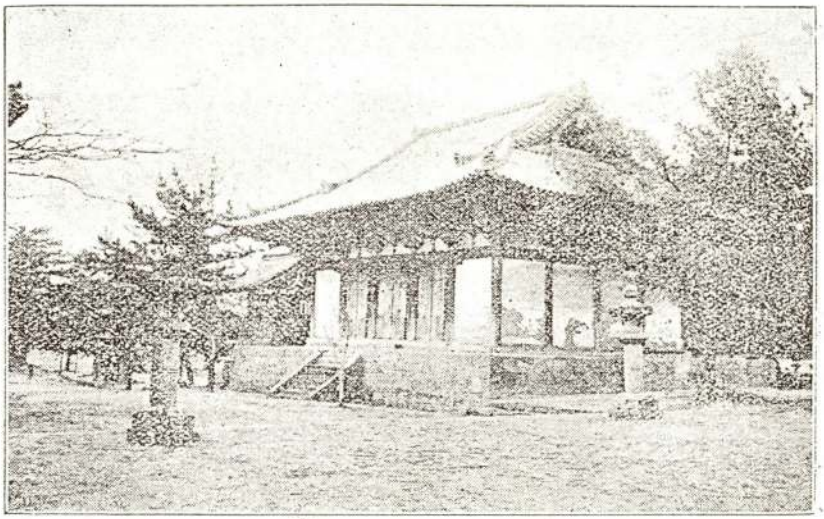


講堂

承けてゐる。内陣の後方三間には凡て壁張となし中央の壁に接して奈良藥師寺金堂の須彌壇に類似のものを設け、その上に本尊彌勒佛及四天王其他數體の佛像を安置してゐる。外部の『プロポーション』も申分なく然かも高雅なる品位あり細部、殊に斗拱、内部の虹梁、天井等には鎌倉時代の樣式手法を發揮してゐる。

口中將姫と當麻曼荼羅　人皇四十五代聖武天皇の御代、中將姫は藤原豐成の息女として生れた。十五歳の時孝謙天皇に召されて三位に叙し特に中將の名をさへ賜つた然し彼の女は哀れ不運にも繼母に育てられた爲に華やかなるべき乙女の生活も常に虐げられて終ては危くも幾度か害せられんとした事さへあつた。漸くに遁れて寶龜元年當麻寺に入つて剃髪し、善心尼法如と名づけられて佛門の人となり、淨土曼荼羅を作成して天應元年（紀元一四四一年）年廿九にして歿した。身は高貴の家に生れながらにして斯くの如き奇しき運命に一生を送つたものは恐らく數多くはあるまい、今『古今著聞集』の一說を摘記して見やう。

『其性いさぎよく偏に人間の榮耀をかろしめてただ山林幽閑をしのび、遂に當寺の蘭若をしめて、彌陀の淨刹をのぞむ天平寶字七年六



金堂

月十五日、蒼美をおとして、いよ〳〵往生淨土のつとめねんごろなり。誓願を發していはく、我もし生身の彌陀を見奉らずば永く伽藍の門閾を出でじと。七日祈念の間、同月二十日酉の刻に、一人の比丘尼、忽然として來りていはく、汝九品の教主を見奉らんと思はゞ、百駄の蓮華をまうくべし佛種緣より生ずる故なりといふ。本願禪尼歡喜身とあまりて、化人の告をしるして、公家に奏聞す叡感をたれて宣旨を下されにけり。忽海勅命をうけたまはりて、近國のうちによほしめぐらすに僅か一兩日の程に九十餘駄出で來にけり。

化人みづから蓮の莖をもて糸をくり出す、糸すでに調りて初めて清井を得るに、水出でゝ糸をそむるに、その色五色となり。皆人嗟嘆せずといふ事なし。同二十三日の夕、また化人の女忽に來りて化尼に糸すでに調れりやと問ふ。則ち調へるよしを答ふ。女人蕖二把を油二升にひたして燈火としして、この道場の乾の隅にして、戌の終りより寅の始めに至るまでに、一丈五尺の曼荼羅を織りあらはして、一よ竹を軸にして捧げもちに、化尼と願主との中にかけ奉りて、かの女人はかきけす如

くにうせて行方しらずなりぬ。』事實の眞僞はさておき傳說は傳說として其儘信じておく。以上の如くにして出來上つた『當麻曼荼羅』は普通、繡と思はれてゐる或は、繪畫だともいふ事である。大さ一丈三尺方、赤や綠、金泥で描かれ立派なものであるが、破損が甚だしくなつてゐる。是は所謂『極樂曼荼羅』であつて即ち、普通『觀經曼荼羅』ともいひ淨土敎の三部經典中、觀無量壽經を最も具體的に表現したもので。善導和尙の註釋書『觀經疏』に依つて描かれたものである。

曼荼羅は四つの部分に分たれて、先づ第一に中央の大きな部分即ち內陣が中臺、で「玄義分」としこれを亦六つに解いてゐる、第一は寶地段、第二寶樹段、第三寶池段、第四寶樓段、第五華座段第六虛空段、で第五の華座段には大きく阿彌陀を中央に、その左右に觀音と勢至とを描いて曼荼羅全圖の中心になつてゐて極樂淨土の莊嚴と歡喜の相を詳細に描寫してゐる。第二は右邊、即ち左に細長い外陣には「序分義」といひ觀經所說の王舍城內の悲劇を阿闍世太子が惡友、提婆の誘惑をうけて父を幽閉するところから、その母韋提希夫人の佛信仰及佛が夫人の爲めに淨土の實相を現するといふ話が十一段に區切つて描かれてゐる。

第三は左邊即ち右側の細長く畫されてゐるのが「定善義」といひ釋尊が韋提希夫人を初め未世の凡夫一切の衆生の爲めに阿彌陀佛國に往生する行狀を描いたもので觀經の十六觀中、日想觀から雜觀迄十三觀法が描かれてゐる。

第四は中臺の下方でこれは「散善義」といひ十六觀中の十四觀から十六觀迄を上輩觀、中輩觀、下輩觀として即ち「九品」の往生、上品上生から下品下生迄九つの人間の往生の種類とその有樣の相違を詳記したもので其の中央に銘文がある。以上は極樂曼荼羅の構圖と經文との關係の大略を說明したもので頗る複雜である。

現在本堂厨子內安置の「文龜曼荼羅」は文龜年間中將姬の曼荼羅を模寫したもので構造は原本と同一のものであるが室町時代のものだけに繪畫としての價値は原本とは比較にはならない程劣つたものである。

價値財(KULTURGUTER)としての建築（一）

山崎萬壽夫

△

原始的民族が天候の不良を避けるために身を寄せる安全の場所、極めてきりつめた實際的要求に對するものに過ぎなかつた家根、小舍に發した建築の萌芽は人文の始めより彼等の美的要求を充たされるべく工夫を凝らされるうちに多くの時代は過ぎ去つて行つた。

かくて次第に向上し進化した建築の技術は埃及を通じ小亞細亞、希臘を通じ幾多の曲折を經るうちに天才の出現を迎へて完全に精神化され優秀なる藝術作品となり「連結せる音樂」と賞揚されるに至りショペンハウエルの建築美論を導き最も雄大壯麗なる美的對象として十九世紀——近世の文化に移されたのである。（ショペンハウエルの建築美論については本誌第五輯第一、二、三、四號伊藤氏論文參照）

「獨り藝術のみが現象そのものゝ中に於て感覺世界と精神世界との一致を表はしてゐる。從つて藝術品は現象に於ける自我の完全なる表現であり藝術こそ哲學の唯一の眞にして永遠なる機關であり記錄である」

Schelling, "Das System des transzendentanel Idealismus"

斯くて RAUM KUNST としての建築は建築物其自ら人類文化の進展——力の進展に斯ける文化財即ち價値の運載者と見做されるに至り現代新理想主義哲學に於て他の諸藝術と共に重大なる意義を分有し高く SOLLEN の世界にその悠久なる

光を發したのである。

實に藝術は「藝術作品に於て現實的に存在し價値（WERT）の運載者ではあるけれども此處では價値は人格的個體にも亦彼等の社會的關係にも附着しないで建築物、彫刻、繪畫、詩歌、劇曲、或は音樂等の如き物件（SACHEN）に附着する」『疑ひもなく藝術も亦社會的及人格的意味を有する。しかし吾人が價値及文化財の差別に注目し之を其の特質に於て表示せむとする時には藝術の社會的及び人格的意味を看過せねばならぬ。是れ此際には只藝術の作品其物のみが肝要なのでその人格の上に及ぼす影響は問題とならないからである。只藝術の特有價値或は自己價値を理解することが大切なのであつて夫れは藝術的生活の一切の社會的及び人格的結果から明らかに區別するべきである」とリッケルトは言ひ尚進むでその特有價値に就て「夫れは明らかに倫理的價値から區別される。而して吾人は其　特有價値を美（SCHÖNHEITS WERT）と稱しておく。吾人は藝術作品に於ては其作品其ものゝために思ひを凝らす。夫れは夫れ自身の爲に存し又夫れ自身に於て存在する一つの構成物として余他の世界から拔け出づる。眞の藝術作品として夫れは夫れ自身に於て圓滿なる一つの調和——相互に結び合ひ支へ合ひ或は制約し合ひ而して夫れに依つて嚴密なる意味にて相補充し即ち一全體（それは事實上常に一部分にしてしかも夫れ自身を超へて他の部分を指示しない處のもの）を構成する其諸部分の均衡を表現する。かゝる價値を運載する總ての實在を吾人は美と呼ぶ」と論じてゐる。（米田博士リッケルトの歷史哲學）

△

吾人は茲に主題に歸つて美的價値財としての建築物を探究する順序になつた。

そこで吾人は立場を美的觀照にとつてゆく。

元來「美は感情移入によつて成立する物象の價値である」（リップス）と言はれてゐる。

實に感情移入のある處に藝術的內容が生れそこに創造の世界が開展されてゆくのである。

面しそれには少くも二つの要件を充たさねばな

らない。

第一には吾人は對象を單に感官を通じて知覺するに止まらずしてその對象のイデーの中へ透入しその對象の世界に生きなくてはならない。

第二には現實界や個的の利害を持つあゆらる關係を遮斷して純粹に獨立し特殊の世界を作ることである。

そこで吾人は一つの難關に到達したのである。すでに明らかであるやうに建築に於てはそれの實用方面の非常に大なる範圍を包容してゐることである。其處には機械的必然性や形式の威嚇がありそれの完成までには數多の無智なる職工を必要とする等解決しなければならない實際上の問題は澤山にある。

しかし吾人は美の國のためにと云つて實際的に有用な地上の事物を捨て去ることが出來ない執着と共に實際物、實用物だからと云つて美の成立を抗まむとする頑冥なる凡俗であつてはならない。吾人は進むで其等の事物を美の國へ運び上げてゆかむとする——即ち其等實用物にも美的價値をもたらさむとする男々しき藝術の使徒となるべきである。

振り返れば過去には希臘の或はゴシックの類ひなき美の建築が見られるではないか。

實に美の泉として觀照せらるべき建築に就ては古來多くの學者や藝術家の研究を煩はしてゐる。併し吾人は茲に約言して「美的對象としての建築は人間化されたる機械的エネルギーの相互作用の表現であり力の審美的直觀を根本的要素として空間容積の實用的及び審美的効果の融合統一せられたる一「全體」であると言つておく。

故に建築家は藝術の分野にその存在の意義を認めなければならないのである。

生命を開耕し釋放し伸展せしめ加之もそれを美的調和の躍動せる施律の內に生かしめて藝術的樣式に移入するものこそ眞の藝術家として許される

而して彼れが創作に對する人々は彼れのとれる樣々の努力を省略して直ちに調和と綜合とに融合し發現的伸展的にして洗練淨化されたる生命の流動と相抱いて自らの生命の醇化と深强と躍動とを

深く味ふのである。

かゝる世界の現出を人類にもたらすことこそ眞の藝術家の嚴肅なる使命であらうと考へる。

從つて藝術家とその藝術作品との關係は生命的必然性と直接的並びに無限の徹底性とに依つて結合されて居らねばならないのである。

故に藝術作品は自己の生命の一分化伸展の客觀相としてそれに法悦と親愛とを體驗し得るものである。

生命に交渉なく乃至は生命に對して鈍く迂遠なるものは到底藝術に緣なきものと言はねばならないであらう。

從つて藝術の前には先づ藝術家の生活がなければならないのである。卽ち純粹に緊張した人間としての最高の生活が藝術の母胎を作り出すのである。

そこで吾人は世に生命純化にひたすらなる生活なく而も藝術家と稱する一典型なる製作家——と云つておく——があることを注意しておきたい。

彼等は意識的乃至無意識的に自己の興味を外界事象に託して製作或は設計を試みてゐる。その上彼等は非常に對社會的である。

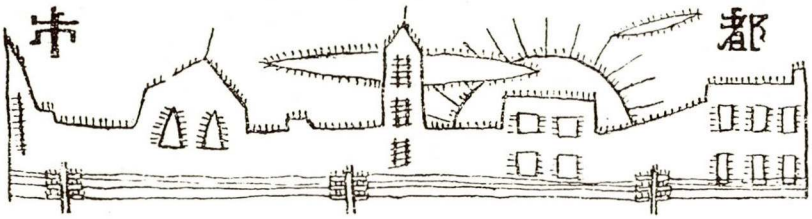
從つて彼等の製作標準は社會にあり迎合と服從の奴隷的精神は彼等をして社會の最も甘心を動かすものと思惟される事象を貪り求めて外貌の模寫と表面的仕上げ（TECHNIQE）とを巧みに社會の要求を推察して並行せしめる。

故に彼等の製作過程には何等の生命的なるものなく從つて美的價値の存在しやう筈がない。

そこで吾人は古今を通じて藝術作品としては美的觀照の對象となる建築は存在するけれども建築は直ちに藝術作品であると許されないことが明らかになつたのである。

藝術家（ARTIST）と職工（WORK MAN）との分岐點が實に生命力の發相の如何にあるとすれば前に述べたやうな製作家は——質に於て——職工と變りはない筈である。

× × ×



紐育市の人口

在プリンストン大學　Z　Y　生

左の一篇は紐育市一九二〇年の市勢調査委員會書であるウオルター、レイドロウが紐育タイムスに寄せたものである。

紐育市現在の人口は六百万人となつてゐる。市を研究するには本來の紐育市とこの周圍を取巻いてゐる外延紐育市即ち本來の市を基點に各四方各々十九哩に上つてゐる廣域を取扱はねばならぬ。之れは市廳よりトツテムヴイルに亘る大都市の範圍として定められある地域である。若しも一九一〇―一九二〇年間の增加率が將來も續くものとすれば、次の百年間即二〇二〇年には市の廣袤二千百五十一萬百一六エーカーとなる。而して本來の市は四千四百四萬八千四十八エーカーとなる。併し市が九百萬人以上の人口を收容するは困難である。市中に一萬九千二百五十三エーカーがある。若し右のエーカー數の半ば、一エーなーに對し、平均百人の人口を收容するとすれば、一千萬人近くの人口となる。あとの半ばは街路諸種の業務の建物公園遊戲場にとらねばならぬ。而して人口を一エーカーに對し百人より尠しく以下とすれば究極の人口目下は九百萬人となる。五十人平均とし得ればよいのであるが、併しこれは困難である。

右のエーカーに對するパーセンテーヂは甚だ興味深いものがある。紐育市には一エーカーに百人以上住み得る衞生地帶が四百四十三ある。非常な

稠密と稱し得る地域は三百人の目標に上つてゐる市は各エーカーに對し三百人から三百九十九人の人口を配列し得る衛生地帶は四五もつてゐる。最も極端に人口の稠密なる地域は、エーカーに對し六百五〇人の人口のある地域で、サード・ストリーツがナインズ・ストリーツ迄取卷き、Bアヴエニューから Dアヴエニュー迄走つてゐる地域である。これは衛生地帶M二六であつて、一寸表面的には逆理であるが、死亡率各千人に對し六・三四といふ市中の健康地である。而して此地帶の住人の大部分は猶太人である。

外延紐育（國有紐育を取卷ける紐育市、グレーターニユヨルク市のこと）の人口は大倫敦市の人口よりも三十四萬四百七十五人多く、カナダの總人口よりも百萬人劣ないだけてある。實際一九二〇年の紐育市は千八百年の合衆國の人口五百三〇萬八千四百八十三を超過してゐる。右の如き地域に始めて人口調査のあつた千七百九〇年合衆國の十五州に代表された各人種が幾百萬となくおる譯になつてゐる。此人種の成長は多くの點に光をそゝぐものであつて、重に東南部歐洲から來たものであるが、千九百一〇から二〇年迄の間に紐育市の人口の增加は七十二萬九千五百五十三人となつてゐる。而して此間東南部歐洲の人口を失へること二十萬六千八百五人となつてゐる。若し此率が千九百三〇年迄續くとすれば、市は西北部歐洲から來た人口三百二十六萬五百三十八人となる。

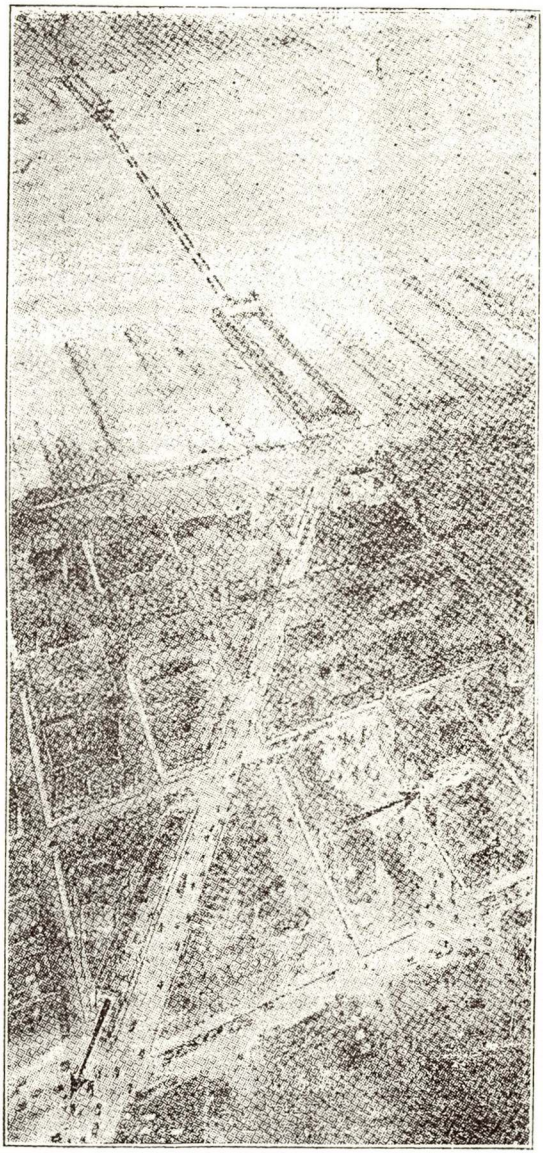
右の調査は千九百二〇年の紐育市の人口調査委員會が蒐集したものであつて、この事業は二年間を要しこの結果は千五百二〇年出版の『グレーター・ニューヨルク』八百八十四頁の一卷となつて現れてゐる、世界の何れの都市にも曾つてなされない、最も完全なる分類と分解を伴へる人口調査報告である。本書の第一の價値は諸々の社會問題を更に科學的に研究せしむる點にある。故に委員會は市を四十エーカー一地域に分つて、これが三千四百二十七地域となつてゐる。若しも何人か又は何れの團體かゝこれ等の地域の何れかの狀態を知らんと欲する時は唯頁を繰りさへすればよい。若し結核病やその他の病氣退治のキャムペインを起

さんとする時は此書物は直に、何の地域が此病氣が不斷に生じてゐるか、又甚しいか、死亡率が多いのを容易に明にしてくれる。示された地域に努力を集中すればよいことゝなる。極めて簡單になる。又市が幾何かの學校を設けんと企つる時には表は直に何れの地域が最もこれを要してゐるかを示してくれる。遊園地や又はその他これに似た類のものを設けんとする時も、容易にその方向が分る。住宅問題にしても、米國化の事業にしても、又敎會が如何なる感化を此迄その附近に及ぼして來たか、を知らんとする時でも又同樣である。又々一の敎會がその會堂を建てんとする時に、たとへば天主公敎會が、本書はその選びたる地域が彼等の信仰を有せる者の尠いことを敎へその信徒の多き區域が何處であるかを敎へる。（此點は目下の日本には不必要なるも米國の狀況の一とその書の內容とを知るに足る故に譯す）

右の委員會か與へる援助の他の方面は、來る可き年に於ける都市計劃の實施せらる可き線を示す點にある。紐育市の三百八十六萬九千七百七人の人口を有してゐる。即ちその全人口の六八、八パーセント、全地域の十パーセントより尠い地域である。その稠密の度の增加は、他の年々にあつたよりも惡くはない。一エーカー百人以上の人口ある市の衛生地帶か群がつてゐるが、これは千九〇五年から二〇年迄の間に市が得た總人口の四七・五パーセントを有してゐることゝなつてゐる。併し千九百五年から十年迄には、右の地帶は市總人口增加の五十三パーセントとなつてゐる處を見れば、あとの五年はその前よりもよりよくなつてゐる。これは千九百十五年に實施された放射狀地下鐵道の力によるものであることは疑がない。

人口稠密を緩和する仕事は容易ではないが、併し既にその一步が既に進められてゐる。その狀態を調査するに、右のエーカー地域の三百個より以上の地域に住する外國生れの人口の八四・一パーセントは歐州東南部より來た者等であることゝ彼等は彼等固有の生活をなしつゝあるものであること、一九二〇年には一九一〇年にあつたよりも、一層分離孤立的生活をなしてゐることを示し、米

國化の事業に從事してゐる者等に問題を呈供する歐州西北部生れの人口は一四・五パーセントとなつてゐる。戰前露國の領土であつた地域よりの人口は、外國種人口の三四・五パーセントを示し右のエーカー地域の三百個に亘つて住んでゐる。伊太利は二一・二パーセント、オウストリヤは一五パーセントとなつてゐるではあるが右の地域が外國生れの人口は、千九百一〇年に比し千九百二〇年には低下してゐる。



延長しつゝある郊外

千九百一〇年から二〇年迄の間に、歐州東南部

の移民が紐育市に右の如く集中したによつて、市は本來のその位置を保ち得たのであるが、若しもそれがなかつたならば、米國民の生長に伴つて果して如何であつたか疑しい。又此れ丈けの人口を維持し得たのも將來の人口增加を豫想してたてられた計劃の下に施行せられた、紐育港當局者の仕事や、急速なる運輸行通機關によるものであることは明である。併し郊外の發達は、市內部の發達よりも一層急速になつてゐる。同時に定められたる紐育市の限界內には、尙ほ發達し得可き地域がある。目下最も明白なる問題は、郊外の道路と同樣に地下鐵道の客車を更に乘心地よくすることにある。

一九一〇年より二〇年間にわたる米國民の坐長は前十年を除いて、何れの時代にもない程に偉大であつた。併し同年間の國民增加のパーセンテーヂは他の何れの時代に比しても勝ない方である。合衆國は今世界廣袤の六・七パーセントとその人口の六・九パーセントを有してゐる。亞弗利加はその廣袤の二〇・八パーセントとその人口の八・一パーセント、南亞米利加はその廣袤の一二・六パーセントとその人口の三・五パーセントを有してゐる。紐育市は人口增加の急速なる率の曲線の頂上に達せんとしつゝあり、合衆國も又それに近い外延紐育市は既に千九百一六年十月に於て大倫敦を超ねてしまつた。如何に市が急速に生長しつゝあるかを知らんには、以上の點を見ればよい、千八百九〇年には市中に三百三二萬六千九百九十八人を有したるに、千九〇〇年には四百六十一萬二千百五十三人となり、千九百一〇年には六百四十九萬千六百五十九人となり、千九百二〇年には七百八十二萬六百七十六人となり、七百四十八萬二百一人を有するといふ大倫敦を超過してゐる。若しも紐育にして過る十年間の人口增加率を維持するとすれば來る可き二千二〇年には、市外延に戶數二千百五十一萬二千百十六戶となり、市內部に千四百四十萬八千四十八戶となる。若しも市が何時か一エーカーに三百人が住する割合の都市となれば、現在ある二千八百六十六エーカーの半に人口三千萬人となる。又最大可能の度に迄、一エ

ーカーにおしつめると、現在市が有してゐる最も稠富なる地域の如く、一エーカーに六百人とすれば、六千萬人となるのである。

紹介者附記、右に示す如く紐育市は人口の超過率に苦しんでゐるが、目下ハドソン河底に往復二條のトンネルを造つて自動車がマンハッタンの對岸である處のヂナーセー市に自由に往復し得る計畫を立てゝゐる。目下はブロバーニユーヨルク市である處のマンハッタン市から、地下鐵道が川底をくゞつて通つてゐるが、これでは十分でない。別して夥しい材料の運搬には到底不可能である。

かうすれば人口問題も可成りの解決をし得るし、又ジナセーの牧場の牛乳や野菜類も豊潤にニユヨルク市場に來るし、又ハドソン河の西岸にある倉庫が、いつも收容超過に苦しんでゐたのを救ひうるわけにもなる。今は自動車が渡船でもつて、マンハッタンに往復してゐて、不便であるが、併しその時には容易に短時間に往復し得らることゝなつて、マンハッタンとヂナーセー市とは二つにして實は一のものとなる結果となる。

（寫眞の矢印は二條のトンネルの方向を示す）

○懇々として古都に住みたき柳かな

○水驛の繁華年ある柳かな

進め過群より花園へ（三）

都市計畫技師　大屋靈城

（一）過群生活

密集住宅地の現狀

支那人と伊太利人は好んで密集生活を爲すやうである。彼の上海の支那人町を見た人は夕方彼等の町内の狹い道路が人間を以て埋められて居るのに驚くであらう。この狀態は宍勝支那人町にのみ限つたものではない。我日本の町でも、東京の鮫ケ淵、萬年町、大阪の釜ヶ崎、今宮、神戸の葺合新川等の暮方の混雜は迚も想像以上である。通りの四辻には、オデン屋、關東煮屋等が陣取り、其の周圍には必ず二三の泥醉者が大道演說を始めて居る。鼻を垂れた小僧どもや、襤褸衣の大男がワイ〳〵と詰めかけて彌次る。其の果ては喧嘩となり、山の神勢も出陣して應援すると云ふ騷ぎ、家其物は勿論、三疊とか四疊とかの倒潰しかゝつた長屋が多いが、其の周圍も隨分と不潔である。

就中共通に惡いのは排水であるが、便所が共同便所で、其れがあふれて流れ出し、台所の流しもとから出る汚水と一緒に成つて、戸口の溝に溜つて居るに至つては、とても濕氣どころの騷ぎでない將に臭氣紛々、いつ迄たつてもこの臭ひは鼻の先から離れぬ程のものである。警察では一疊一人とか、二疊三人とか、共同宿泊所の定員を定めて居るそうだが、一般の長屋には、この制限が出來ぬから三疊に一家族六人も住むと云ふ有樣、爲に一度び傳染病の襲ふところとなれば、忽ちにして一家全滅である。小住宅の不衛生は家其物の欠點、例へば室内の陰鬱、狹隘、汚染等による事も勿論であるが、其の周圍の狀況より起る事も亦甚大で

ある。例へば道路の狹隘、周圍の低濕、空氣の不十分、空氣の混濁等はその重なるものである。

從つてこの憐むべき密集生活者の救濟には家其者の改善より寧ろ其の周圍の改良を以て効果多しとする場合が多い。特に大阪の如き都市の周圍部が大部分水田を以て圍まれて居る場合に、此の感を深うする。宅地を出來るだけ高くして、道や周圍の空地を十分に取る事に注意するならば、如何なる小家屋と雖も、今日の如き非衛生地區を構成するには至らぬと思ふ。即ち密集住宅の改良は其の環境の改善に俟つてのみ、初めて望み得るものである事を忘れてはならぬ。假りにこの密集部を壞ちて一つの大なるアパートメントを造り、この中に全部の家族を收容し得たりとするも、周圍の環境の改善を等閑にするに於ては、到底効果なきものである。特に空地、植樹の施設はこれ等住宅の氣候を緩和し、空氣を清淨し、通風を好適ならしめ、濕氣を減少する上に於て効多きものと思はれる。

世人が往々粗漏なる調査の結果を基として、貧民窟には病人が却つて少いとか、死亡率も左程に多くないとか言つて、この密集生活の弊害を否定せんと試みるが、これは正鵠を得たものとは思へない。我國に於ては未だこの種の調査が徹底的に進まない爲に、何時も外國の例を引かねばならぬが、英國の工業都市グラスゴーの貧民窟に於て、同市衛生官チャルマー博士(Dr. Chalmer)の調査報告によると、一家族一室に住居する一〇四、〇〇〇人の死亡數は、同一家族三室に住む一六〇、〇〇〇人の死亡數の二倍以上である事を述べ、同市下層社會の市民は多く一室乃至二室に住居する習慣である爲に死亡者が多いのであると附言して居る。

今試みに彼れの擧げて居る死亡率と室數の關係を擧げて見るならば次のようである。

室數	死亡率(一、〇〇〇人ニ付)
一家族一室にすむもの	二五、九
同　二室にすむもの	一六、五
同　三室にすむもの	一一、五
同　四室にすむもの	一〇、八

又周圍の環境に依つて如何に其の死亡率が變つて行くかを實證するに、有力な永年に亘つた調査報告があるから茲に揚げて私の論據を確實にしたい

次に示す統計表は英國バーミンガム市、リバープル市、マンチエスター市及びロンドン市で何れも五ケ年に亘つてなされた調査の結果であつて、最も貧乏人の多い且つ非衛生地區と、稍や暮し向きのよい職人町とを比較した死亡率である。

（イ）、バーミンガム（五ケ年平均）

	非衛生區	職人町
人口（人）	一五四、六六二	一三三、六二三
面積（エーカ）	一、九二一	一、九九八
死亡率	二一、一	一二、三
出産率	三二、八	二四、〇
乳兒死亡率	一七一、	八九
肺結核死亡者一、五一一、		七四二、
同　死亡率	一、九三	一、二
痲疹死亡者	六四七、	一六一、
同　死亡率	〇、八三	〇、二四
下痢、腸炎死亡者	一、一二六、	二三八、
同　死亡率	一、四六	〇、三六

（ロ）リバープル（五ケ年平均）

	非衛生區	失職人町
人口	四四、六一六	八五、一一八
面積（エーカー）	三九一	六七五
家族數	九、八〇二	一七、九三九
死亡率	二七、五	一七、八
出産率	三八、九	二九、五
乳兒死亡率	一六四	一二三
肺結核死亡率（三ケ年平均）	二、一四	一、七三
痲疹死亡率（同）	一、一〇	〇、三二
下痢、腸炎死亡率（同）	三、一七	一、〇〇

（ハ）マンチエスター（五ケ年平均）

	非衛生區	職人の多い町
人口	八八、七三七	八六、二九九
面積（エーカー）	八九八	三、二五二
死亡率	二三、八六	一二、九三
出産率	二九、〇一	二一、七七
乳兒死亡率	一六六、三	一一一、五七
肺結核死亡率	三、三二	一、〇七

痲疹死亡率	○、八五	○、三○
下痢、腸炎率（二才以下ノモノ生産一、○○○ニ對シ）	四九、三○	二○、○一

（ニ）ロンドン（五ケ年）

	非衛生區	職人多き町
人口	一一一、三九○	一二一、三七六
面積（エーカー）	六五八	八、二七七
死亡率	一八、六	一二、四
出産率	三二、一	二三、四
乳兒死亡率	一四七、	八三、
肺結核死亡率	一、八一	一、二七
痲疹死亡率	○、九二	○、二四
下痢、腸炎死亡率	一、四七	○、三六

以上によつて明かなる如く、非衛生狀態に於て生活する市民は然らざるものに比して、死亡率は約二倍となり、肺結核死亡者は二倍以上に上り、痲疹にて斃るものは三倍にも增加し、小兒の下痢等にて死するものは殆んど四倍の多きに達して居る。唯小供の出産數のみが增加して益々彼等をして貧に貧を重ねしめて居る。

小住宅地環境の改善法は前述の如く、道路を擴げ上下水道の施設を十分にする事を以て第一とするが適當に空地の挿入樹木の植ゑ付けをも行はなければ効果は少いものと思ふ。この後の二つは多くを塲合世人に忘れられ勝ちであるから余は特にこの言葉を幾回となく繰り返す。卽ち過密の生活を去つて四圍のゆつくりした爽かな生活に入る事が最も必要なる條件である。譬へ田園住宅の如き又花園都市の如き十分なる宅地をとつて居を構へると云ふ事は、これ等の貧民に望まれない事になるにしても、この主旨のもとに住宅地を構成し、又改良して行くことは片時も忘れてならぬ要件である。特に人間の精神を更新する上に於て、植物のグリーン（綠色）程清涼劑になるものはない事を考へねばならぬ。

（二）花園生活

庭は空氣の料理塲

庭のあるとないとが住宅として棲むのにその位

人間の氣持ちに影響を及ぼすか、と云ふ事を吾々が日常經驗して居るところで、茲に敢て述ぶる迄も無い事であるが、吾人が常に爽快な氣を以て自分の家に住み得るのは全くこの庭の賜物である。疲れたる精神に慰安を與へ倦怠の氣分を一掃してくれるのは十分の日照と通風にもよること乍ら、木々の綠葉、芝草の翠滴、青々たる水面等の美的情緒が預つて力あるものと思はれる。即ち庭の自然美が吾人の精神によつて觀賞され、美そのものゝ魔力によつて人の精神が恢復されるものである又植物に空氣を清淨する力がある爲に、庭があれば室内は常に新鮮な空氣を以て充たされる事が出來る。

人は食物のみを以て生命を存續し得るものではない、人が攝る食物は單に營養の補充に過ぎない體内を循環して常に吾人の心身を養つて行く血液は空氣との接觸によつて初めて新鮮に保たれ活氣を續け得る。換言すれば吾人が、若し一秒間でも肺臟内に新鮮なる空氣を送入せぬならば血液は人體を養つて行く事は出來ない。台所が食物の調理場である如く、庭は空氣の料理場である。植物が空氣を清淨する作用は二つある。一つは物理的作用で、他は化學的作用である。物理的作用と云ふのは植物がある爲に、塵埃やバクテリアの浸入を防止する。これは多く葉群の作用で、一種の濾過作用と看做されて居る。市内の公園や廣場が都市の肺臟であるとか、空氣の一大濾過池であるとか清淨なる空氣の貯藏場であるとか、砂漠中のオーシスである等と形容されるのは、この作用あるに基くのである。或る學者の實驗した結果によると空氣中に混せられたバクテリアの數は、樹木の繁茂せる公園内に於ては交通頻繁なる街上の五十分の一乃至五百分の一に過ぎぬと云ふ事であるが、バクテリアの如きは塵埃と共に風によつて飛ばされるものであるから、家の周圍を生垣によつて圍むのみでも効果あるものと見なければならぬ。其他煤煙や塵埃の葉群によつて防止されるのは少からぬ事と思ふが、その如何なる作用によつて防止されるかは今日尚明かでない、單に植物の葉のみが營み得る獨特の濾過作用によると述べられて居

るのみである。

次に化學的の作用と云ふのは、植物は炭酸ガスを吸入して酸素を呼出する同化作用と、酸素を吸ひ込んで炭酸ガスを出すと云ふ呼吸作用とであるが後者は前者に比し極めて僅かであるとせられて居る。同化作用に就ては既に植物生理學上明かである如く、葉綠素と日光との存在を必要とし、其の作用の大小は植物の種類や部分其他外界の狀況によつて一樣でないが、兎に角澤山の炭酸ガスが植物の爲に吸入されて酸素が空中に放出されるのである。

例へばブラックマン（Black Mann）氏の實驗によると、一平方メートルの葉が一時間に吸入する炭酸ガスの量はヒマワリの葉に於ては四一二c.c.キサゝゲの葉では三四五c.c.である。一方一平方メートルの葉が一時間に呼出する酸素の量はヒマワリにありては一、五〇二c.c.より一、八八二c.c.トウナスでは一、七〇〇c.c.である。これは植物體内に生ずる澱粉の量から算出したもの一般に次の式から求める。

$$6CO_2+5H_2O=C_6H_{10}O_5+6O_2$$

植物が炭酸ガスを呼出する作用は、前者に比すれば極めて少量であつて一〇〇グラムの植物體が一時間にルピナス四三小麥六一位である（〇℃の温度に於て）空氣が常に新鮮に保たれるのはこの酸素の爲めであると信ぜられ、又人身に必要なのもこの酸素であると信ぜられて居る。

尚この空氣の人體に及ぼす影響に就ては、最近色々の新らしい學説が發表されるようであるから今日何れが眞なるかを決する事に躊躇するが、植物が吾人の住宅をコンフォーテブル（氣持よく）に且衛生的にするものであると云ふ事は違ゐを容れない。

森の住宅に及ぼす効果

この頃森の中に住宅を建てる事を奬勵し、又一般にも好んで山林を開拓して住宅を經營する傾向が增加しつゝある。例へば神戸市が背後の山間地を住宅地として推奬し、大阪の北方吹田山一帶及び阪神間の六甲、甲山一帶の傾斜面が好適の住宅

地として急激の發展を觀つゝある如き、京都、名古屋、横濱に於ても、この傾向を窺はれる。斯の如く人は山へ〳〵森へ〳〵と自分の住宅を移して行くが、この森林なるものが果して幾何の影響を住宅に及ぼすものであるかと云ふ方面に就ては餘り論ぜられ、又研究されて居ないようである。只林間學校が子供の體育に効果があるとか肺病患者のサナトリユームは松林中に限るとか云ふ位の說が時々世人の耳に這入つてゐる位のことである。この森林の住宅に及ぼす影響は此後の住宅を選定する上に於て最も重要な事であると思ふから、茲に少しくこの方面の研究を述べて見たい。

森林があれば氣候を緩和し、雨量を增し、空氣を清淨にし、流行病を少くする等と云ふ事が一般に信ぜられて居るが、森林の氣候に及ぼす影響については色々の人が研究して居るが、森があれば雨を多くし、傾斜地の土を失ふ事を少くするに効果ある事は事實である。フンボルト（Humboldt）氏は林を伐る事は、木と雨を同時に奪ふものであると云ひ、印度では森を伐切した爲に土壤の崩壞が徵しく增した事を屢々報告して居る、又フユフエル（Fuffel）氏は森は常に雨を多くする森の中央は緣より雨多く緣でさへも農用の畑地よりも常に多くの雨降る、これが山である時は一層徵しい山が三〇〇尺以下では大差ないが、三、〇〇〇尺になれば八十四パーセントも多く降ると云つて居る。

この雨量に及ぼす影響は、海面が大いに關係するから一概に云へぬが、森のある地は裸地よりも海よりも、湖面よりも、多くの水分を常に發散して居る事を墺國のウキン近郊の森で確めた。又佛國のナンシイ（Nancy）で三十三ケ年間の觀察の結果は森のあるところが裸地よりも一二乃至二三パーセント雨が多く降つたと云ふ事を示した。

次に森が空氣及土壤に及ぼす影響に就ての研究の結果は大凡次の如く結論されて居る。

一、森の中、一年間の平均溫度は裸地よりも華氏の一度低い（これは夏に多く下る冬は大差ない）

二、夜の溫度は却つて森の中が高い、これが爲

に冬から春にかけて森の中では霜が少ない。

三、森の多い地方は然らざる地方より夏は涼しい、同じ緯度に於けるボスニアとヘルゼゴヒナと比較するとボスニアが華氏も四度夏は低い、これはボスニアに森多く、ヘルゼゴビナに森のない爲である。

四、森の中の土壌は夏は華氏五度乃至一〇度冷たいが冬は二度温たかい、濕度も森の中が大である。

次に森と泉川との關係は、森は常に雨水の一部を保留して居るから湧水は多くなるが、地下水は降下するとされて居る。

森がオゾンを出す事の大小に就ては異論がある一說には森の中には澤山のオゾンがある。これが人の肺に効果あると云ひ、一說にはオゾンの量は左程大でない、又オゾンをバクテリアを殺すだけ人が吸入すれば、肺臟が爲に大いに刺戟を受ける從つて森林中で病人が癒るのは、空氣が絶對的に新鮮である爲であつて、オゾンの作用ではないと云つて居る。

植樹が濕地を乾燥させ、延いては蚊の發生を防止し、マラリア等の流行病を減じた例は澤山ある例へばルーマニアの田舍ではユーカリ樹を植ゑた爲にマラリアが大いに減少した。其他森は色々の病氣を少くするに効果がある、リユーマチや神經痛も少くなる。

印度の或る村では、森がこれを包圍して居るが今日迄一度もコレラの如き傳染病に侵された事がないと云ふ。フユフエル氏は此の事をアルサスのハグノウ (Haguenau) と云ふ町で確かめて居る、このハグノウと云ふ町は五萬エーカーの大森林に包まれて居る。この町は他の町が近世に於てコレラに襲はれた時分にも未だ嘗て一度もこれに侵された事がないと云ふ。又少し古い例を擧げると佛國のガスコニー (Gascony) の一地方が森の爲に衛生狀態を改善した事は世間に有名である。この地方はもと砂質の裸地で、濕氣の多いところであつた爲に、絶えずマラリアや熱病、癲病、ルイレキ等の惡疫に苦しめられた。然るに一八五〇年頃にこの地に海岸松を一、八〇〇、〇〇〇エーカも植

林した爲に今日では國内でも有數の衛生的の町となつて居る。これは勿論排水や上水の完備にもよる事であるが、植林が確かに其の一因となつて居る。又薪炭材が增えた爲に勞働者が雨にぬれても服等を乾かし易くなつた事も一因とされて居る。

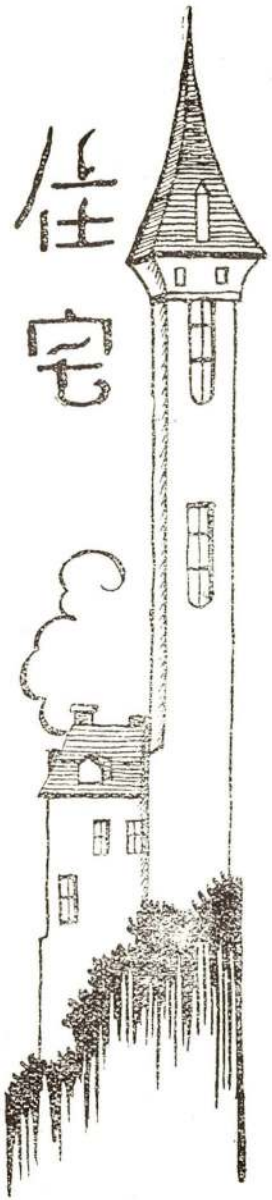
以上の如く森は住宅地を衛生的にする事に於て預つて力あるものであるから、オーストリアのウヰン市の如き町の周圍を二重にも森で圍む計畫をたて伯林の郊外では永久禁伐林を澤山作つて居る又小規模の住宅地が松林やナラ、ブナ、シラカンバの如き葉落林に依つて包まれて居るものは頗る多い。森の住宅に及ぼす効果は衛生上に於て斯くの如く大であるが、美的價値に於ても捨て難きものがある。一本の木一團の叢も優に住宅をして樂園たらしめる事が出來る。

況んや其の中に草花を混じ、或は自ら鍬をとりて花卉、蔬菜の栽培に閑を費す事が出來るならば九尺二間の藁屋の住ひも雜沓せる市内のアパートメントより如何程樂しいか分からない。

市内に群り不自然の生活に餘念ない憐むべき人々にはこの樂境の味ひは分からないであらう。都市の田園化、田園の都市化、これ私の理想である進め過群の生活より花園の生活へ。（未完）

月沒の後

紫がかつた弱い葡萄色を
盛り上れる灰色の雲層に見すてゝ
行く殘照の下に
海は音もなく横はつてゐる
象牙のやうに纖細な
僅かな雲の隙き間から
青白い弦月が
金色の星と一緒に
海を見おろしたまゝ



西洋館の床の組材に就いて

——素人のために——

ひろし生

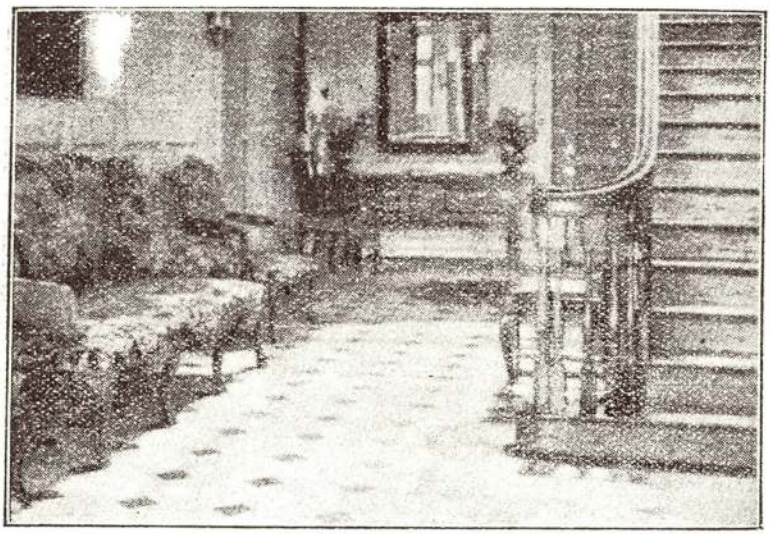
床は古い家に屢々見受けるのであつて直截單純な點に魅力がある。普通種々の色をもて塗られる家の一種の裝色的要素をなしてゐる。その色彩の塗方、配合等によつて、建築家や裝飾家が力を振ひ得る餘地がある。此色床は注意して扱ふ必要はあるが、併し別に家事に對し妨げとなる程ではないその色の上に一二つの密蠟を塗つておけば、そして若し始終その床を使用する場合には、この密蠟

一

米國で床に用ふる重なる木材は松柏槭であるが就中松は最も廉價で、しかも一色でなく單葉の北カロリナ松と長葉のゲオルホヤ松と二種ある。米國の歴史を見るに昔白松の産額が夥しかつた時節しば〳〵幅十六吋にわたるものもあり、床の材料として多く用ひられてゐた。こうした松などの板

の外皮を週間毎か月毎に塗り代へれば此色はそれで保護されてゆく。併し嘆かわしいことには今日では廣い板は最早得られないので、色床は唯古い家か又は建て直された古い家に限られてある、かうした床には人の眼を惹くものがある。

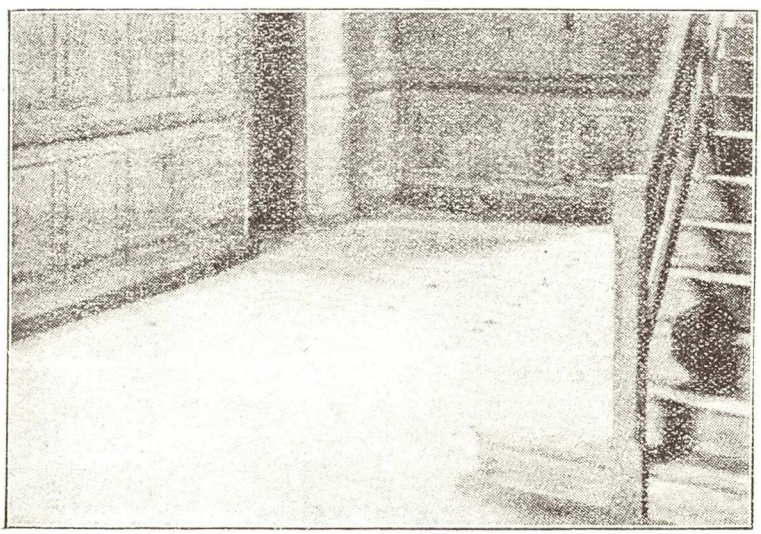
凡ての床を造る木材は、丸太から木理によつて二様に切ることが出來る。一は材目が木の軸と並行して走つてゐる時には、眞直ぐに半ばに切る。他は木目が軸本垂直に切つてゐる場合で四分の一に切るのである。材料を使ふことが尠くてすむから前者は後者よりも、費用が尠くてすむわけであるではあるがその木の特色ある美がよく現れ得るのは四分の一切斷の方であつてかうするとその木の形態、一條一、木理の組織がよく現れる。床を敷く勞働賃が同一である場合には兩者の間の費用は大して相違しないから、重なる部屋には四分の一切斷材の方を用ふるに比くはない。



（甲）甲及び乙は現代風の床、古くからあるものを思はせる丸太ヤエイのホールの床、乙は五十年を同じ様な類の床

大抵の床の幅は今は二吋と四分の一になつてゐて、常に實と溝がつけてある。厚さは八分の七吋であるが柏と槭とは半吋となつてゐる。良い處の部分には唯八分の七吋厚を用ゐ可きである。床板は不斷に隱釘を用ひ、そして下床の上におか

る可きである。かうして床が敷かれた上は、仕上をする前に滑かに磨かねばならぬ。さてかうなつてから如何に仕上をなすかてふことに就て可成りの議論が生じて來るが、筆者は餘り複雑な方法を加へぬがよいと思ふ。故に塗料を塗つたり色をつけたりすることを不必要と用ふ。シエラックを一重塗るか、又は豫備のために密蠟を二重に塗つておけばよい、かうすれば單純で經濟的でその木本來の美を隱したり變化せしむることもない。床の一部を保護する必要のある場合には亞麻仁油一重か二重にぬればよい。殊にこれは蠟の外皮が



(乙)

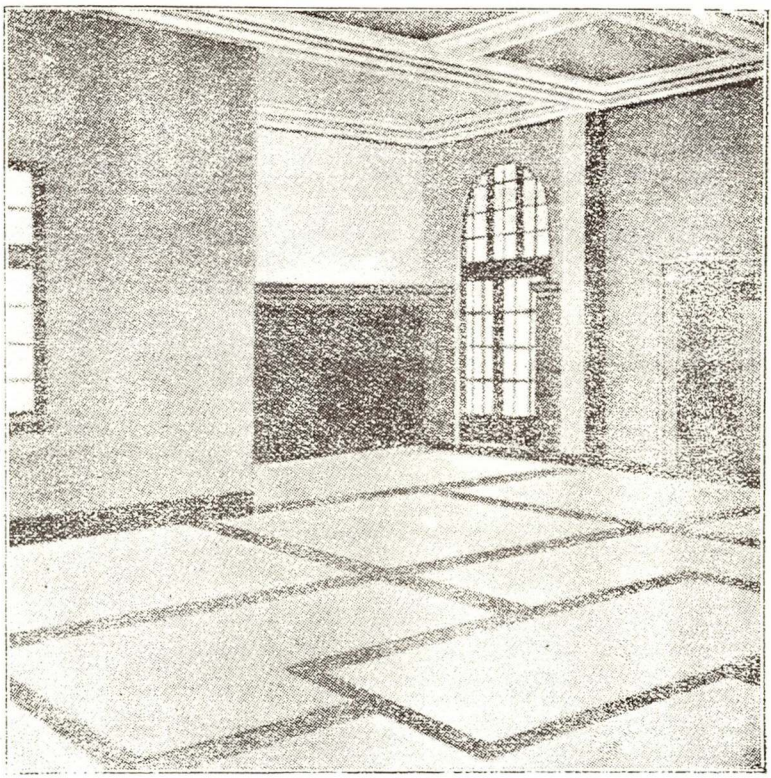
要求せられない松槭の床に用ひられる。時に燈火用石油などで床を磨擦することが屢々行はれるが、これは無知な遣方であつて、塵を表面に積む樣な結果に終つてしまふ。

二

次は寄木細工の床であるこれは色合と條とを選擇し空氣と窯とで十分に乾したものである、かうすれば木片と木片との繼ぎ合せ目があかない。各片に實と溝とを附け、隣に密着し、凡ての蝶番の端も實と溝とあり互に密着する。普通の床では唯板の兩側のみが實と溝とがつけらるゝが、板の端

は端から端迄蝶番をする。普通の床は大抵收縮するからその平均をとつておく必要がある。が寄木細工床では收縮する板の平均をとることによつてこの比較を避ける。

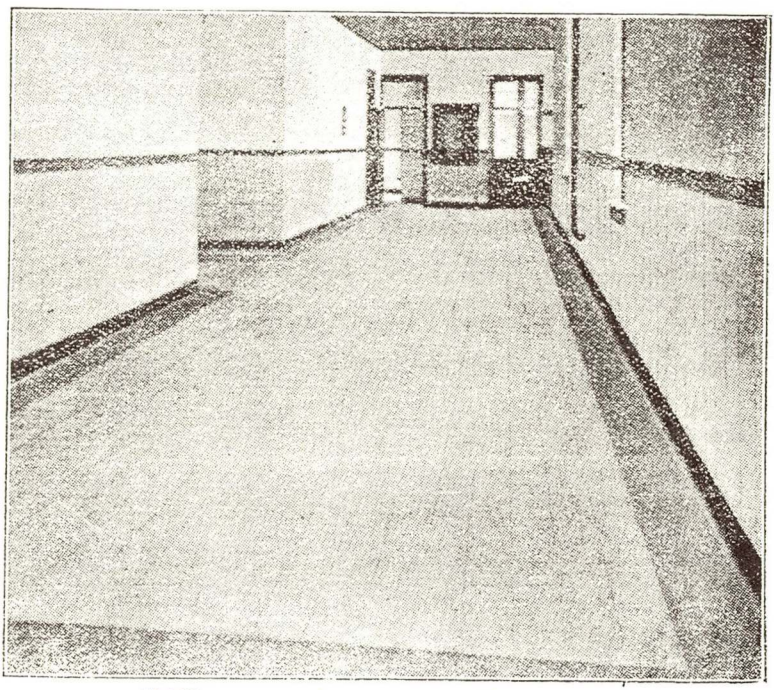
寄木細工床では選擇した木と最も熟練なる働人を要する。花や機可學的形や稀な人や獸の形の嵌込み圖案で緣どつたものは著しく完い床を



イリノイス州オークフオレースト病院の休養室設立(Comporition)床を示す

美しく飾るに用ひられる。まさか天使が雲に乘つてゐる圖案を床とすることは出來ぬが、パルナッサスやペンテリコン等は用ひられる時もある。普通用ひられ人々に滿足を與ふるものは鯡骨形縫目である。普通長さ十六、八吋又は廿四吋で、それも部屋の大さによる。平木の端は、平地(held)を成す大きな部屋にはフネンテンブラウ短形は最も美しい圖案である。その名の示す如くそれはその有名な

る宮殿に用ひられ、別して佛蘭西のチャトーに多い。柏、胡桃樹、マホガニー、チーク樹等は寄木細工床に用ひらるゝ重なる木である。米國胡桃樹は他の木の床の上張りに常に用ひられる。そして菫色の美しい床をつくるヒリピンや東洋から産するチーク樹は深い褐色あり縦線をなしてゐる。それは廣い板として用ひられその板は黒檀又はチークの切組と共に固く繼ぎ合されて用ひられる。それで木の



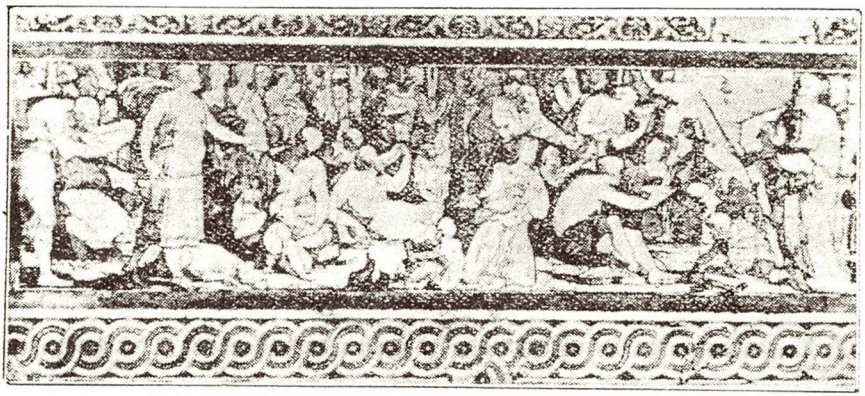
イリノイス州ロウクガンのハイスクールの漫歩廊

ピンで下の床に釘にせられる。かうした寄木細工には多くの圖案や多くの木の結合があるが、費用の點も頭に入れるのであるならば、單純な靜な圖案に滿足するに若くはない。

三

コモルク製の床は比較的近年の發明である床コルクは半吋厚さの床石ほ壓縮し、形と大さは様々にし、木又は孔あるコンクリートの下床に釘で密着せしめる。そのコルクは三様の色態をなしてゐる。その最も明るいのは自

然のコルクの色から、最も暗いのは同じ色の暗いのをとる。コルクは水を通さぬ程に壓縮されてあらねばならぬ。脂肪分もその跡をとゞむることなく、火のついた巻煙草もそのこげ跡をとゞむることなきものでなくてはならぬ。それは音のあまりたゝぬ、足あたりの柔かであるから、圖書館銀行その他同樣の性質の建物に適當しておるその床石の大さと圖案平床(field)に對する端の大さなどは、その部屋と比較して注意深く研究せらるる可きものである。筆者は端と莖を大理石としたものにコルク床を用ひてゐる。又はコルクの床に大理石の圖案を挿んでゐる。さうすればコルクばかしで全體の床を造るより生ずる餘りの功利主義的臭味を脱して、美しい高雅な要素を加



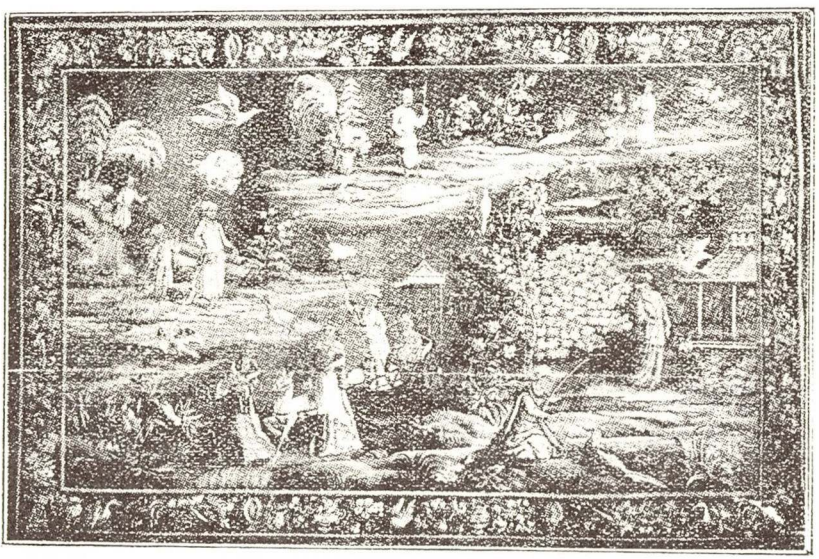
ポンペイのカセドラルの床。壁畵にもふさわしい複雜な模樣がある。

へることが出來る。又素足にもあたり心地かよいから浴室や洗濯室にも使用せられ得る。

商業通りに行くと樣々の類の組成床がある。それ等は凡て任意に組み立て得られる材料から造られる。それ等は木材やコンクリートの礎臺の上にでも平にひろがり得るものでなくてはならぬ。マグネジウム混成、セメント混成、磨石と纖維と皮との混成、鉋屑と膠とセメントとを混じたものからの構成。これ等の特長は凡て床石よりも廉價であつて、木の礎臺の上にもならべ得る點にある。その欠點は裂け損じ易い點にある。これは廣い打續いた床を走り得る特徴はもつてゐる。併し損じ易い。故に此困難を取除くために、その

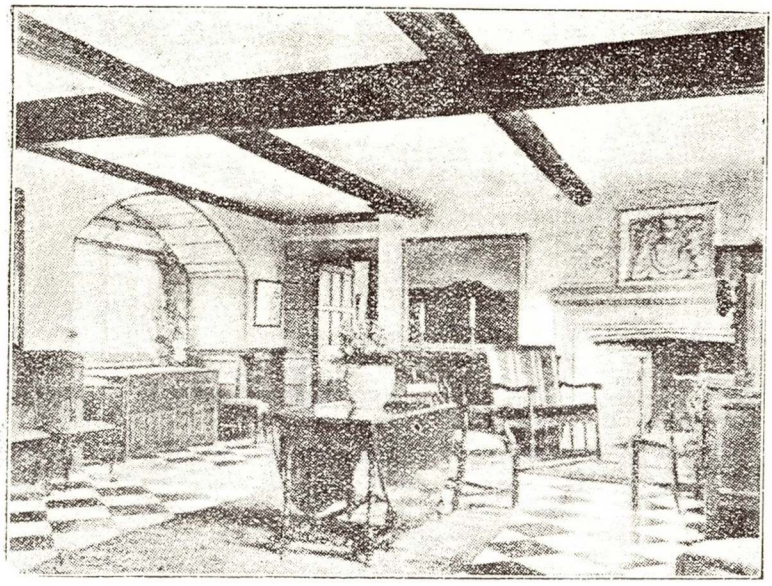
床を平方に分つ時がある。構成床の製造者等は、此困難を取り除くために何等の努力も拂つてゐない。尤も彼等は銅の小片を嵌めこんで、全體を幾部分かに分つて此困難を除かんとしてはおるが。此欠裂は部分をなしてゐる材料收縮から生ずるよりも、寧ろ礎臺の收縮から生るのである。色は樣々なるも赤が多い。

原始人は上の床の上に石材を置いて床としたが、平な石の部分は彼等の使用したその第一の床に用ふ可く富と道具の進歩と共に石材の面を平滑にし部分々々を寄せて設計をした。かうすれば功利的の目的を滿足さ

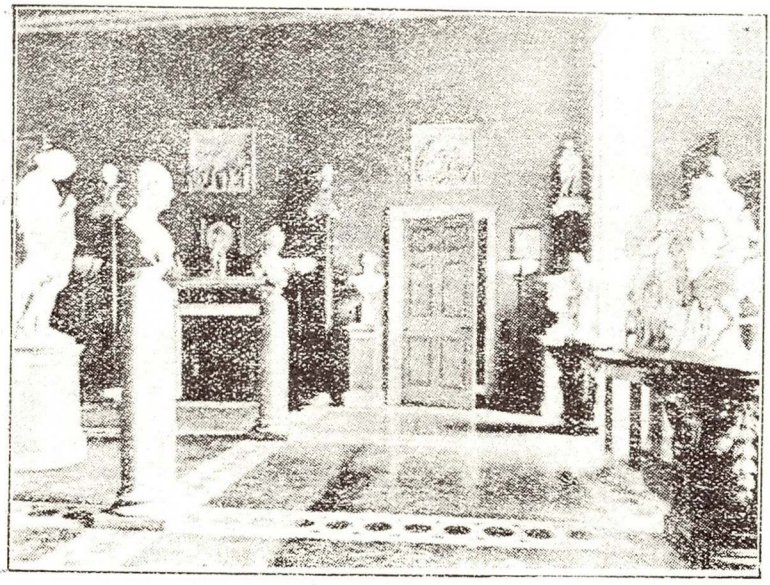


實用モザイック

せると同時に、喜を與ふる。近年迄その運般費が材料及びその構造よりも高價であつたために、その石材が豐富な地方以外には用ひられなかつた。かうした不便は却つて、建築の上に祝福を賜らした。何故なればその地方に豐富な木材をもてそれ〳〵建築する結果、各地方に特有の建物の起るに到つたからである。そのスタイル、作方、皆特色がある——。ピザ、クレモナ、ヴエロナ、シエナ等。併し今は運搬の便利なため此地方色は除かれて渾沌が來た。粗い石は部の外のポーチ又は



例一の國英、るす合配に屋部い高が石床い廣、床石理大のと白と黒

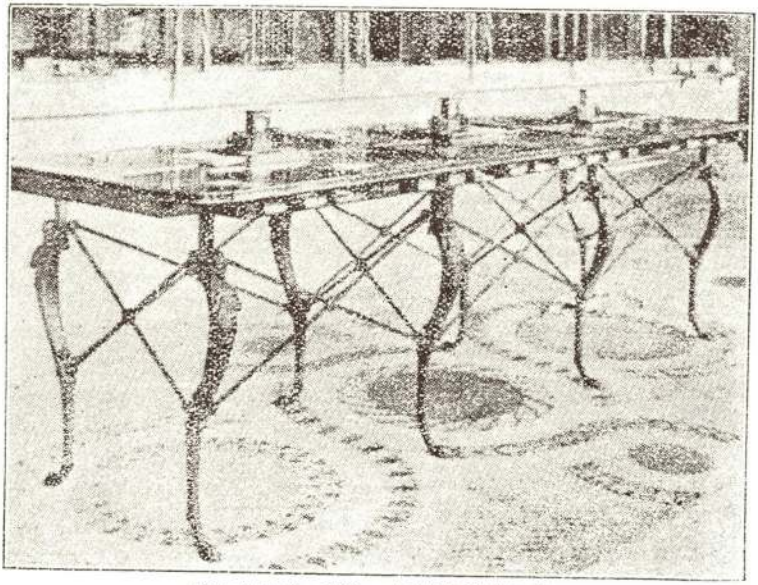


床石理大たけ分に形方正りどちふで端の色いる明しに黒を地中

温室等によい。大さも幅も様々なるものを偶然であるかの如く組み合すとうつりよく見える、石盤石もよい廣くして、色の様々なるは美しい床を造る、併し家屋内に用ふるには、立派な材料を用ふるに比かぬ。堅い沙岩やライム石等がよい、紐育市のハーバード、タラブの漫歩室（ラウレヂングルーム）は沙岩が用ひてあり、その部屋のホームライクなのとよく相うつゝてゐる。

四

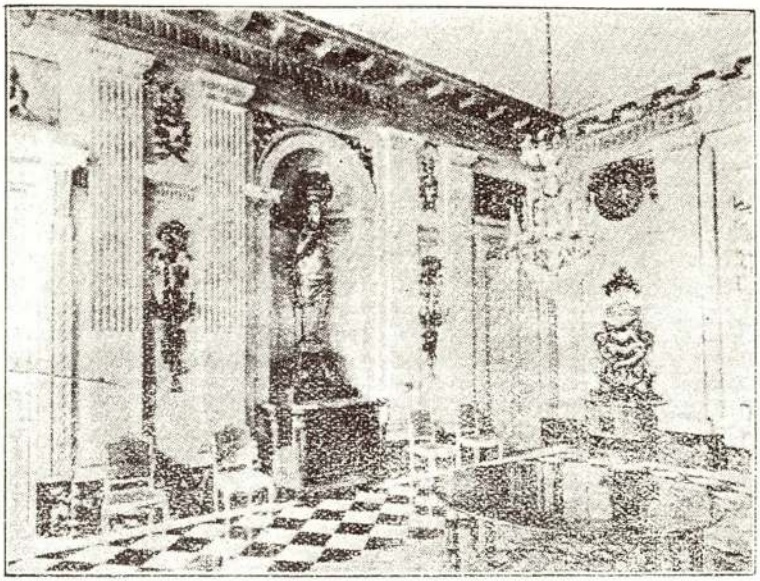
煉瓦は廣く戸外の床に用ひられる。滑かな堅い表の色の赤い床が出來る。若しこれに亞麻仁油を塗るなら



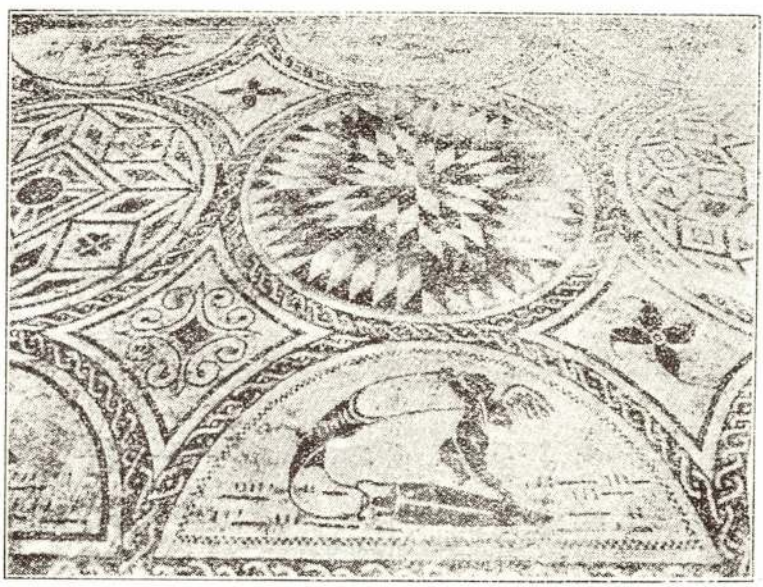
美しき意匠を示す。近世モザイツク床

ば、その赤色は一層深く豊になる。そして模様も中地、端ともに様々に設け得られるし、別してポーチ、サン、ルーム、ホール等には善いが、併し又コツテーヂや原始的の趣が欲しいならば、居間や食堂にもよい。灰色の滑かな煉瓦もあるが、赤煉瓦に比かぬ。兎に角煉瓦は面白いものである。

瓦は火に害はれぬ程の堅い程度に粘土を焼いて製したるもの、光澤あるものもあるしないものもある。白い又は精美な光澤ある衛生瓦は、最も一般に浴室や臺所や食器部屋や外科室等の壁を蔽ふ



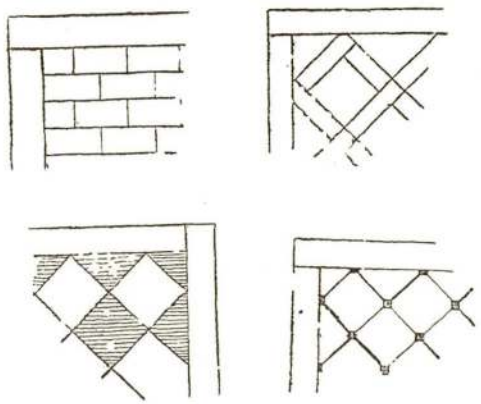
例一の西關佛、のもるあ設〻もかしな雅高てしに純單。床石標大つと白と黒



古のモザイツク床、樣々の花形の配合

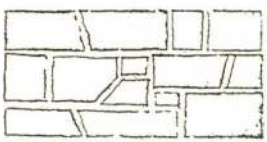
ために用ひられてある。清潔の程度から言へば此れに比くものはないが、併し技巧的には全く價値がない。色が全くないといふことは何よりの欠點である。

故にフエイエレス瓦（faience tiles）として知られてゐる色ある光澤の瓦を、だん〳〵壁にも床にも用ふる樣になつてゐる。陶製瓦は半吋とか又は四分の一吋四角とか又は六角の小さい瓦で、壁や床に用ひる。普通二三吋六角である燒附瓦よりも薄いから廉價である。これは紙のシーツの上にのせるか又は



大理石床の意匠、始めの二つは凡て白大理石より成つた單純ものもの。他は白と黑との結合。

紙のシーツと共におくかするが故にその瓦を一片々々敷くよりも敷く手續は早いわけである。大さが小さく



粗い石床か床補强成らか、不規則に敷かるゝ處に特色あり、

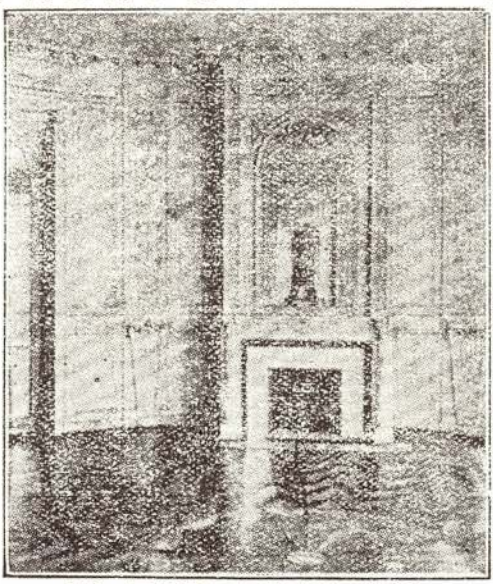
して廢水の溝を走るに適してゐるから、室内水泳池などに使用される。

フエイエンス瓦は反る憂ある處か



ローマの聖クレメント教會のバシリカのモザイクと大理石床、樣々の單色な意匠の多樣を示す。

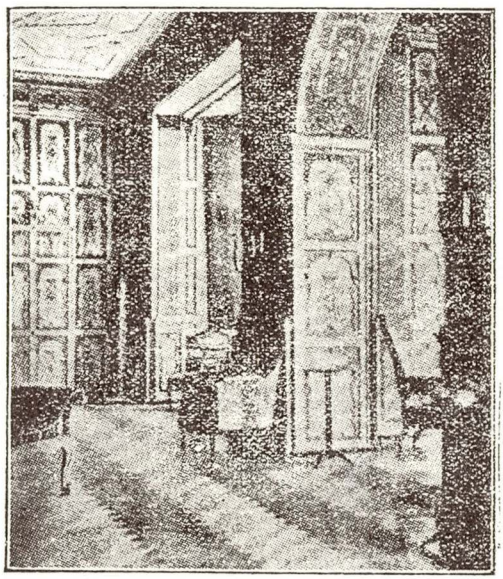
ら六吋以上の大さあるものは尠い。最大の普通のものは十二吋四方になつてゐる。併し床に用ふる普通の大さは九吋で、色は赤黒い。形も六角のも三角のもあつて、形の様々な處から、その結合も多様性あり、様々の喜しい模様を現出する。その色に於て虹をしのぐものがある。色彩の豊潤なると深きとに於て他の如何なる床の材料もこれに勝るものはない。色の技巧的にして模様設計の多様なる有様正にペルシヤ、ラッグに比適するものがある。若し夫れこれを色大理石と結合する時には、想像を誘ひ情緒を刺激すること抗し難きを覺ゆる程である。故にカセドラルヤ會堂に用ひられる。すると足許のあふるゝばかりにほひこぼれてゐる色合が、上の色硝子に照り榮える。羅馬の廢趾から、様々の色の磨かれた大理石の小片から成つた床が堀り出されてある。設計と色とに著しく秀れ、こみ入つたデリケートな模様の多様なる眩く可きものがある。文藝復興期の時代のものは又立派な意匠を加へてゐる。近世の美しい床は右の二つの源泉からインスピレーションを汲んだのである



興味深い寄木細工床、輪廓意匠、色彩の對照を示す多くの木材よりなる

モザイック床に似たもので、しかも全然排置の組成、風態の違つたものはテアラッツツオ（Terrazzo）床であるこれは八吋から八分の三吋迄の大理石の様々の大さの小片にセメントと水を混じて、それを注ぎ平かにし固めコンクリートの如くした上で、滑かな表になる迄に磨くのである。色は混ぜられた大理石から生れてる。事務用建物やホテル等の廊下にこれが用ひ

られて、灰色、明るい色を出してゐるが、結果は善い。これは實用的の床であるが、併し想像と知識をこれに加ふれば、秀れた裝飾的價値を發揮することが出來る。こゝに藝術家が振動的な破格な色の價値を發見した。こゝに建築家が、破格樣々の色を用ふることが出來る——ベルジウム大理石から黑をベルデ・アンチークから綠を、シエナから黃を、ラウ・デ・リオンから赤を、フロイ・デ・ペロチエからバラ色をブレチエ・ヴイオレッテから菫色でその他白、薄灰色等樣々に取合せられる、かうすれば一定めの範圍內で樣の幻想的意匠を造り得る。取合された眞鍮に一層のゆたかさを加へられて、不思議なる新しい光を念ずる。

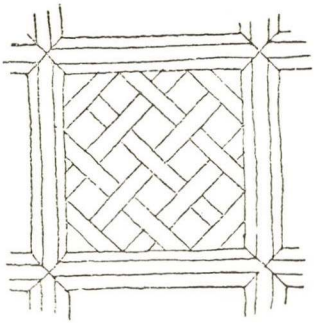


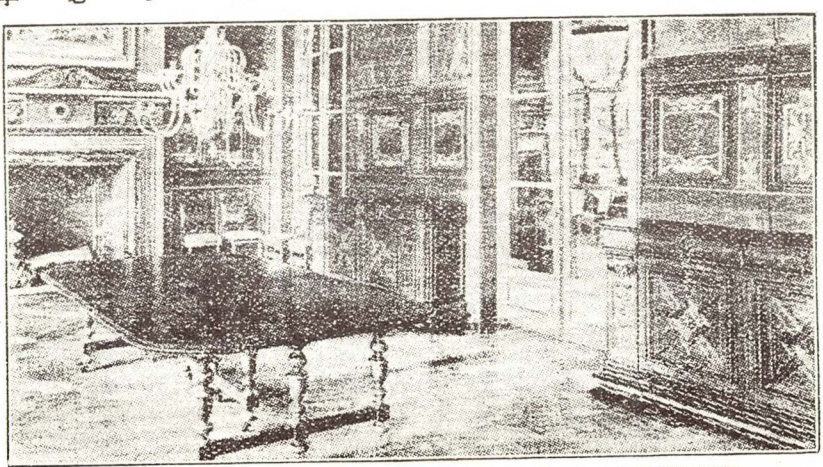
最も單純な寄木細工床。 雁木形排列

五

大理石床に共通な一の特徵がある。それはその端邊にある。部屋の周圍をなす廣い一個又は數個から組立てた端、又はおほくの小片から成つた模樣や緣がこれである。この緣の廣さは部屋の大さ床の意匠に比例せねばならぬ。緣がなくては大理石床は恰も未完成の繪畫の如く見える。色は平面よりもより暗いより複雜なものにすれば、立派な意匠が現れる。接待室とか食堂とかの儀式的要素を要する部屋には、筋違にした黑と白とを結合し、端を黑又は白に地覆を黑とすれば最も喜ばしい模樣を織り出してくる。他の單純な意匠は筋違に挿入しだ小さな黑又は他

の大理石を水平的に配列した矩形から組成した床である。端と中とは同一とある、こゝに大理石の色は、部屋の著しい色を成すカーテインや重なる大きい道具類の色と、つまり部屋全體の色と對照し調和し、その色を抑へ又は力づけて、體の裝飾の中に著しい役目をするのである、此等の單純にして、しかも多くの考の籠つてゐる床には以下の四點が必要である。第一端が部屋と床の中地とが釣合ふこと、第二中地の矩形の大さと部屋との關係、第三中地の矩形への嵌込みの大さ、第四總飾全體との色彩の結合。此中の一を誤まつても、成功した床は得られない。單純に見ゆる床も實は複雜にして多くの關係に支配せられてゐる。凡ての大理石、モザイック、テアラッウオ床にはしつかりしたコンクリートの基礎が必要である。そして眞鍮や鉛の模樣鋪石や大理石モッイザクをそれに挿入し得られるコロムビヤ大學の圖書館の玄關にはかうした類のものがある復雜な眞鍮の挿入が十二宮を現はしてゐる。又大理石床にフエイエンス鋪石を加ふる等は深い豐潤な色を現はすが、ニユヨルク市のセントトマス敎會の通路にさういふのがある。





有名なるフオンテンブルウ矩形(上はこれを詳しく示したもの)
興味深い意匠大きい形が廣い場所に適應せるに注意せよ。

船尾の簡易住宅村

翠煙庵主

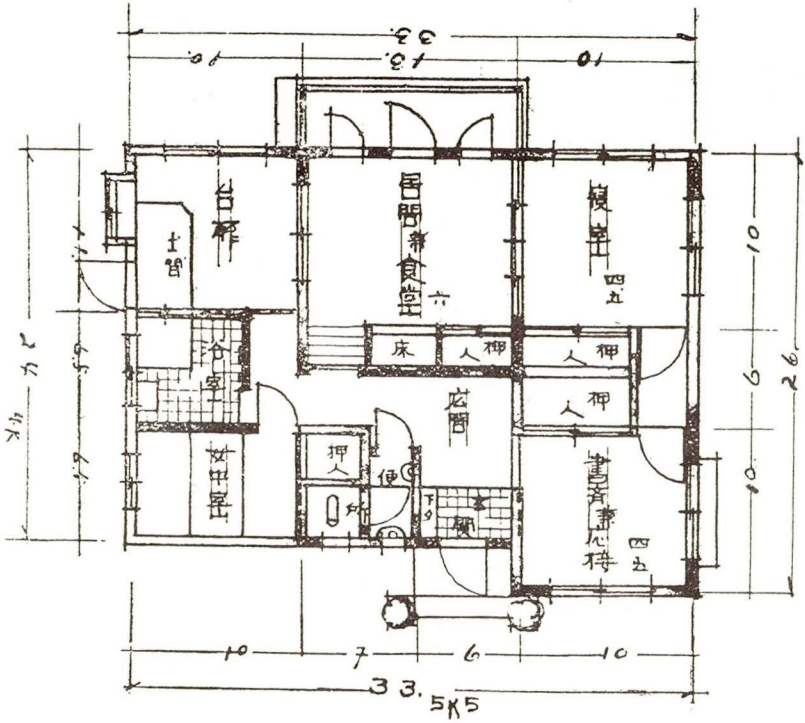
『近時生活改善の叫びは、社會問題として重大懸案の一となつて居ります。就中生活の基本となる住宅に於きましては、一層此の感を深くするのであります。どうかして、此の住宅の改善が一日も早く解決の緒に就く樣に致し度いものであります。

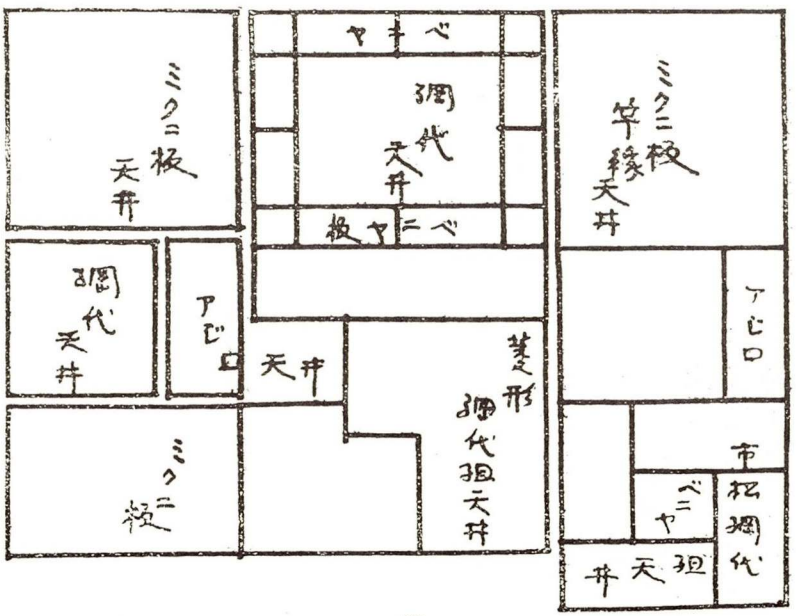
ところで、一般住宅の代表的のものは、中流若くは、其れ以下の住宅であつて、然も此の程度の生活に適はしいものは經濟的に出來上り、且つ文化的色彩に富んだ、所謂簡易住宅でなければならぬと考へて居りました。今回堺市山田氏の依頼により、本校模範職工園に於て、愈々具體化するの機會を得まして、茲に簡易住宅村建設の第一歩として、先づ以て三戸を南海沿線舟尾の一角に建築致して見ました樣な次第で、特に記者各位の忌憚なき御高評を仰ぎ度いと存じます。』

大阪府立西野田職工學校の飯田模範職工園長から彼樣な案内を受けたわたくしは、各社の記者達に混じつて、親しく觀覽の榮を得た。

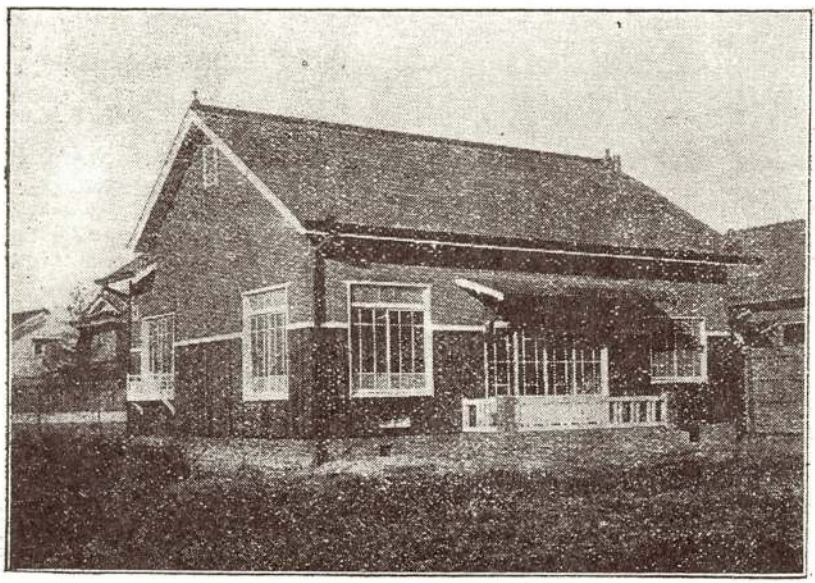
先づその第一號住宅を主として紹介せむに、大觀した處で、奈何にも件の理想を忠實に具現しよう、とした苦心の程を窺はれ得た。全體としては保健的條件と、趣味的關係と、利便的施設と、斯の三條件を一貫するものに、所謂最少の經費を以て最多の効用を獲る、といふ經濟的條件が必要であるが。その點は、確かに斯の住宅に見出された。例へば、廣袤（スペース）を奈何にも巧みに約用したる點に於て、多くは金物締めとなして、大工手間を可及的節約したる廉に於て、用材に廉價な材料を用ひ、これを構造の方法と塗料の應用抔に藉りて、巧みに美化したる點に於て、充分に窺ひ得られた。隨

第一號住宅


33.5K5
10
7
6
10
台所
土間
居間兼食堂
六
寝室
四五
床
押入
押入
押入
縁側
便所
浴室
洋室
四五


ミクニ板
天井
ヤキベ
板ヤキベ
アジロ
天井
ミクニ板
竿縁天井
アジロ
市松棚代
ベニヤ
天井
ミクニ板

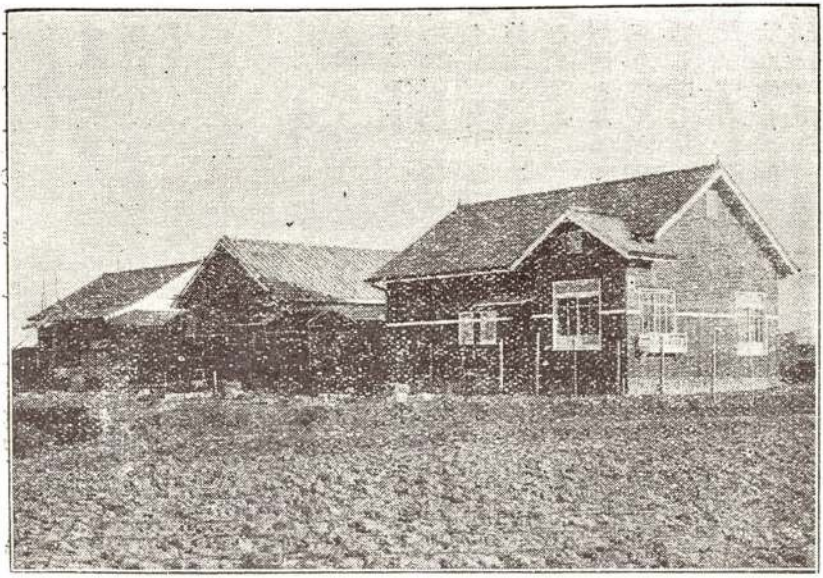
つて、各室の連絡には充分意を用ひて、頗る簡素に利便ならしめ、同時に、室屋の何れとして、恒に何かの利用に供せられざるなき、謂はゞ、毎日幾回かそれ〴〵役目を果すといふ些の無駄なき活用振りを發揮せしめてゐるのは、斯の種な建築として、又、所謂文化的住宅としての當然な狙ひ處であるっ例へば、居間を食室に兼用して而も、各室中、居間を最も廣く取りたる如きは、流石に設計者の家族本位たる聲明に背かない。就中、居間に隣



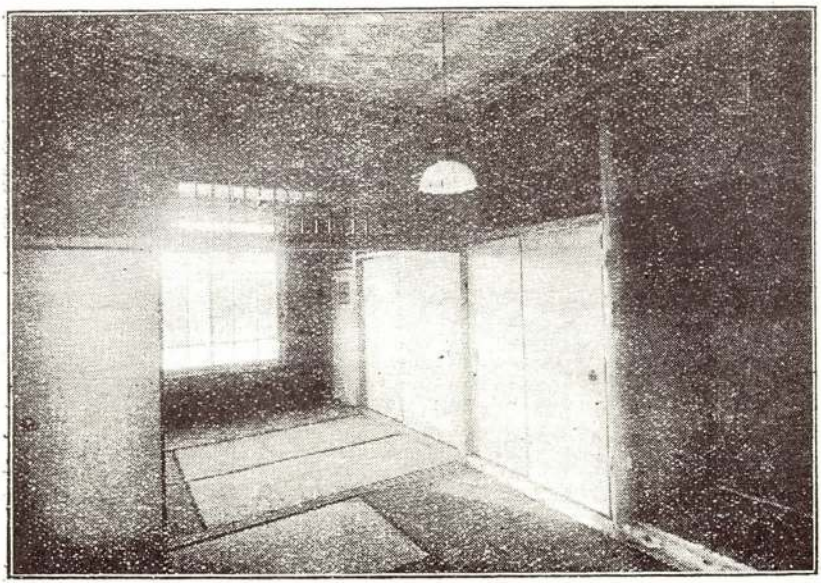
第一號住宅

りて、臺所を廣く取つたのは、主婦の最も欣ぶ處であると同時に、家族の食堂として常用に供してよい。書齋を接客室に兼用せしめたる如き、平凡のようで實は要約的な設計としては斯う來るの外はない。

全體としてのスペースが餘り廣からざる中に、浴室を比較的廣く取つたのは、奈何にも印象を唆つてゐる。是れは大いに理由ありとのことである。曰く『外に在つても內に居ても、等しく一日の繁多な衝觸と刺戟に應接し



第二號及第三號　住宅

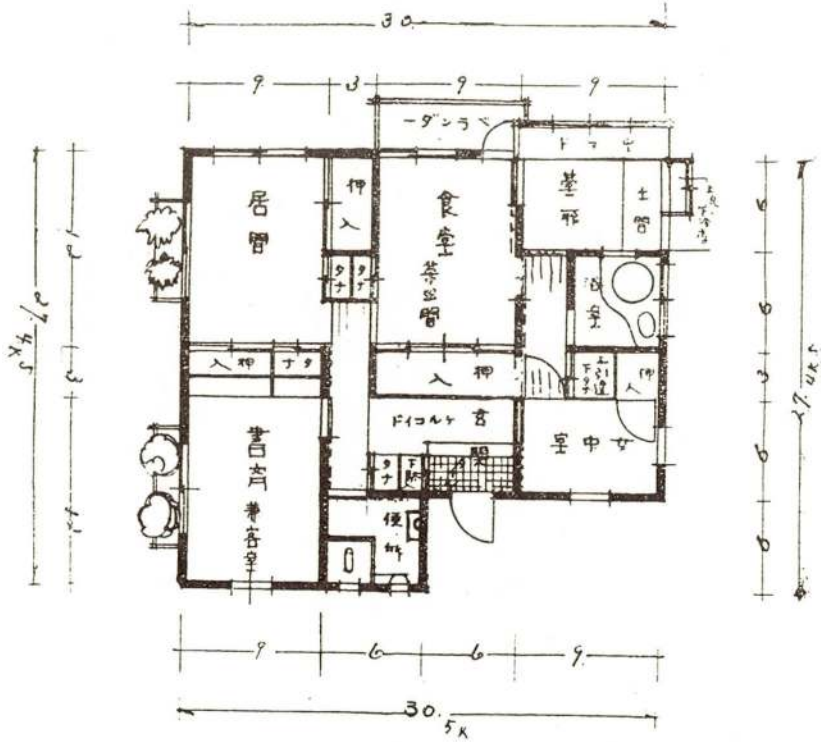


第一號　住宅內部『居間』

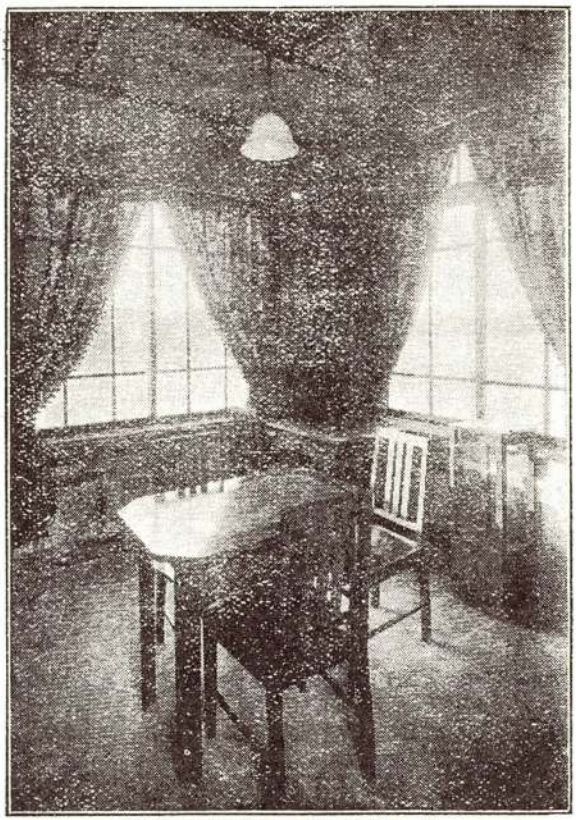
て、心身の疲憊と共に一日の戰ひを畢り、扨て徐ろに世の戰塵を洗ひ落して、家庭に安息を味ふには、殊に日本人の習慣として温浴に先づ出發點を求めなければならぬ。されば風呂場は斯の意味に於て家庭に於ける重要な設備の一つである。殊に斯る田園生活に於ては一般と然らざるを得ない。是ぞ浴室に重きを置いた所以である』と何んでもないようで、實は用意の奈何にも周到さを懐はしめる。

有り振れた『晩霞樓（バンカロー）』式に似て、實はそれで

第二號住宅



もない樣式は、餘程、創造味の新しさを偲ばしめるが、南方に位置した『居間』の硝子障子を堺に雨樋代りのヴエランダーを設けたのは、簡素な文化的住宅として無くてならぬ設備であるが。是に冬季は硝子障子でも取附けて、一種のサンルームと成すも可いであらう。平野に位置せる事と、各室の配置を、孰れも偶角の一點に持つて行つた事は、光線を攝るに申分なき非常に明るさを感ずる。只、暖房裝置は



第一號住宅内部「書齋兼接客室」

設計の中流程度な住宅として、設備費及び經常費抔の經濟的關係上、稍々難問題の一つであるが、斯の點に就いては、自然の溫熱を利用して、『居間』を南方に、硝子障子を用ひたるは、蓋し、餘儀なき事であらう。序でに、排泄物の處理を在來の儘となしたるは、亦同樣に建築費の關係上止むを得ない次第だ、と想はれる。

以上は、ほんの素人觀としての走り書きに過ぎ

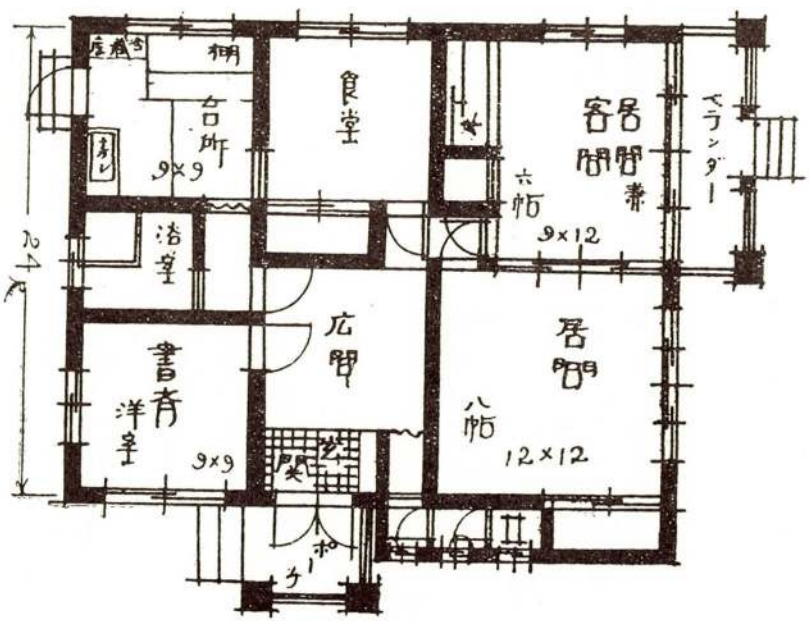
ない。兎も角、斯うい作物が隨所に試みられその一つ〳〵が孰も相當な主張と特異點を有つてゐるのは、過渡期に於ける日本の住宅が大成する一つの進化點と觀て可い。妄評多謝

□春曉や煙崩るゝ
　松の中

□拓き野の燒土匂ふ
　朧かな

□苗うらゝ乾くまゝ
　土の匂ひぬる

第三號住宅





米國に於ける炭坑夫の小住宅

それがし

一九一六年の後半期に於て勞働統計局は、合衆國に於ける使用主の設立に係る勞働者住宅の包括的踏査を了つた。此調査には西ペンシルヴァニア西ヴァジニア、オハイオ、インヂアナ、ケンタッキー、テンネッシー、アラバマ、コロラド、ウアイオミング諸州に於ける炭坑會社經營の諸部落を包括し、且殆ど專ら部落の優良なるタイプを含む研究の結果として得たる若干の事實は左の通りである。

一、坑夫の大部分に對して舍宅を供給することは炭坑經營者の責任となつて居る、炭坑町が概して遠隔なること、礦業なる一種の產業に屬すること、又往々其の事業の非永久的なること、地方的自治の一般に缺如せること、並に勞働者の移働性等が坑主に此責任を持たせることを餘儀なくしたのである。

二、概して會社の炭坑町は他の國體生活に於ける如き愉快に乏しい。家屋の外觀は無趣味に

劃一的で、樹木や自然の植物を缺いて居る。街路や路次は殆んど例外なしに有の儘の泥路で、歩道などは極めて少い。

三、坑夫の住宅には、市内勞働者の家に見る如き普通の屋内設備がない。瀝青炭坑地方に於ける舍宅の百分の二以下が僅に屋内に便所を有し、給水線を有するものは稀である。煖房は專らストーブ及び火格子に依る。

四、坑夫の舍宅は一戸平均四室位に當る。之に家族を收容し、又屢々舍宅不足の場合には同居人を置かねばならぬ。

五、坑夫舍宅の家賃は比較的廉い、大多數（一八、八七七戸の內一、二、三四三戸卽ち六五、四パーセント）は一九一六年に一箇月八弗以下であつた。若干の例では、家賃は會社の舍宅に住する坑夫の賃金に對して補助金の意味になつて居る樣である（瀝青炭坑總數の幾割が會社舍宅に住して居るかは不明）

一、踏査の範圍

此踏査は期せずして炭坑會社が其の使用人に供給して居る。實際に付てセンサスであつた。併し觀察の結果、會社舍宅の實行は非常に廣く行渡つて居り、且各炭坑會社とも同樣であることが解つた。瀝青炭坑地方に於ける踏査の範圍第一表の通

地方	會社數	部落數	使用人數	舍宅居住使用人數	舍宅居住使用人百分比
ペンシルヴァニア及西ヴァージニア	三三	(1) 一二四	七八、三八	四三、八七七	五六、一
オハイオ及インヂアナ	三	四	一、二七	六八八	五三、五
アラバマ	二四	二九	(2) 八、六四	(2) 一五、〇三五	八〇、四
コロラド及ウアイオミング	五	一六	四、六四一	三、一四八	六七、八
計	六四	一五二	一〇三、八四三	六二、七四八	六一、〇

備考 (1)部落數を報告せざるもの一會社あり
(2)舍宅居住人員の報告なき使用人五百を有する一會社を除く

二、町及家屋周圍の設計

各會社炭坑町の主なる特性は其畫一的なることで、是は同型同大の家を造つて、方形の測量線に沿うて之を排列する傾向に依るものである。炭坑地の今一つの特色は美的要素として草木を植る利益を閑却して居ることである。これに反して炭坑町は比較的廣い街路と廣濶な宅地を有することを特徴とする。街路は通常舖裝のない、有の儘の泥

路で、歩道は極めて稀であるし、垣や草生の庭などは、部落中の上等の部分にしか見られない。

礦坑に近く舍宅を置きたい爲めに、屢々健康と慰安の條件を犧牲にしてゐる。それでコークス製造區では、蜂窩爐の有毒瓦斯の爲めに不毛になつた山腹に隣接して家を建てたのがある。又屢々爐に密接して町を造つてある上に、其の地方の常風位を考慮に入れてないのがある。西の常風で、東向の家は常に煙に卷かれる處がある。從つて荒涼寂寞の狀態が此地方では全く普通なのである。所で或る經營者は、交通機關の改良の爲めに、礦坑に近いとふことは今では以前のやうに大切でないと言つて居た。是は郡が可なり近くに殖民してゐるペンシルヴアニアの瀝青炭地方では殊に眞實である。其處の勞働者は七哩もある。附近の市から定期乘車券で通つて居る。所々に孤立した小舍は今もあるが、是は卓見ある支配人の一人が言つた樣に、全く惰力で存在して居るので、昔の個人々々で所有して炭坑の散在してゐるのが、礦區が一會社の支配に歸したと同時に一つの町に結合されなかつたことは不幸である。

三、家屋の年齡

瀝青炭地方の舍宅の五分の三(一二三、一五八戸の內八、〇二四即六一パーセントは)一九〇一年から一九一〇年までに建てたもので、一八八一年前に建てたもの若干は猶ほ使用されてゐる。西ペンシルヴアニアの瀝青炭地方に用ひられてゐる家屋の形式は、炭坑の始頃にあつたものと餘り變つてゐない。

四、家屋の形式建方

青炭地方の家屋に最も多い二種の樣式は、一戸建獨立家屋と二戸建、即ち片壁隣の家であるがペンシルヴアニア、西ヴアーニジニア、コロラドウアイオミング地方には長屋建も多少ある。

バーミンガム郡で最も多い家屋の設計は、約三十八呎平方の方形屋根(ホウヴヤウネ)で、屋根の中心に煙突があり、表上り口は間口一杯の椽側になつて、裏にも小さな上り口がある。是れ等の家は一般に地面から四呎又は五呎の高さの煉瓦積の上に建てられ、床下は通常圍まれてゐない。

テンネツシー及びケンタツキー炭田には、切妻屋根の小屋（ツーピー）が多い。是も亦窖なしで裏表に上り口のあるのが普通である。

南部の小さな町の總てに稍々特有なる家の型は"Shot gun" house と謂はれてゐる。細長い箱の様な形で、一列に三つの室に仕切り、各室を通ずる戸は多く一直線上にある。面白いが、併し餘り感心しない遣り方がコロラド郡の一會社の部落の一つにある。其處では各三室宛の二戸建家屋が三箇の住宅となる様になつてゐる。表上り口は別々にあつて、二軒の表の室と室とは戸で通じてゐる。それで此建物に三家族を住ませる必要があるときは、一家族は表の二室と表上り口を取り、他の二家族は各眞中と裏の二室と裏上り口とを取るのである。

會社舍宅は大抵木造で、外部は下見板、羽目板又は板壁である。板一枚だけの厚さで出來てゐる古風な板と小割の家が、また懸離れた部落などには多少用ひられてゐる。ペンシルヴアニ及西ヴアージニア地方の普通坑夫の家は野地なしで下見板が直接に枠組に打附けてある。コロラド及びウアイオング地方では、一大會社の十二部落の家屋の内約七四パーセントは枠組（その六分の五は羽目板張）で、約一〇パーセントは無地コンクリート建、約一七パーセントは礫たゝき仕上（Pebble dash finish）で、その灰色のコンクリート壁の單調は變化ある色々の色で補はれてゐるといふ報告がある。

坑夫舍宅の多數は内部は漆喰塗になつてゐるが又所謂 tongue and grove material と稱するもので、天井を張つたのが之に劣らず多い、そしてその中には往々著色してないのもある。若し壁紙を貼つてあれば、それは大抵借家人の費用で遣つてゐる。内部の木材部は私で、通常ペンキ塗、ペンシルヴアニア、西ヴアージニア、オハイオ、インジアナ地方の家では、殆ど例外なしにストーブ又は火格子を焚いてゐる。又上記の地方でも監督、職長などの高等家屋は漆喰塗、壁紙貼で、多くは會社設備の煖房爐、又は蒸氣暖房裝置がある。炭坑町、殊にペンシルヴアニア、西ヴアージニヤ、

アラバマ地方の特色は家屋の塗色の單調なことで此點では多くの町に於ける總ての舍宅を通じて精密に一樣である。中には惡るく塗料を缺いでゐるのがあり、又怪しげな胡塗の小屋（コッテージ）がテンチッシーの炭坑町にある。

五、舍宅の大きさ

大きさには事業の種類と地方に依つて著しい相違がある。一家族住宅の最も普通な大きさはペンシルヴァニア及西ヴァージニア瀝青炭地方で三室又は四室オハイオインデアナアラバマ、テンネッシー、ケンタッキーでは三室又は四室、コロラド及びウアイオミングの炭坑町では四室である。アラバマ、テンネッシー及ケンタッキーの瀝青炭地方には二室家屋は可なり多く無理炭地方の代表的舍宅は五室又は六室である。

住宅毎に各異る室數を有する有煙炭坑に於ける會社舍宅の割合は第二表に示す、比較の爲めに他の鑛山地方を包括する類似の報告を附記する。

第二表　事業及地方に依り各戸異る室數を有する會社舍宅の割合

事業及地方別	總數	各室數に依る割合 三室以下	五室	六室	七室	八室以上	計
瀝青炭坑	二、七二一	三五、五	二五、四	二一、九	一五、一	一〇、〇	一〇〇、〇
ペンシルヴァニヤ及西ウアージニア	二三五	一二、八	七八、三	六、〇	三、〇	—	一〇〇、〇
オハイオ及インヂアナ	五、九八	四七、〇		七、八	三、九	三	一〇〇、〇
アラバマ	一、三四	二一、七	六四、三	五、六	七、八	五	一〇〇、〇
コロラド及ウアイオミング	一、八、八七	三七、八	三三、〇	一六、四	一一、一	八	一〇〇、〇
計	五、三一〇	五三	一七、三	三〇、二	三三、四	九、〇	五、八
無煙炭坑	一、〇七一	七	一〇、八	三八、七	一八、三	八、六	一〇〇、〇
鐵坑	三六三	七〇、九	二三、四	三、三	三、〇	三	—
ミシガン、ウイスコンシン	一、四三一	一八、三	二一、二	二九、九	一四、四	六、五	九、七
ミネソタ	九〇八	一、四	二八、九	三四、八	五、七	二、九	一六、二
アラバマ							
計							
銅坑ミシガン及テンネッシー							
銅及金坑アリゾナ、ニューメキシコ、コロラド							
計							

六、衛生設備

炭坑町に衞生設備は極めて稀である。有煙地方では一六、八九六戸の內二一二戸即ち一、九パーセントが僅かに屋內便所を有し、一六、五八四戸即

ち九八、一パーセントは屋外便所である。稍密集してゐる無煙炭地方では屋内便所一九、五パーセント屋外八〇、五パーセント各地方に於ける詳細の數字は第三表に示す、茲にも亦比較の爲め他の大鑛業を附記する。

第三表　事業及地方別、屋外便所を有する會社舍宅の數及割合

事業及地方別	住宅總數	屋内便所		屋外便所	
		數	百分率	數	百分率
瀝青炭坑	一〇、二九	二五四	二、五	九、八六五	九七、五
ペンシルヴァニア及西ヴァージニヤ	二三五	三	一、三	二三二	九八、七
オハイオ及インヂアナ	五、三八	五五	一、〇	五、二七三	九九、〇
アラバマ	一、二二四	—	—	一、二二四	一〇〇、〇
コロラト及ウアイオミング	一六、八九六	三一三	一、九	一六、五八四	九八、一
計	四、〇二四	七八五	一九、五	三、二四九	八〇、五
無煙炭坑	一、〇五七	一六九	一六、〇	八八八	八四、〇
鐵坑	五二四	二〇	三、八	五〇四	九六、二
ミシガン、ウイスコンミン	一、八九	二一、〇	一、三九二	八八、〇	
ミネソタ	二九六	三二、六	六二	六七、四	
アラバマ	六四二	二八九	四五、〇	三五三	五五、〇
計	一、五五〇	五八五	三七、七	九六五	六二、三
銅坑ミシガン					
テンネツシー					
及金坑アリゾナ、コロラド、ニューメキシコ					

七、

會社の監督の下にある炭坑町には、小數の特例を除いては注意深き維持が缺けて居る。五十三部落の中十三までは塵芥取集めもなく、又塵芥處分の設備もない。十會社は二箇月に一回又は其より少く部落の塵芥取集をして居るといふ報告があつた。

屋外便所のみ設けてある所で、便利の普通の形式は Open vant 式である。其の地方での最大の會社が經營して居るバーミンガム郡の町の一つでは、罐形便所を一般に採用してゐる。此會社は又其の屋外に目隱しを設け、如水分解法で内容物を處分する。

ペンシルヴァニアの炭坑地方では、有煙炭でも無煙炭坑でも古風の汲取方法が一般に行はれてゐる。併し稀には便壺が充滿すれば便所を方々へ移轉する方法を取つて居るといふ報告があつた。

庭と宅地内の狀態――會社町の庭と家屋の狀態は同じ場所でも、同じ種類の使用人の間でも著しく異つてゐる。それで此相違は之に對する會社の注意如何に因るものであると結論するが本當で、よく人の言ふ樣に庭などを汚くして置くのが勞働者の癖だとは言へないらしく思はれる。一般に言へば、會社が街路の清潔を保ち家屋を修繕する組織に注意して、其の仕事をする一定の人夫を有する所は慨して庭なども綺麗にして居る樣であるし又是には借家人の爲めに、雇主から塵芥箱を供給することも一つの方法てある。西ペンシルヴアニアで最も大きい石炭及コークス會社の總監督の經驗に依ると、一度會社が完全な家と綺麗な宅地とを供給すれば、使用人殊に其の妻が家の維持に新しい興味を持つやうになるさうである。斯ういふ改良を續けて行くことは望ましくもあり、又要求されてゐる。家屋の周圍を氣持好く行儀正しくする標準が既に出來て、それを持續しやうといふ熱心なる希望がある、是には雇主は有利の地位に在つて、此點に關する雇主の規則は、官憲の保障に依つて、之に背く者を解雇することが出來るのである。併し時として雇主の方で、勞働者不足などの場合には、宅地内を見苦しくしたり、規則の勵行を怠つたりすることを寬容する傾向がある。是は近眼的政策と言はねばなるまい。長い間には清潔美觀、慰安等の特色に對する會社町の評判が勞働を引寄せる基となるといふのが關係者の意見である。

又使用人の側では、殊に勞力過剩で仕事の競走が劇しい時などには家主であり、使用主である必然の權力に對して、家の正當なる維持改良を要求し兼ねることが間々ありさうに思はれる。

八、舍宅の家賃

殆ど例外なしに、炭坑會社では總ての家を賃貸してゐるので、賣渡したのはない。石炭は或年限の後には掘悉されるもので、炭坑の繁榮が其の性質上幾分一時的であるから、家を賣るのはよい事とは思へない。此處に示す家賃は一九一六年のもので其の後增加して居るかも知れぬ。

ペンシルヴアニア及び西ヴアージニアーペンシ

ルヴアニア及西ヴアージニア地方に於ける坑夫宅舍の家賃は一般に、一箇月一室一弗から二弗までである。此家賃は、此地方で踏査した三十二會社中の二十七會社では水代を含んで居る。二會社では又燈火を含み、三會社では尙ほ石炭をも家炭をも家賃の一部に含めて居る。

アラバマ郡――アラバマ郡に於ける會社舍宅の家賃は廉い樣である。五、六九八戸の內一、六五二戸、即ち二九パーセントは一箇月六弗以上七弗以下、四、二四四戸、即ち七四、五パーセントは一箇月七弗以下である。

コロラド及ヴアイオミング――完全なる報告を得た一、二三四戸の內七八、五パーセントは一箇月九弗以下、二〇、九パーセントは一箇月七弗以下である。家屋の四分の三は一室一箇月二弗から二弗半まで新しい家も古い家より高くはない樣にりはれる。大會社では、家賃は使用主と使用人との間の產業契約に依つて定められてゐる。

一般には家賃は家と水とを含む、一會社に屬する十二部落の全部は、表上り口の電燈一箇を家賃に含めて居る。是は街路を照らす爲めである。此十二部落中の三部落では、水が乏しいので、別に水代を取る、四箇の獨立部落では、二樣に水代を取つてゐるが、其一つは一戸一箇日二弗である。

四箇の獨立會社中三會社は電燈料を報告してゐる。一は一箇月一燈三十五仙、三十五仙、次は同五十仙、第三は供給する電力により一戸一弗半乃至三弗である。十二部落を支配する會社は、上り口の一燈を除き一箇月一燈二十五仙を徵收する、ウアイオミングの一部落では、最初の一燈を一箇月一弗とし他は一燈に付七十五仙を取つてゐる。

第四表は瀝青炭地方に於ける會社所有家屋の家賃に關し得られる丈の報告を纏めたもので、他の鑛業町に於ける會社舍宅の家賃は比較の爲めに載せる。

第四表　事業及地方別、一箇月家賃の異る額に依る會社舍宅の割合

事業及地方別	一箇月家賃の類に依り區別したる住宅割合										
	住宅總數	五弗未滿	五弗以上六弗未滿	六弗以上七弗未滿	七弗以上八弗未滿	八弗以上九弗未滿	九弗以上十弗未滿	十弗以上十四弗未滿	十四弗以上十八弗未滿	十八弗以上	計
瀝青炭坑											
ペンシルヴアニア及西ヴアージニヤー	二、七一〇	四、二	一〇、三	一七、四	二八、八	二三、〇	六、四	九、一	一、五	二	100、0
オハイオ及インヂアナ	二、三五	—	—	—	—	四八、五	五九、六	二六、四	一、三	—	100、0
アラバマ	五、六九八	二五、六	一五、九	二九、〇	二一、六	六、二	三、二	四、〇	、四	二	100、0
コロラド及ワアイオミング	一、三三四	二、八	五、三	二、八	五、二	五二、四	、八	一九、三	一、三	—	100、0
計	一八、八七七	一二、七	一一、五	二〇、五	二一、七	一九、五	五、三	八、六	一、一	一	100、0
無煙炭坑	六、八二七	三五、四	一九、一	一八、五	一〇、九	七、五	二、三	四、五	一、一	、四	100、(
鐵											
ミシガン、ウイスコンシン、ミネソタ	一、七七	九、三	一九、三	一六、九	一一、四	一五、七	、六	一、五	一、六	、六	100、0
アラバマ	五、四四	五九、九	二六、九	八、四	二、三	、六	、四	一、五	一	—	100、0
計	一、六〇一	二五、七	三、八	一四、一	八、四	一〇、七	二、四	一五、三	一、一	、四	100、0
銅坑ミシガン、テンネッシー	九〇四	四、七	三〇、四	二一、五	一六、四	八、二	七、四	五、二	一、六	、六	100、0
銅及金坑アリゾナ、ニューメキシコ、コロラド	六二	—	一二、四	一七、二	—	一〇、八	八、四	二八、六	九、一	一四、二	100、0
計	一、五一六	二、八	二三、八	二〇、三	九、八	九、八	七、四	一四、六	六、四	六、一	100、0

（挿畫省略）

此の一線

——「巢」より「住宅」へ——

江村曠邨



先づ是れを御覽なさい。（第一圖と第五圖）

是は、御覽の通り、鷲の巢と、私達と共同の祖先を有つてゐる「類人猿」の棲息所です。這は鷲の獰猛な性格相應に、又餘程人間化した叡智的な動物相當に、奈何にも頑丈に作られ、又は「居住」の前期とでもいふような、自然の樹蔭を利用した處にお目留められたい。

次に是れを御覽なさい。（第六圖）

是は申すまでもなく、現代の最も洗練されたる「住居」の一つです。

更らに、是れを御覽なさい。（第二、三圖）

是れは、考古家や建築家達が先刻御承知でをる一種の原始的な家屋で、前者は「ドルメン」、後者は「洞窟」と「モノリス」とです。

建築歷史の一頁も覗いた人達には、原始建築としての「ドルメン」や「洞窟」や、乃至「モノリ

ス」抔は、何も珍しい紹介ではありますまい。けれども、現代文化の燦ゆさを誇るお互が、永劫の彼方から、創造的な不斷の歩みを續け來たその一線を逆に辿つてみれば、建築家の所謂原始建築とは、餘程文化的なそれだ、と謂つても支障ありますまい。なぜならば、現代の文化人を以て誇る人間も、實は、「永劫」といふ不可知の過去から現代を創造し來たので

第一圖

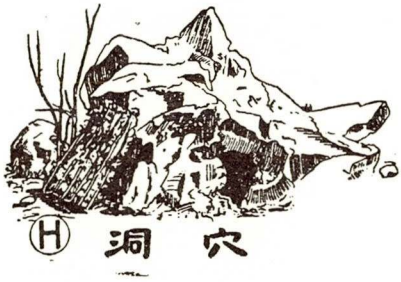


第二圖



Ⓕ ドルメン（サガイまちラエ附近）

第三圖



Ⓗ 洞穴

すから、只今お目に掛けた「鷲の巣」は、一且び私共の過ぎ來つた

「住居」なのです。粗枝第四を羅織してゐる斯の「驚の巣」圖も「ドルメン」の力學的な、「洞窟」の物理的な、其處は、廣い意味に於て、動物の進化線上に於ける叡智の閃きを窺はれます。故に、わたくしは云ひ度いのです、「ドルメン」や「洞窟」は、餘程進化した居住建築であり、その所謂原始人とは、實は文化的な歩みをもて、永劫な進化線上を辿つてゐた人であると。

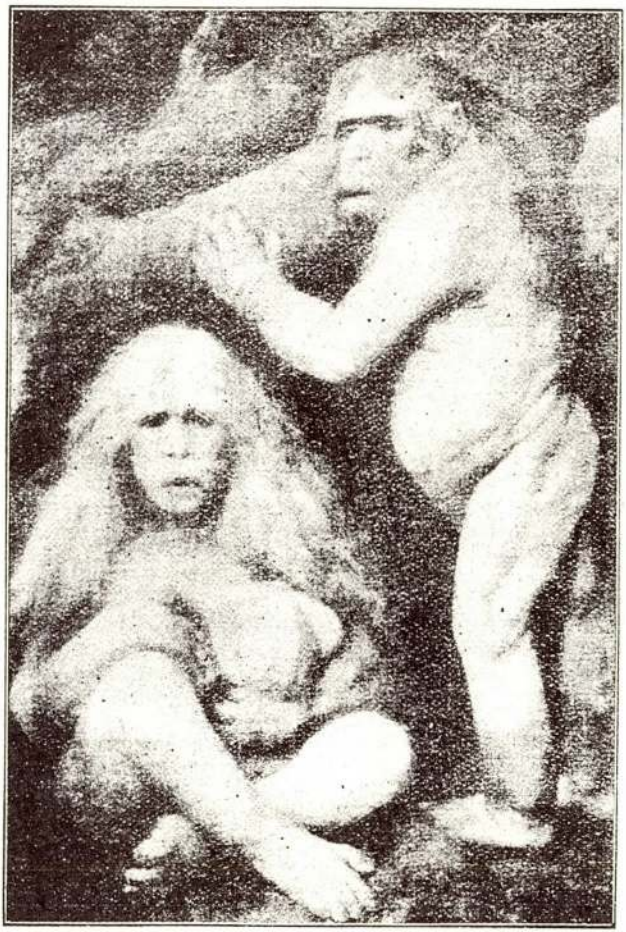

Ⓑモノリス
ブリタニーのロクマリアカ

人間の黎明期は、必ずしも、所謂原始人なるものに始まつたのではない。あけぼのの光りは、人間がまだ四ッん匍ひに地上を歩めるより、まだその先きにあつたのです。所謂「流動の哲學」又は「生命の哲學」と稱へられて、現代の哲學界に、一種の革命的衝動を與へた氏アンリー・ベルグソンの哲學は、生命の進化的流動の一方向として「叡智」なるものを示し、叡智とは物を創造するの力であることを云つて居ります。そうして、「驚の巣」も「ドルメン」も「洞窟」も「モノリス」も、勿論現代の文化的鍾粋の建築も、人間進化途上に於ける「叡智」の表現であり、「驚の巣」から現代の建築に到る斯の一線、即ち、永劫の彼方より永劫の彼方へ、無限に延長しつゝある斯の一線を畫く一點なりと觀れば、「驚の巣」と「ドルメン」の技巧は、現代建築物のそれと、その本質的價値に何の選ぶ處がありましよう?。私共は、「驚の巣」を彼れが世界のものとして嗤います、「ドルメン」や「洞窟」を粗野賤劣なものとして蔑みます。けれども永劫から延び來つて、永劫な彼方に無窮の延長を不斷に續けつゝある進化そのものは、幾萬載の後が、幾千載の先きなるか、兎にも角にも、現代の文化を訪る建築は、等しく、人間の過去に於ける「驚の巣」か乃至は「ドルメン」に外ならざるの時が來るでありましよう。それ程我等の叡智は久遠の將來を有つて居ります。

是れを御覽なさい。(第七圖)

是は、前に書いた氏アンリー・ベルグソンの「生命進化に於ける創造的運動の方向」を示したのです。氏ベルグソンは、本能と知性、即ち叡智に就いて斯ういふ意味な事を云ひました。「本能も知性も共に發明するが、本能は體内の機關を造り、知性は既に有るところの機關を用ひて器具を造る。人間の特色は、今日までの多くの哲學者がいつた Homo sapiens（知性を有する人）ではなくして、寧ろ Homofaber（物を造る人）であるといふべきである。人間が生じて以來、知性の中心たる特色は機械的發明力である。人間は道具を製作した事によつて大いに知性の發達をなした、動物も道具を發明するけれども其道具たるや凡て自己の身體に屬する機關（角、爪、嘴羽など）である。本能が充成して有機體的道具を作り、知性が完成して無機體的道具を作る。本能と知性とは、同じ一つ

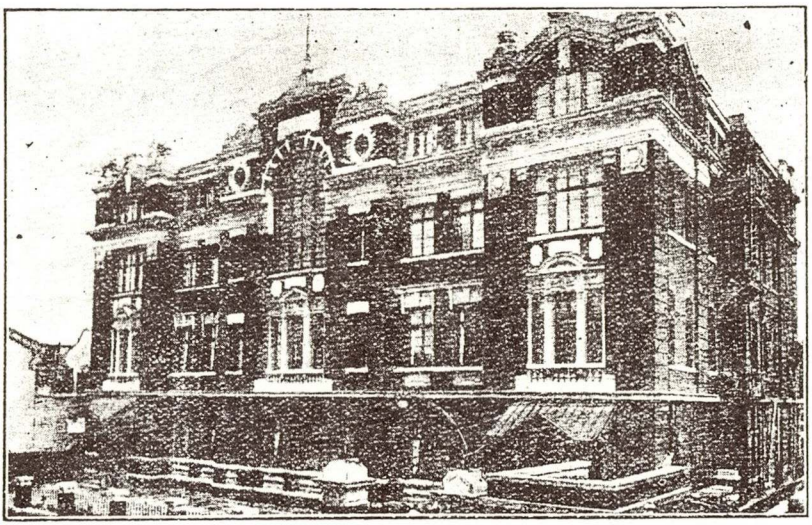
第五圖



の問題を解釋するために用ふる所の適當なる二種の能力である。この二種の能力が發達するに從つて益々相分かれるが、全く分れて了ふことはなく、人間に於ても幾らか本能が遺り、又動物に於ても幾らか知性が遺る兩方が同じ一つの動物（記者註、人間も）に於て同等の發達をするとは決してない。一方が充分發達する爲に他の一方の發達を差し措かねばならぬ。動物の心理上の發達に就いては本能に重きを置かれたが、人間の心理上の發達に就いては知性に重きを置かれた。』

（記者註、ベルグソン氏の大著「生命の創造的進化」又は「物質と記憶」等に同樣なる意味の記述あるも、今一々參照するの煩しきが故に、以上の敘記は、シドニー・ギュリック氏の「人類進化論」に據つた。）

第六圖

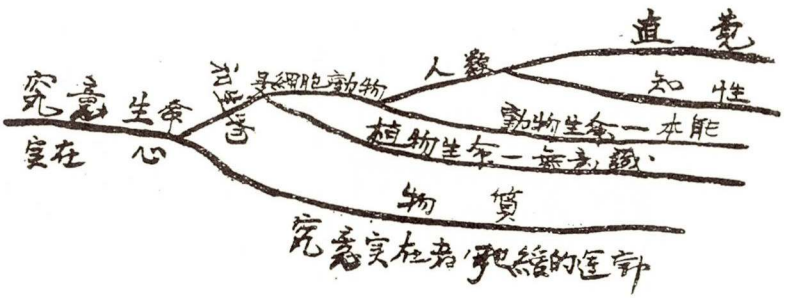


以上は、人類が――現代の文化人が、遠き昔、最初の生命より幾劫の歩みを續けて、ついに水の中へ這入り、幾世代の後に水より匍ひ上つて、爬蟲類と成り、殊に鳥類の一種と成り、ギボンやオランウータンやチンパンジーやゴリラと共同の祖先を有する動物と成り、所謂類人猿と成り、「曉の人」と成り、我れは今文明的機具を創造し、文化的思索に耽り、高級な生活に自らを負ふて居ります。斯の間

——然り幾億劫なる斯の間、本能と叙智、即ち機械的發明力は直線と曲線を畫き進み來つたのであります。云ひ換ゆれば、最も短い距離に於てすら、「鷲の巢」と現代建築には、紛ふ方なき一線を引いて居ります。

生命即ち私共文化人の劫遠な彼方から、今現に瞬間の憩ひなく歩みつゝあるその徑路を振り返つて見れば、大體に於て二つに分れて居ります。それは、氏ベルグソンに據れば、最初の單一な「生命」より二分岐した一線は、太陽の光線と水と空氣より滋養分を攝つて生活するの方法を見出し、隨つてそれの生活は靜止的と成り、他の一線は何處までも活動的と成つて、時を經るに隨ひ、斯の事實は、それ々々の心理にまで強い影響を及

第七圖



ぼして、竟に、前者は意識を喪つて昏睡狀態に陷り、後者は增々活動的と成つたので、前者は所謂動物であります。後者は所謂植物であります。けれども、等しく活動的躍進を遂げ來つた斯の一線即ち動物でも、節足動物と脊髓動物（人間も）は更らに心理的進化線が二分岐して、前者は主として本能に、後者は主として知性即ち叙智に進み來り、亦進み往きつゝあるのですが、斯の知性的なもの、最も進化してゐるのは私共人間殊に現代の文化人であります。斯くて、知性即叙智——は、機械的發明を爲し、道具を作り、物の組製體を創造するの本能とも云ひ得るのでありますから、現代に誇る建築は、斯の知性の發現でありつて、遠き昔の「鷲の巢」と、本質上そこに何の異りもありません。云ひ換ゆれば、私共人類が有する創造それ自體の一線に外なりません。

現代の「住居」は、餘程形而上化されて、勿論人間の單なる遁避所でもなく、必ずしも子孫を保育する場所でもない。それが藝術の一發現にしろ單なる科學の産物たるにしろ、それは、人間生活の「必要」又は「功利」といふ切り詰めた潤ひなき産物に止まるでなく、勿論それ以上な尊き慾求、功利に超越したる憧憬の要素を多分に含むで居ります、けれども、我等の久遠な過去は、一つの遁避所として、一つの隠れ場所として、主もに本能的な子孫保育の箇所として、その「必要」それ自體が、我等の『家』若くは『居住』を建設するの主要な動機であつたのです。而して、斯の『必要』は、水の中に世界を有つてゐる冷血動物にはなくして哺乳類と鳥類に在ります。なぜならば、彼等は温血なるが故です。而して、私共はその一つであり、鷲も亦同樣であります。斯くて、鷲は見らるゝ通りに頑丈な構造を有てる『居住』を作り、ついには、私共文化人を通じて、現代の雄麗煥美な建築を創めました。斯の一線は何處までも『環の兩端』で無限に繋つて居ります。現代文化萬載の後に於ける斯の一線の延長は、懐ふても、今我れを夢幻の境地に拉してゐるような心地致します。

冥想

昔、ある賢人が
空を通る星を見あげて
「淨界の盤は緩漫に運動するあい」
と仰つしやいました

東京建築界だより

文學士　黒田鵬心

丸之内ビルディングの色――東京會舘の餘興室と大食堂――帝國ホテルの一室――歌舞伎座の新築――外觀を日本風にする事の疑問――建築群としての美を破壊せざるか――日清生命の例――鐵骨鐵筋混凝土構造と日本風との矛盾――

口評判の丸の内ビルディングも愈々竣工して、多數の會社、個人事務所、商店、飲食店などが移轉した。私はまだ内部へ入つて見ないが、兎に角一個の建物としては現在に於いて東京第一、日本第一、而して東洋第一であらう。其の形は、海上ビルディングなどゝ同じく四角な箱みたいな建築であるが、色はやゝ赤みを帶びた黄色である。これは東京驛の赤煉瓦に對して調和をなし、白いよりは感じがよい。工業倶樂部ほど赤すぎない所がよろしい。内部は何れ拜見の上。愚見を述べやう。

口東京會舘の三階餘興室と、四階大食堂へ入つて見た。餘興室は、日本風の細部を使つてゐるが、これは日本の舞踊とか、日本音樂をやる時の調和を考へたのであらうが、西洋風の建築の中へ日本風の細部を使ふのはあまり感心したもので無い。一ツ橋の如水舘にも三階にあるが、如水舘の建築で最も面白くない部屋である。銀行倶樂部にも、網代などを盛んに使つた部屋があつたが、あれは西洋風に消化されてゐるので一寸面白いと思つた。

口東京會舘の餘興室は折上の格天井で、周圍の壁などにも純日本風の金具や彫刻などを用ひ、柱に金襴巻さへ施されてゐるが、大理石の柱に金襴巻も落付かないし、襴間の木彫もあまり感心しない

舞臺の前の小壁は少し低すぎて、舞臺の天地が狹すぎる。

□大食堂はルイ式としては淡白のもので、緩やかな半圓筒狀の天井も感じが惡くない。此の建築の外觀と比べても、帝劇の隣で地下相通じてゐる事から考へても相當に華やかでよいが現代の趣味ではない。私は他にあまり出來ない事を希望する。

□此の大食堂の宴會の歸途、丁度大阪から來てゐる友人を帝國ホテルに訪問して、其の對比の甚しいのに驚いた。第一玄關を入つた時の光るさが大變な違ひである。東京會館は明る過ぎる位であるが、帝國ホテルは少し暗すぎる。ホテルの建築は明る過ぎてはぶちこわしとなつて仕舞ふが、現在の明りでは少し暗すぎる。

□北側の二階の部屋であつたが、いくら日本人でも少し天井が低すぎる。さうして冬のヒーターは中々よく利くが、夏暑苦しいのは、天井が低くて窓が小さいので想像出來る。實際夏泊つた時は暑苦しくて困つたとの其の友人の話であつた。

□其の部屋の並んでゐる廊下は天井、壁、床とも色を合せて感じがよい。一般に帝國ホテルの色の感じは細かいところまで行屆いてよく出來てゐる何度行つても氣持がよい。

□東京會館の餘興室の樣に、鐵骨鐵筋混凝土の建物で、內部へ日本風の細部を用ふ許りでなく、外部へも日本風を用ひんとするのは新築の歌舞伎座である。これは工學士岡田信一郎君の設計によつて、去秋から工事にかゝつてゐたが、此頃はもはや鐵骨の組立が始まつた。まだ工事中で、骨組も出來ないものを、批評するのはちと早すぎるやうであるが、大分變つた建築であるから一言卑見を述べさして貰ひたい。

□歌舞伎座の新築は、設計者岡田君に聽く所では注文主たる松竹の要求と、警視廳の市街建築物法及び劇場取締規則とによつて種々の拘束が加へられてゐる。卽ち材料構造の方からは無論耐震耐火的であるべき事、內部は大部分椅子席で、舞臺は日本の舊劇に適し、しかも外觀は日本風にすることなどは其の主な點である。

□材料構造を耐震耐火的とする事、卽ち鐵骨鐵筋

混凝土構造の建築とする事は、都市の公共建築として當然であるが、外觀を日本風とする事には、議論の餘地がある。內部の舞臺で演ずるものが日本の舊劇であるからと云つて、外部までも日本風にする絶對的の必要があるであらうか。

口內部丈けならば他の建築とは直接の交涉がないから何式でもかまはない。東京會館で餘興室を日本風にしやうと、又純然室たる日本室があらうと一向差支ないが、外觀になると、他の建築との交涉があり、都市の美觀に大關係をもつて來る。若しそれが公園內であるとか、廣い庭園を有する獨立的の建築ならば簡單であるが、歌舞伎座の如く街路に面し、左右にも建築物が隣接してゐる所では、他の建築物との調和——都市の美觀といふ事も大に考へねばならぬ。

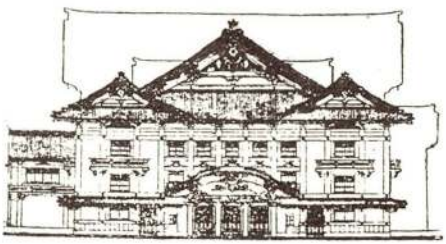
口街路建築は、一個々々の建築も無論美しくなくてはならないが、建築群としての美が一層重要である。たとひ一個としてはつまらない建築であつても、建築群として美しければ都市の美觀は成立つのである。馬場先門から鍛治橋の方を見た時に商業會議所始め三菱の建築がどれもあまり感心したものはないが、建築群としては相當に美しく見られるのは其の好例である口之れに反して日本橋通りなどは、六階七階の高層建築が所々にポツポツ建つので、以前二階建が軒を並べてゐた時よりも却つて建築群としての美が破壞されてゐる。單に高低ばかりでなしに樣式の方から不調和を極めてゐる。將來少くとも四階位の西洋風の建築が並んだ時に初めて日本橋通りて建築群としての美を成すであらう。今でも近江屋からあかち銀行、森村銀行まではや〻調和し、建築群としての美がある。

口樣式が大部分ルネッサンス式のところへ、ゴシック式やローマチスク式が交ちつても調和を害する場合が多いのに、日本風が混じたのでは大不調和を來た事になる。かの呉服橋內の日清生命の如きは其の例で、始め其の日本風の建築が出來た時には一寸面白いとも思つたが、今日のやうに近所に西洋風の、殊に米國式の四角な高い建築が澤山出來ると、誠に不調和で、日清生命の爲めに其の

附近の建築美が破壊されるやうな結果となりかけてゐる。

口同じく日本風でも、明治神宮の寶物殿の如きは獨立して離れた建築であり、且つ明治神宮の本社殿が純日本風なのであるから、却つて調和してゐるし、又、上野の東京美術學校の建築も、これは木造ではあるが、日本風であつても、公園の一隅であるから不調和ではない。

口歌舞伎座の場合は、現在は附近の建築物は殆んど總べて日本風か西洋風の假建築みたいなものがあるが、將來は必ず耐火的の三階以上の西洋風の建築になるであらう。その場合日本風の歌舞伎座は異彩を放つかもしれないが、附近の美觀を破る責任は負はねばならぬ。帝劇のやうに前は廣い道路を距てて濠に對し、左右も相當の空地を有して道路に接する場合ならば、



少しく異樣の樣式も惡くはないが、歌舞伎座の場所では全く街路建築の一つである。

口若し、飽まで舞伎座が日本風の形式をとりたかつたならば、現在の敷地を賣つて、他に獨立した敷地を求むればよかつたのである。有樂座の位置でも、歌舞伎座の現在の位置よりは獨立して居り從つて異つた樣式を取つても容し得る事になるであらう。

口歌舞伎座の場合は、今日なりて如何に抗議を申込んでも既に設計が決定し、鐵骨さへ立ち始めてゐたのであるから如何とも仕方がないが、今後同じやうな場合もある事であるから、一般に注文主に注意を願ひたい。又建築家も此の點に注意し、注文主に忠告して貰ひたい。歌舞伎座の場合も岡田君から一應其の忠告が發せられて欲しかつた。

口次には鐵骨鐵筋混凝土構造で、日本風にする事にも大なる疑問があり、實際の困難があると思ふ云ふまでもなく、建築の構造は材料に支配せられ構造によつて樣式が制限されるのであるから、木を材料とし、楣式構造によつて成立つてゐる日本

風を、鐵骨鐵筋混凝土構造によつて現はす事には困難が伴ふのが當然である。

□鐵骨には彎曲する可能性があり、混凝土は型によつて如何なる形にも作られるが、それは表面の事で、如何に混凝土で巧に日本風を作つても、日本建築の精神を現はす事は不可能である。美は現はし得るかもしれないが、それは趣の違つた美である。違つた美でも現はし得ればよいが、それが中々困難の仕事だと思ふ。

□美術品は大は建築から小は工藝品、小美術に至るまで材料の選擇が最初の重要な條件である。しかも材料そのものゝ有する表現は、飽まで最後までも存在するものである——これを強いて被へば材料を僞つた作品となり、美の一條件を失ふ事となる——木材なら木材、煉瓦なら煉瓦の表現は、竣工後まで存在する。

□鐵骨鐵筋混凝土構造の建築で、眞に日本風を現はすには全部木材で被はない以上は出來ない事である。歌舞伎座の内部はすべて檜材で被はれるやうであるが、さうして始めて日本風の感じが出るのである。併し外觀はさうはゆくまい。而して内部丈けならば外觀が西洋風であつても、日本風に出來るのである。左樣すると内外不相應となるが前に述べた街路建築としての美には役立つ譯である。即ちこゝに一つの矛盾が生ずるのである。それは要するに何處かに無理がある證據である。

（二月二十三日、於東京青山居）

木の芽あへ
あるに行厨
春めける

巣の中より

芦田秋双

▼青空高く囀つてゐる雲雀が、ツト下りてきてあの廣々とした麥畑、然かも青々とした同じ畷で然かも同じ樣な麥の中を間違ひもなくよく自分の巣へ歸る事が出來るものだ、どこに目印があるのであらうかと、不思議に思ひつゝ、郊外から自分の家へ歸つた私は、廣い大阪の然も同じやうな瓦屋根葺の家の並んだ中を間違はずに自分の家へ歸ることを得た事によつて、成程と合點させられたのであつた。

▼私は毎日順慶町の某商會へ通勤してゐる。今迄放縱な新聞記者生活に慣れた私は、朝から夕方迄机の前にキチンと釘付けされてゐることが、堪らなく苦痛である、自宅から直ぐ電車でその商會へ出勤するといふ事が餘り無趣味であるので、毎日梅ケ枝町の宅から徒歩するのである。

そして樹木を慕ふ心から、若松町の判檢事の官舍のある。前を通つて鉾流橋を南へ公會堂の北側の川沿ひの公園を西へ、豊國神社の境内を抜けて淀屋橋を渡り、西横堀を南して座摩神社を抜け、難波神社を横切つて初めて店へ行くのである。隨分迂回した路を行くと或は嗤ふかもしれぬが、そうして行くと比較的多く樹木を見る事が出來る。それが日々無趣味な事務に追はれてゐる自分にとつては非常な慰藉になるのである。麗かな春光を浴びて日々青くなつてゆく公園の若芝春風に搖れつゝ綠に染まつてゆく横堀河岸の柳、爛漫と咲き亂れた南御堂前の櫻などを見るのは實にうれしく、そしてまた野山で見るそれと違つた面白味がある。そんな時は一日頭がよいが、若し時間がなくて家具屋ばかり軒

を並べた井池筋や荷車や自轉車の交通頻繁な心齋橋筋を通つて出勤した日は一日不愉快である。これを見ても如何に街路樹といふものが單に都市としての美を添へるばかりでなく、人の心を緩和する上に於ても必要である事がわかる。

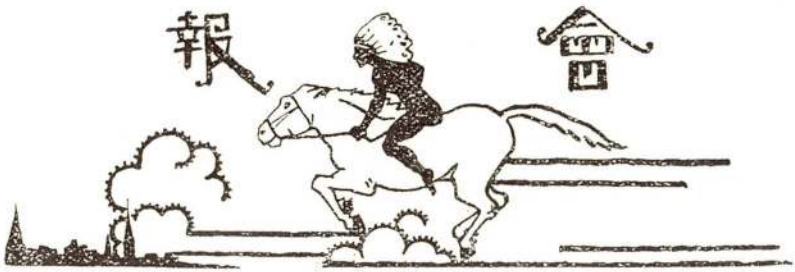
▼現在の私の家は住宅といふよりも寧ろ巢と稱する方に近い。玄關兼臺所兼食堂が三疊、座敷が四疊半、二階が二疊と四疊半、庭と云つたら一坪もない。壁落ち、疊破れて晝間薄暗い頗る非衞生的な家であるが、家賃丈は人並に二十五圓である。鳴尾からそこへ引越して來たのは七年前で、一寸當分の間といふので、無論氣に入らぬ乍ら住まつたのであるが、その中に小さかつた子供が成長する、二人しかなかつた子供が五人になるといふ有樣で、たいさへ狹い家が、ハチ切れる程になつた。いくら轉宅しやうと思つて空家を探しに歩いても、「貸家」であつて「非貸家」といふ不思議な空家ばかりなのでやむなく上古時代の穴居をつゐけてゐるので、夫れを思ふと宅に飼つてゐる頰白の方が遙かに廣い邸宅に住んでゐるのが羨しくなる。

▼子供の爲には借金しても廣い家に住まねばならぬといふ事を仲小路廉が嘗て云つた事があつた私もその說に共鳴したわけではないが、此度住宅組合が許可になつて政府から金を借りて愈々鶴町へ家を建てる事になつたが、扨かうなると色々の希望が出てナカ〳〵その設計に骨が折れる。それがいくら費用が要つても差支へないのであれば容易な事であるが、何しろ四千圓足らずの金ではナカ〳〵自分の理想通りの家は出來ないが、まあ現在の巢より見れば幾分か、ましなものが出來る、家は小さくとも二階へ上れば洋々たる海が見晴せる丈によからうと思ふ。然し埋立地だけに樹木のないのが頗る遺憾であるので、新築披露宴に招待する友人達に各自一木宛樹を持參して貰つて、庭へ手植して貰ふ計畫を立てゝゐる。それには一々何某手植といふ札をつけて置いて、若し後日その樹が枯れたら代りの木を持參して貰ふ事にすれば頗る都合がよいが、

▼私の知つてゐる俳人に、三砂といふのがある、京町堀でメリヤス工場の主人で、一日ガラ〳〵となる機械の音に慌しい生活を送つてゐる殊にさのみ廣くもない家の中は品物が山積されて膝を容るゝ處もない程であるに不拘、その庭は頗る廣濶たるものであつて、鬱蒼と茂つた木立があり池があり・四阿迄ある、殊に不思議なのはまだ梅も咲かないのに、櫻が早や咲いてゐるので、オヤと思つてよく〳〵見ると、ソレは隣の家の防火塀の赤煉火を隠す爲めに、油畵の庭が一面に描かれてあつたのであつた。

春寒を弓引く腕の響かな

春寒の風に芽麥の光りかな



會合

○臨時理事會

△日　時　二月三日午後六時三十分　十時
△會　場　本協會々議室
△出席者　池田、中西、野呂、宮本、內藤佐藤、西谷(書記)
△議　事　一、防火宣傳展覽會に關する件
二、交涉顧問に關する件
三、會員增加に關する件
四、例會に於ける講演に關する件
五、第二回家庭博覽會出品をなすの件
六、會員銓衡其他種々協議す

○理事會

△日　時　二月十日午後七時—十時
△會　場　本協會々議室
△出席者　池田、野呂、宮本、佐藤、西谷(書記)
△議　事　一、理事會定例日に關する件
二、各種委員會の設置に關する件
三、講習會開設に關する件
四、二月例會に關する件
五、雜誌廣告料に關する件其他協議す

○臨時理事會

△日　時　二月十九日午後五時—六時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　池田、內藤、佐藤、片岡、野呂本田、西谷(書記)
△議　事　一、理事會定例日に關する件
二、各種委員會の設置に關する件
三、講習會開設に關する件
四、雜誌廣告料に關する件
五、會員銓衡其他協議

○材料委員會

△日　時　二月二十一日午後五時—八時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、小笠原、谷、須川、吉木西谷(書記)
△議　事　一、建築材料聯合調査會より送附の木材規格統一案に付案中一部改定し提出す其他種々協議す

○例會

△日　時　二月十九日午後　時—時
△會　場　大江ビルデイング大廣間
△出席者　(會員)片岡安氏、池田寶氏、內藤太郎氏、本田登氏、佐藤彰美氏、野呂長四郎氏、宮本長治氏城戸武男氏、澁谷五郎氏、橋本

舜介氏、岡本新次郎氏、森正藏氏、園部文雄氏、竹中景一氏、鈴木與五郎氏、土居原龜之助氏、八尾德太郎氏、天羽六郎氏、森本藤吉氏、中川彌八氏、小笠原銅氏、近澤武男氏、松井角平氏、和田貞治郎氏、久保田繁亮氏、井上新二氏、谷民藏氏、高柳宗一氏、中川廣氏、小西一夏氏、池村元之助氏、小寺嶺一氏、森篤次郎氏、三谷萬三氏、富永眞一氏、木村梅次郎氏、河合貞一郎氏、西脇香太郎氏、菅源之助氏、久保福次郎氏、中村琢治郎氏、近藤菊松氏、安部萬助氏、楠瀨徹氏、片岡勇夫氏、宮崎治三吉氏、

（普通贊助員）岡本五郎氏、尾田大和氏、安部文雄氏、宮崎嘉平氏、上瀧辨吉氏、黑瀨政雄氏、山本潔氏、武安笑吾氏、渡邊勝二氏、大橋久吉氏、高岡與三氏、西谷（書記）

（普通贊助員）方米治郎君、南部一巳君、鹽崎政雄君、石田晴治君、山村善重君、野村伸君、野中實君、山田孝君

○新　入　會　員

（會員）宮崎治三吉君、松江秀季君、朝永國次郎君、勝田元泰君、羽原德衛君

○住　所　移　轉

藤井今三君、大阪市西區南堀江下通り一丁目二九、岸本日出次郎君、大阪市西區靱南通り五丁目都市計畫地方委員會內

安井武雄君、兵庫縣武庫郡御影町字篠坪一七〇四

○退　會　者

（普通贊助員）上野佐一君、福井義長君

△案件

一、池田理事長先づ開會を宣し、今回より例會に於て有要なる講演を催すことゝなりたる旨を述べ、畢つて、今回の講演者たる宇治川電氣株式會社技師工學士佐立健雄氏を紹介し、氏は「電熱應用に就いて」と題し約四十分間に亘りて講演あり次いで池田理事長の紹介に依り大林組技師本田登氏の「ほうろうたいる」と「てらこッた」の積力に就いてと題する講演あり

以上孰も有益なる講演として、滿場靜肅熱心に傾聽し中にはその要點を筆記せる者等ありて、前條約一時間半に亘る講演は最も成功を以て畢れり。

講演畢りて、內藤主記より、（イ）防火宣傳展覽會の講演に參加（ロ）防火宣傳號を三千六百部發行（ハ）防火宣傳デーに耐火構防建築物の標示（ニ）新入會員氏名紹介（ホ）現在全會員數（ヘ）本年も引續き講會の開催等に就いて詳細なる報告あり

三、更らに、野呂編輯理事より、本會雜誌「建築と社會」の現狀と希望に就いて詳細なる報告あり。

四、畢つて、池田理事長より（一）先日御用狀を齎した中に、交涉團體の事を申上げしが今一應申述べむとて、全體の事業は會員各自によつてなさるべき事と、會員全體は會の事業に努力すべくその基本として會員が寄り〳〵一小團體を拵へて共同の歩調を取る事、更らに、各種の委員會を復興したき考へなるが、斯る場合にも、件の交涉團體によりて適當なる人を推擧するようにせば頗る便宜なり、故に先づ一團體十名以上として、今夕御出席の各位が取り敢へずその發起人として努力されたし。出來得れば、各團體名と團員の氏名を至急御承知に預りたし又或關係上一人にて兩團體に關係さるも差支へなし。（二）協會は今回事務室を擴張して、一方は建築材料の陳列場と會議室を兼ねしめあるが故に、之を交涉團體等にて利用されて差支へなし。尙ほ進むで例へば土曜日等に件の室を利用して、會員が隨時歡談をなし、會員と會との接觸を今一段と親密ならしめたし。

以上の希望を述べられて會衆の贊同を得たり。茲に二月例會も首尾よく畢りを告げて閉會。

役員及職員

副會頭片岡安
理事池田實（理事長）
理事本田登
理事竹腰健三（編輯）
理事内藤太郎（主記）
理事中西其作（編輯）
理事野呂長四郎（編輯）
理事舟橋喜一（主計）

理事 佐藤彰美
（副）宮本金七
理事 設樂貞雄
（副）江村郊郎（主計）
（庶務主任）西谷節
會計 山田靜吾
（庶務）清川伊佐（編輯）
伊藤二世子

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長 片岡安
幹事長 葛野壯一郎
常務幹事 波江悌夫
常務幹事 小笠原銅吉
幹事 木本萬象
幹事 松本久吉
幹事 舟橋喜一
幹事 瀨戸文吾
幹事 西谷節
書記 山田靜吾

會員	二四二
名譽贊助員	六七
特別贊助員	二五
合計（二月二十日現在）	八八四
會員（地方）	八八
終身贊助員	五七
普通贊助員	四〇五

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

（毎月壹回一日發行）

大正十二年二月廿五日印刷
大正十二年三月一日發行

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人 江村恒一
大阪市東區内淡路町一丁目廿一番地
兼印刷人 江村恒一
印刷所 大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所 日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店 柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座 二〇八四番

特別會告

第三回講習會開催

本協會ハ既ニ本會ノ事業トシテ幾多ノ施設ヲ實行シ、着々堅實ナル發展ヲ遂ケ來レリ、殊ニ方今ノ時務ヲ鑑ミルニ建築教育ノ急要ナル多言ヲ俟タス、故ニ昨春第二回講習會ヲ催シ非常ナル好成蹟ヲ擧ケタリ、今回更ニ第三回講習會ヲ開催シ以テ諸君ノ修養ニ資セントス、幸ニ本會ノ主旨ニ熱心ナル御賛同ヲ得ムコトヲ望ム

追テ聽講希望者ハ左記次第書及聽講規程通覽ノ上三月十五日迄ニ本協會事務所宛申込アリタシ、尚會場ノ設備ニ限リアルヲ以テ申込者滿員ノ節ハ遺憾ナカラ謝絶スルコトアルヘシ

大正十二年二月

日本建築協會

第三回講習會次第書

一、會　　期　自大正十二年三月二十日至同三月三十一日（十日間）——自午後七時至午後九時半（二時間半）

二、會　　場　大阪市立工業學校內

三、課目及講師

イ、鐵筋コンクリート强度計算法……伊藤正文君

（スラブ、梁、柱等ノ局部ニ付テ實用的計算法）

ロ、鐵筋コンクリート施工法……工學士　增田清君

ハ、建築法規……工學士　池田實君

工學士　中澤誠一郎君

（建築法規解釋上特ニ誤リ易キ諸問題及實際問題ト關聯シテ法規上ノ解釋）

（備考）前記講師課目及會場ニ支障起リタル場合ハ變更スルコトアルヘシ

第三回講習會聽講規程

一、聽講申込書ハ本協會事務所ニ之ヲ備フ申込ノ際ハ本協會會員及賛助員ハ其ノ旨特記スルヲ要ス

二、聽講者ハ左記ノ規定ニ依ル聽講料ヲ納入スルヲ要ス

本協會會員及賛助員　聽講料　金參圓

外來聽講者　聽講料　金五圓

但シ講義用印刷物ハ無代配布スルコトアルヘシ

三、聽講料ハ三月十九日迄ニ本協會へ拂込ヲナスヘシ、聽講料納付者ニハ聽講券ヲ交付シ領收證ニ代フ

但シ聽講料ハ事情ノ如何ニ拘ラス拂戻ヲナサス

四、講習會出席者ハ聽講券ヲ携帶スルヲ要ス

聽講券ハ他人ニ之ヲ貸與スヘカラス

五、聽講完了者ニハ請求ニヨリ聽講修了證ヲ交付ス

追　記

講習會時間割ハ別ニ之レヲ定ム

以　上

第六集第三号　掲載広告一覧（掲載順）

内外木工所
内田商事
佐倉金庫店
耐圧陶管製造販売所
阿部鉄工所
ユーニオン、トレーヂング、
　コムパニー
特許エレベーター製作所
南満鉱業
島田硝子製造所
東洋大華石工作所
石綿スレート
吉岡商店
山本東作商店
広瀬商会
川北電気企業社
山中商会

足田鉄工所
石川工業所
大福海上火災保険
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所

柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所

野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
清水組大阪支店
森本建築社
銭高組
清水福太郎
川谷組
田村東京事務所
田村神戸事務所
久原鉱業大阪出張所

山田大理石製作所
矢橋大理石商店
沖電気
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
川崎工場
砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
高島屋呉服店
コルク工業

鈴木製作所
品川白煉瓦
浅野工業所
関西ステンドグラス製作所
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
山田組
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
米本栄商店
田中タイリング商会
淡陶
浜口商店
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
住友製銅販売店
住友東京販売店

岩崎商業
日本工剤
小野田セメント製造
西孫南店
東洋リノリユーム
小山建築鉄工所
木下商店
塩崎商会
下里商店
米山浅治商店
バグナル、エンド、ヒレス大阪出張所
高島屋呉服店
梅原組
鳥井清一商店
梶川鴻太郎商店
今井徳太郎商店
日本建築協会
東京電気

大阪窯業
桐田商会
旭硝子
日本建築紙工大阪出張所
吉岡商店
日米工務所
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東板硝子工業
